徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第70集

寺　山　遺　跡

広域基幹河川改修（園瀬川）事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書

《第１分冊　本文編》

２００７

徳　島　県　教　育　委　員　会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第70集

寺　山　遺　跡

広域基幹河川改修（園瀬川）事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書

《第１分冊　本文編》

２００７

徳　島　県　教　育　委　員　会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

調査地点遠景（東より左上が寺山）

一括大量出土銭（西より）

巻頭図版 2

白磁水注

序　　文

本書は、広域基幹河川改修事業（園瀬川）で平成14・15年度に実施された徳島市寺山遺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本遺跡は、徳島市八万町寺山に所在し、園瀬川右岸の標高約4.5mの沖積地上に位置しており、本遺跡の西に位置する独立丘陵の寺山には、平安時代創建の金剛光寺が所在していたといわれ(『八万村史』1935）ている地域です。

調査の結果、古代寺院の存在を直接的に示す遺構・遺物は確認できませんでしたが、集落が金剛光寺のあったとされる寺山を中心に大きく発展していた様子がうかがえました。なかでも中世(鎌倉～室町）の遺構面では、一括大量出土銭（埋納銭）が確認され、注目を集めました。約3,700枚に及ぶ銭貨の埋納状態を詳細に記録することができました。この大量出土銭は、本県では発掘調査時に確認され、現地において詳細な調査成果を得た初例となりました。出土状態の剥ぎ取りも実施し、レプリカを作製することができました。

また古墳時代の竪穴住居跡が多数出土し、当該期の集落が展開していたことが確認されました。眉山、園瀬川を挟んだ対岸に位置する向寺山あるいは気延山など、園瀬川・鮎喰川流域に接した尾根上には多数の古墳群が築造されており、それら古墳群を築造した集団との関係が注目されます。本書が調査研究の資料として活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査・報告書の作成にあたり、関係諸機関ならびに地元の皆様に多大の御援助、御協力を頂き、さらに関係各位には貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げると共に、今後も当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

平成20年３月

財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
理事長　　佐　藤　　勉

例　　言

1．本書は平成14年度（2002年度）～平成15年度（2003年度）に実施された広域基幹河川改修事業（園瀬川）関連の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本書には、寺山遺跡の調査成果を収録した。

3．発掘調査は、徳島県土木事務所河川砂防課から徳島県教育委員会が委託され、徳島県教育委員会からの再委託により、財団法人　徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

4．発掘調査および報告書の作成についての実施期間は次の通りである。

発掘調査

平成14（2002）年度

調査期間　平成14年４月１日～平成15年３月31日

調査面積　10,128㎡（延べ調査面積　23,631㎡）

平成15（2003）年度

調査期間　平成15年４月１日～平成15年８月31日

調査面積　3,972㎡（延べ調査面積　8,800㎡）

整理業務・報告書作成

平成16年４月１日～平成20年３月31日

5．挿図番号・表番号・写真図版番号は原則的に通し番号とした。ただし、遺物番号については図幅ごとに独立して番号を記し、観察表等の表記は123－１（第123図の１）とした。また、出土遺物等の観察表については文末に記載した。観察表中の含有物組成は、石（石英）・長（長石）・雲（雲母）・赤（赤色班粒）で略した。

6．第４図　調査地と周辺の遺跡（１/50,000）に用いた地形図は、国土交通省国土地理院発行の１/50,000「徳島」「川島」の地形図を転載した。

7．遺構の表示は財団法人　徳島県埋蔵文化財センターが定める略記号を用いた。またＥではじまる遺構略記号（EK･EP 等）は遺構内遺構を表す。

凡例

SA 掘立柱建物跡　SB 竪穴住居跡　SC 銅製品埋納遺構　SD 溝・段状遺構　SG 畦畔
SH 炉跡　SI 水田・畑　SK 土坑（壙）　SL 池・池状遺構　SM 古墳　SP 柱穴・小穴
SR 自然流路　ST 墓（無墳丘墓）　SX　性格不明遺構

8．遺構番号および調査区グリッド配置等は整理作業の混乱を避けるため、原則的に調査時の所見を基に使用した。また６区とした調査区出土遺構についても上記の理由により、調査時の所見を基に使用した。

9．方位は国土座標第Ⅳ系の北、高さは東京湾標準潮位（T.P.）を表す。

10．本書で用いた土層および土器の色調は、小山正忠・竹原秀夫　編『新版　標準土色帳』日本色研事

業株式会社　1967年（第１版発行）による。

11. 発掘調査・報告書作成に際しては、次の方々の御指導・御協力を得た。（順不同・敬称略）
徳島県教育委員会・徳島県文化財保護審議委員会・徳島県土木事務所河川砂防課・京都科学株式会社・高妻洋成・佐藤昌憲

12. 本書の執筆は次の通りである。
Ⅰ～Ⅲ　原　芳伸　　Ⅰ－（１）　辻　佳伸　　Ⅱ　安倍崇志
各章の構成はそれぞれの執筆者が担当した。Ⅲ－３の科学分析の成果報告は各委託業者が執筆した。

13. 本書に収録した写真は、調査状況は各調査担当者、遺物写真は原　芳伸が撮影した。また航空写真は株式会社　航空撮影センター撮影のものを用いた。

14. 本書で遺跡名は平成14年４月段階の当該事業に係る埋蔵文化財包蔵地の取り扱い名称に拠る。

15. 全体の構成・編集は原が行った。

16. 本書に収録した遺物および図面・写真などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番２に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターに保管されている。

本　文　目　次

Ⅰ　調査と整理にいたる経緯
1　広域基幹河川改修事業（園瀬川）の調査に至る経緯……3
2　広域基幹河川改修事業（園瀬川）の調査と整理の経過……4
(1)　寺山遺跡における整理の経過……4
3　寺山遺跡における調査の経過……6
(1)　調査の経過……6
(2)　発掘調査の方法……8
(3)　寺山遺跡調査日誌抄……8

Ⅱ　調査地点の立地と環境
1　地理的環境……13
(1)　遺跡の位置……13
2　歴史的環境……13

Ⅲ　調査成果
1　基本層序　トレンチ配置状況と土層堆積状況……23
2　遺構と遺物……27
(1)　第１遺構面（鎌倉時代後半～室町時代）……53
(2)　第２遺構面（鎌倉時代）……163
(3)　第３遺構面（平安時代）……399
(4)　第４遺構面（古墳時代後期）……428
(5)　第５遺構面（弥生時代後期～古墳時代前期）……472
(6)　６区の遺構（03調査）……499
(7)　包含層出土遺物……540
3　自然科学分析成果……562
有機質分析（緡）……562
樹種同定（田舟）……566
金属成分分析（和鏡）……569
4　まとめ（遺構・遺物の検討）……573

報告書抄録……997

巻頭図版目次

巻頭１　上　調査地点遠景（東より：左上が寺山）
　　下　一括大量出土銭（西より）
巻頭２　白磁水注

挿　図　目　次

Ⅰ　調査と整理にいたる経緯 …… 1
第１図　寺山遺跡の位置 …… 4
第２図　グリッド配置および調査区位置図（S＝１/2,000）…… 7
Ⅱ　調査地点の立地と環境 ……11
第３図　調査地点位置図（S＝１/4,000）……14
第４図　調査地点および周辺の遺跡（１/50,000　徳島・川島）……15
Ⅲ　調査成果 ……21
第５図　模式柱状土層図 ……24
第６図　トレンチ土層断面図１ ……25
第７図　トレンチ土層断面図２ ……26
第８図　第１遺構面　遺構配置図１ ……31
第９図　第１遺構面　遺構配置図２ ……33
第10図　第１遺構面　遺構配置図３ ……35
第11図　第１遺構面　遺構配置図４ ……37
第12図　第２遺構面　遺構配置図１ ……39
第13図　第２遺構面　遺構配置図２ ……41
第14図　第２遺構面　遺構配置図３ ……43
第15図　第３遺構面　遺構配置図１ ……45
第16図　第３遺構面　遺構配置図２ ……47
第17図　第４遺構面　遺構配置図 ……49
第18図　第５遺構面　遺構配置図 ……51
第19図　SC1001・1002平・立・断面図 ……55
第20図　SC1001周辺平面図 ……56
第21図　一括大量出土銭　拓影銭種１（S＝１/１）…57
第22図　一括大量出土銭　拓影銭種２（S＝１/１）…58
第23図　一括大量出土銭　拓影銭種３（S＝１/１）…59
第24図　SC1001出土遺物 ……60
第25図　SC1001・1002出土遺物 ……61
第26図　SD 出土遺物（1001・1003・1004）……65
第27図　SD 出土遺物（1005・1006・1007・1009・1014・1016・1017）……66
第28図　SD 出土遺物（1018・1019）……67
第29図　SD 出土遺物（1022・1025・1031）……69
第30図　SD1032出土遺物１ ……71
第31図　SD1032出土遺物２ ……72
第32図　SD1033出土遺物１ ……73
第33図　SD1033出土遺物２ ……74
第34図　SD 出土遺物（1034・1035）……75
第35図　SD 出土遺物（1036・1037・1038）……76
第36図　SD1039出土遺物 ……77
第37図　SD1040出土遺物 ……79
第38図　SI 出土遺物（1002・1004・1005）……82
第39図　SI・SG 出土遺物（1006・1007・1009・SG1009）…83
第40図　SK 出土遺物（1008・1016・1024・1034・1036・1082・1083・1090・1091・1093・1098・1103）…87
第41図　SK 出土遺物（1105・1111・1133・1139・1140）…88
第42図　SK 出土遺物（1141・1142）……90
第43図　SK 出土遺物（1143・1145）……91
第44図　SK 出土遺物（1147・1148・1154・1170・1172・1177・1179・1185）……94
第45図　SK 出土遺物（1186・1188・1189）……95
第46図　SK 出土遺物（1191・1196・1197・1198・1199・1200・1201・1204・1210・1211・1212・1214・1215・1216）……100
第47図　SK 出土遺物（1218・1223・1228・1237・1239・1249・1253・1268・1270）……103
第48図　SK 出土遺物（1279・1282・1283・1285・1292・1295・1296・1298・1299）……104
第49図　SK 出土遺物（1302・1306・1307・1308・1309）…108
第50図　SK 出土遺物（1310・1311・1313・1315・1317）…111
第51図　SK 出土遺物（1318・1320・1323・1324・1326・1327・1328）……114
第52図　SK 出土遺物（1330・1336・1338・1340・1343）…115
第53図　SK 出土遺物（1344・1348・1349・1350・1353）…117
第54図　SK1354出土遺物 ……118
第55図　SP1215平・断面図 ……119
第56図　菊花双鳥鏡拓影・実測図……120
第57図　SP 出土遺物（1029・1064・1070・1101・1231・1310・1338・1356・1408・1411）……123
第58図　SP 出土遺物（1431・1449・1450・1521・1536・1566・1568・1601・1606・1617）……126
第59図　SP 出土遺物（1620・1621・1629・1634・1643・1644・1645・1650・1655）……129
第60図　SP 出土遺物（1658・1689・1813・1829・1859・1888・1890・1894・1899・1907・1917・1929・1930・1950）……134
第61図　SP 出土遺物（1951・1956・1962・1968・1972・1973・1974・1983・1990・1994・1997）……138
第62図　SX 出土遺物（1001・1002・1003・1004・1005）…141
第63図　SX 出土遺物（1007・1008・1009）……142
第64図　SX1012出土遺物１ ……144
第65図　SX1012出土遺物２ ……145
第66図　SX1013出土遺物１ ……146
第67図　SX1013出土遺物２ ……147
第68図　SX1013出土遺物３ ……148
第69図　SX1018出土遺物 ……149
第70図　SX 出土遺物（1019・1021・1022）……150
第71図　SX 出土遺物（1029・1030・1032）……151
第72図　SX1034出土遺物１ ……153
第73図　SX1034出土遺物２ ……154

第74図　SX1034出土遺物３……155
第75図　SX1035出土遺物……156
第76図　SX 出土遺物（1036・1037）……159
第77図　SX 出土遺物（1038・1039・1040・1041）……160
第78図　SX 出土遺物（1042・1043）……161
第79図　SX 出土遺物（1045・1046・1047）……162
第80図　SR 出土遺物（2001・2002）……164
第81図　SD2001断面図１……166
第82図　SD2001断面図２……167
第83図　SD2001出土遺物１……168
第84図　SD2001出土遺物２……169
第85図　SD2001出土遺物３……170
第86図　SD2001出土遺物４……171
第87図　SD2001出土遺物５……172
第88図　SD2001出土遺物６……173
第89図　SD2001出土遺物７……174
第90図　SD2001出土遺物８……175
第91図　SD2001出土遺物９……176
第92図　SD2001出土遺物10……177
第93図　SD2001出土遺物11……178
第94図　SD2001出土遺物12……179
第95図　SD2001出土遺物13……180
第96図　SD2001出土遺物14……181
第97図　SD 出土遺物（2002・2004・2005）……183
第98図　SD 出土遺物（2007・2010）……184
第99図　SD2012出土遺物１……186
第100図　SD2012出土遺物２……187
第101図　SD2012出土遺物３……188
第102図　SD2012出土遺物４……189
第103図　SD2012出土遺物５……190
第104図　SD2012出土遺物６……191
第105図　SD2012出土遺物７……192
第106図　SD2014出土遺物１……193
第107図　SD2014出土遺物２……194
第108図　SD 出土遺物（2015・2017・2018・2021・2024・2025・2026・2028）……197
第109図　SK 出土遺物（2002・2006・2008・2012・2024・2025・2027・2028・2029・2031・2032）……200
第110図　SK 出土遺物（2034・2037・2038・2039・2042・2043・2053・2056・2058・2065・2072・2080・2081）……203
第111図　SK2084出土遺物……205
第112図　SK 出土遺物（2090・2091・2092・2093・2096・2097・2100・2103・2107・2108・2110・2116・2117・2120）……213
第113図　SK 出土遺物（2122・2123・2125・2129・2130）……214
第114図　SK 出土遺物（2131・2145・2146・2149・2158・2165・2180・2187・2199・2211・2217・2220・2225・2229・2230・2236）……215
第115図　SK 出土遺物（2245・2246・2257・2283・2286・2290・2293・2295・2307）……219
第116図　SK 出土遺物（2309・2310・2322・2325・2327・2337・2338・2340）……220
第117図　SK 出土遺物（2341・2343・2344・2348・2352）……225
第118図　SK 出土遺物（2360・2366・2368・2369・2370・2371・2373）……226
第119図　SK 出土遺物（2374・2380・2382・2384・2388・2389・2392・2398・2401）……227
第120図　SK 出土遺物（2402・2406・2407・2409・2410・2411）……228
第121図　SK2403平・断面図……230
第122図　SK2403出土遺物１……231
第123図　SK2403出土遺物２……232
第124図　SK2403出土遺物３……233
第125図　SK2403出土遺物４……234
第126図　SK2403出土遺物５……235
第127図　SK2403出土遺物６……236
第128図　SK2403出土遺物７……237
第129図　SK2403出土遺物８……238
第130図　SK2403出土遺物９……239
第131図　SK2403出土遺物10……240
第132図　SK2404平・断面図……242
第133図　SK2404出土遺物１……243
第134図　SK2404出土遺物２……244
第135図　SK2404出土遺物３……245
第136図　SK2404出土遺物４……246
第137図　SK2404出土遺物５……247
第138図　SK2404出土遺物６……248
第139図　SK2404出土遺物７……249
第140図　SK2404出土遺物８……250
第141図　SK2404出土遺物９……251
第142図　SK2404出土遺物10……252
第143図　SK2404出土遺物11……253
第144図　SK2404出土遺物12……254
第145図　SK2404出土遺物13……255
第146図　SK2404出土遺物14……256
第147図　SK2404出土遺物15……257
第148図　SK 出土遺物（2411・2412・2419・2421・2422）……263
第149図　SK 出土遺物（2423・2433・2449・2455・2460・2461）……264
第150図　SK 出土遺物（2467・2471・2473・2474・2475・2476・2477）……265
第151図　SP 出土遺物（2002・2006・2013・2015・2016・2017・2018・2049・2062・2072・2077・2083・2085・2086・2087）……285
第152図　SP 出土遺物（2088・2093・2099・2109・2124・2130・2133・2151・2157・2170・2171）……286
第153図　SP 出土遺物（2181・2190・2191・2193・2196・2210・2236・2239・2252・2268・2272・2280・2291・2299・2306・2320・2323）……287
第154図　SP 出土遺物（2334・2336・2338・2348・2371・2376・2384・2386・2394・2442・2447・2455・2466）……288
第155図　SP 出土遺物（2467・2477・2488・2508・2517・2519・2526・2533・2536・2568・2571・2577・2579・2581・2584）……289
第156図　SP 出土遺物（2589・2600・2622・2677・2684・2730・2742・2750・2760・2821・2836・2858・2893・2990・2992・2994）……290

第157図　SP 出土遺物（21021・21028・21071・21072・21084・21112・21142・21183・21194・21195・21199・21205・21210）……310
第158図　SP 出土遺物（21215・21216・21230・21250・21263・21271・21288・21296・21297・21300・21312・21319・21324・21327・21330・21331）…311
第159図　SP 出土遺物（21332・21335・21339・21365・21375・21380・21411・21418・21421・21433・21445・21449・21451・21452）……312
第160図　SP 出土遺物（21455・21462・21465・21467・21483・21487・21492・21496・21502・21508・21509・21520・21544）……313
第161図　SP 出土遺物（21551・21562・21563・21578・21581・21582・21606・21633・21634・21640・21646・21648・21649）……314
第162図　SP 出土遺物（21651・21653・21664・21666・21688・21717・21736・21737・21741・21755・21762・21764・21769・21776・21782・21786）…315
第163図　SP 出土遺物（21787・21788・21822・21861）…316
第164図　SX 出土遺物（2001・2002・2005）……318
第165図　SX 出土遺物（2006・2007・2008・2009・2012・2014）……321
第166図　SX 出土遺物（2015・2016）……322
第167図　SX 出土遺物（2017・2018・2021・2025）…324
第168図　SX 出土遺物（2026・2029）……325
第169図　SX2027出土遺物 1 ……326
第170図　SX2027出土遺物 2 ……327
第171図　SX2027出土遺物 3 ……328
第172図　SX2027出土遺物 4 ……329
第173図　SX2027出土遺物 5 ……330
第174図　SX2027出土遺物 6 ……331
第175図　SX2027出土遺物 7 ……332
第176図　SX2027出土遺物 8 ……333
第177図　SX2027出土遺物 9 ……334
第178図　SX2027出土遺物10 ……335
第179図　SX2028出土遺物 1 ……337
第180図　SX2028出土遺物 2 ……338
第181図　SX2028出土遺物 3 ……339
第182図　SX2028出土遺物 4 ……340
第183図　SX2028出土遺物 5 ……341
第184図　SX2028出土遺物 6 ……342
第185図　SX2028出土遺物 7 ……343
第186図　SX2028出土遺物 8 ……344
第187図　SX2028出土遺物 9 ……345
第188図　SX2028出土遺物10 ……346
第189図　SX2028出土遺物11 ……347
第190図　SX2028出土遺物12 ……348
第191図　SX2028出土遺物13 ……349
第192図　SX2028出土遺物14 ……350
第193図　SX2030平・断面図 ……351
第194図　SX2030出土遺物 1 ……352
第195図　SX2030出土遺物 2 ……353
第196図　SX2030出土遺物 3 ……354
第197図　SX2030出土遺物 4 ……355
第198図　SX2030出土遺物 5 ……356
第199図　SX2030出土遺物 6 ……357
第200図　SX2030出土遺物 7 ……358
第201図　SX2030出土遺物 8 ……359
第202図　SX2030出土遺物 9 ……360
第203図　SX2030出土遺物10 ……361
第204図　SX2030出土遺物11 ……362
第205図　SX2030出土遺物12 ……363
第206図　SX2030出土遺物13 ……364
第207図　SX2030出土遺物14 ……365
第208図　SX2030出土遺物15 ……366
第209図　SX2030出土遺物16 ……367
第210図　SX2030出土遺物17 ……368
第211図　SX2030出土遺物18 ……369
第212図　SX2030出土遺物19 ……370
第213図　SX2030出土遺物20 ……371
第214図　SX2030出土遺物21 ……372
第215図　SX2030出土遺物22 ……373
第216図　SX2030出土遺物23 ……374
第217図　SX2032平・断面図 ……375
第218図　SX2032出土遺物 1 ……377
第219図　SX2032出土遺物 2 ……378
第220図　SX2032出土遺物 3 ……379
第221図　SX2032出土遺物 4 ……380
第222図　SX2032出土遺物 5 ……381
第223図　SX2032出土遺物 6 ……382
第224図　SX2032出土遺物 7 ……383
第225図　SX2032出土遺物 8 ……384
第226図　SX2032出土遺物 9 ……385
第227図　SX2032出土遺物10 ……386
第228図　SX2032出土遺物11 ……387
第229図　SX2032出土遺物12 ……388
第230図　SX2032出土遺物13 ……389
第231図　SX2032出土遺物14 ……390
第232図　SX2032出土遺物15 ……391
第233図　SX2032出土遺物16 ……392
第234図　SX2032出土遺物17 ……393
第235図　SX2032出土遺物18 ……394
第236図　SX2032出土遺物19 ……395
第237図　SX2033出土遺物 ……396
第238図　SX 出土遺物（2034・2035・2036）……397
第239図　SR3001出土遺物 1 ……400
第240図　SR3001出土遺物 2 ……401
第241図　SR3001出土遺物 3 ……402
第242図　SR3001出土遺物 4 ……403
第243図　SR3001出土遺物 5 ……404
第244図　SR3001出土遺物 6 ……405
第245図　SD3001出土遺物 ……407
第246図　SD 出土遺物（3002・3005）……408
第247図　SK 出土遺物（3002・3003・3008・3013・3018・3024・3026・3036）……410
第248図　SP 出土遺物（3006・3026・3058・3059・3098・3133・3138・3203・3204・3210・3220・3221・3222・3253・3259）……415
第249図　SP 出土遺物（3260・3261・3264・3268・3271・3282・3314・3316・3325・3329・3332・3337・3330・3342・3343・3348・3352）……419
第250図　SP 出土遺物（3014・3024・3280・3363・3369・

3372)……422
第251図　SX3001平・断面図……424
第252図　SX3001出土遺物 1……425
第253図　SX3001出土遺物 2……426
第254図　SX3001出土遺物 3……427
第255図　SR・SD 出土遺物（SR4001・4001・4002・4005)……430
第256図　SB4001・4003・4004・4005平面図……431
第257図　SB4001断面図……433
第258図　SB4001出土遺物……434
第259図　SB4002平面図……436
第260図　SB4002断面図……437
第261図　SB 出土遺物（4002・4003）……438
第262図　SB4004出土遺物……441
第263図　SB4010平・断面図……444
第264図　SB 出土遺物(4005・4006・4007・4008・4010)…445
第265図　SB4012出土遺物……446
第266図　SB4013・4014平面図……449
第267図　SB4013・4014断面図……450
第268図　SB 出土遺物（4013・4014）……451
第269図　SB 出土遺物（4015・4016・4017）……453
第270図　SB4027平・断面図……454
第271図　SB 出土遺物（4018・4019・4023・4027・4028・4029・4030・4032)……459
第272図　SB 出土遺物（4033・4034・4035・4037）…463
第273図　SB 出土遺物（4039・4042・4044・4045・4047・4052)……464
第274図　SK4007平・断面図……466
第275図　SK4007出土遺物……467
第276図　SK4012平・断面図……468
第277図　SK4012出土遺物……469
第278図　SK・SP・SX 出土遺物（SK4013・SK4019・SP4123・SX4001）……471
第279図　SR5001堰平・立面図……473
第280図　SR5001堰立面図……474
第281図　SR5001出土遺物 1……476
第282図　SR5001出土遺物 2……477
第283図　SR5001出土遺物 3……478
第284図　SR5001出土遺物 4……479
第285図　SR5001出土遺物 5……480
第286図　SR5001出土遺物 6……481
第287図　SR5001出土遺物 7……482
第288図　SR5001出土遺物 8……483
第289図　SR5001出土遺物 9……484
第290図　SR5001出土遺物10……485
第291図　SR5001出土遺物11……486
第292図　SR5001出土遺物12……487
第293図　SB5001平・断面図……489
第294図　SB5003・5004平・断面図……490
第295図　SB5005平・断面図……492
第296図　SB5006平・断面図……493
第297図　SB 出土遺物（5001・5006・5007・5008・5018・5019)……494
第298図　SB5011平・断面図……496
第299図　SB5011出土遺物……497

6 区

第300図　SD 出土遺物(2003・2004・2005・2011・2013)…501
第301図　SD2016出土遺物 1……503
第302図　SD2016出土遺物 2……504
第303図　SD 出土遺物（2018・2021・2022）……505
第304図　SK 出土遺物（2001・2003・2018・2020・2024・2025・2026・2027)……509
第305図　SK 出土遺物（2031・2036・2045・2050・2051・2054・2056・2060・2065・2066)……511
第306図　SP 出土遺物（2015・2021・2038・2039・2042・2043・2046・2056・2070・2075・2080・2110・2111)……516
第307図　SP 出土遺物（2115・2138・2148・2150・2172・2192・2193・2200・2210・2220・2228・2237・2249・2255)……520
第308図　SP 出土遺物（2272・2282・2287・2288・2293・2296・2290・2306・2321・2323・2326・2334・2353・2355)……523
第309図　SP 出土遺物（2359・2361・2362・2365・2384・2407・2416・2432・2445・2452・2455・2458・2466・2470・2484・2485・2495)……528
第310図　SP 出土遺物（2511・2514・2516・2529・2533・2548・2595・2610・2656・2665・2666・2686)…532
第311図　SP 出土遺物（2697・2728・2734・2737・2745・2760・2778・2787・2821・2873)……534
第312図　SX 出土遺物(2001・2002・2003・2004・2005)…536
第313図　SD・SK・SX 出土遺物（SD3001・3002・3006・SK3005・SX3002・3006）……539
第314図　第 1 包含層出土遺物 1……541
第315図　第 1 包含層出土遺物 2……542
第316図　第 2 包含層出土遺物 1……543
第317図　第 2 包含層出土遺物 2……544
第318図　第 2 包含層出土遺物 3……545
第319図　第 2 包含層出土遺物 4……546
第320図　第 2 包含層出土遺物 5……547
第321図　第 2 包含層出土遺物 6……548
第322図　第 2 包含層出土遺物 7……549
第323図　第 2 包含層出土遺物 8……550
第324図　第 2 包含層出土遺物 9……551
第325図　第 2 包含層出土遺物10……552
第326図　第 2 包含層出土遺物11……553
第327図　第 2 包含層出土遺物12……554
第328図　第 3 包含層出土遺物 1……555
第329図　第 3 包含層出土遺物 2……556
第330図　第 3 包含層出土遺物 3……557
第331図　第 4 包含層出土遺物……558
第332図　第 5 包含層・機械掘削・その他出土遺物 1…559
第333図　第 5 包含層・機械掘削・その他出土遺物 2…560
第334図　第 5 包含層・機械掘削・その他出土遺物 3…561

表 目 次（第２分冊）

第１遺構面　出土遺構一覧表……593
第２遺構面　出土遺構一覧表……622
第３遺構面　遺構一覧表……661
第４遺構面　出土遺構一覧表……669
第５遺構面　出土遺構一覧表……671
６区　出土遺構一覧表……672

図版目次（第２分冊）

図版１　調査前風景・調査区全景(東より)・調査区南壁土層堆積状況
図版２　調査区南壁土層堆積状況・調査風景（西より）・第１遺構面遺構出土状況（東より）
図版３　SP1215菊花双鳥鏡出土状況・同上・SX1040滑石製温石出土状況
図版４　SP1231滑石製温石出土状況・SP1973扁平円礫出土状況・第２遺構面遺構出土状況（西より）
図版５　一括大量出土銭出土状況（北より）・同上・SX2032石敷遺構出土状況全景（西より）
図版６　SX2030・2032石敷遺構出土状況全景（北より）・SX2030石敷遺構出土状況（西より）・同上
図版７　SX2030石敷遺構掘り下げ状況（北より）・SX2032石敷遺構（水路？）掘り下げ出土状況（南より）・同上
図版８　SX2403土器溜まり遺物出土状況（南より）・同上・SX2404土器溜まり遺物出土状況（北より）
図版９　盛土整地層土器溜まり遺物出土状況・同上・SD2001西肩遺物出土状況（北より）
図版10　SX2028土器溜まり遺物出土状況（西より）・SX2001白磁水注出土状況・第３遺構面遺構出土状況（西より）
図版11　第３遺構面遺構出土状況（北より）・SX3001遺物出土状況・第４遺構面SB群出土状況（北より）
図版12　SB4001竈出土状況（南より）・SB4003竈出土状況（南より）・SK4012遺物出土状況（南より）
図版13　第５遺構面SB群出土状況（北より）・SR5001堰出土状況（西より）・同上（北より）
図版14　SR5001田舟出土状況（北より）・同上・SR5001木製品出土状況（南より）
図版15　菊花双鳥鏡・X線写真
図版16　白磁　碗１
図版17　白磁　碗２
図版18　白磁　碗３・白磁　皿・壺
図版19　青磁　碗１
図版20　青磁　碗２・青磁　皿
図版21　一括大量出土銭　銭種１
図版22　一括大量出土銭　銭種２
図版23　一括大量出土銭　銭種３・緡銭に復元した一括大量出土銭
図版24　青銅製品
図版25　鉄製刀子
図版26　鑿状鉄製品・鉄製鋤先
図版27　滑石製温石
図版28　滑石製石鍋
図版29　砥石
図版30　硯・管状土錘
図版31　軒平瓦・軒丸瓦
図版32　軒平瓦
図版33　石臼（上臼）・空風輪
図版34　竈
図版35　竈
図版36　椀形滓・石製品・土器
図版37　保持具・鉄鏃
図版38　須恵器　杯蓋
図版39　須恵器　杯身
図版40　須恵器　高杯
図版41　須恵器　壺・瓶・提瓶
図版42　須恵器　甕・横瓶・杯蓋（天井部にヘラ記号）
図版43　土師器１　甕
図版44　土師器２　甕・壺
図版45　土師器３　甕・鍋・甑
図版46　土師器４　高杯・鉢
図版47　弥生土器１　壺・甕・高杯
図版48　弥生土器２　高杯・鉢
図版49　製塩土器
図版50　土師質土器　杯（みこみに「仲」の線刻文字）・緑釉陶器　皿
図版51　黒色土器　椀・皿・鉢
図版52　土師器　椀
図版53　土師器　杯・皿
図版54　土師器　杯（みこみにヘラ記号）
図版55　土師器　小皿
図版56　須恵器　椀
図版57　瓦器　椀
図版58　瓦器　椀・皿・小皿
図版59　土師質土器　杯
図版60　土師質土器　皿
図版61　土師質土器　小皿
図版62　土師質土器　小皿・釜・鍋

Ⅰ　調査と整理にいたる経緯

1　広域基幹河川改修事業（園瀬川）の調査に至る経緯

園瀬川は、四国山地の東端に位置する旭ヶ丸の北麓に源を発して、名東郡佐那河内村を貫流し、音羽川・谷内川・根郷川・嵯峨川等の支川を合わせ、徳島市内で新町川と合流する流路延長25.5㎞、流域面積67㎢の一級河川である。

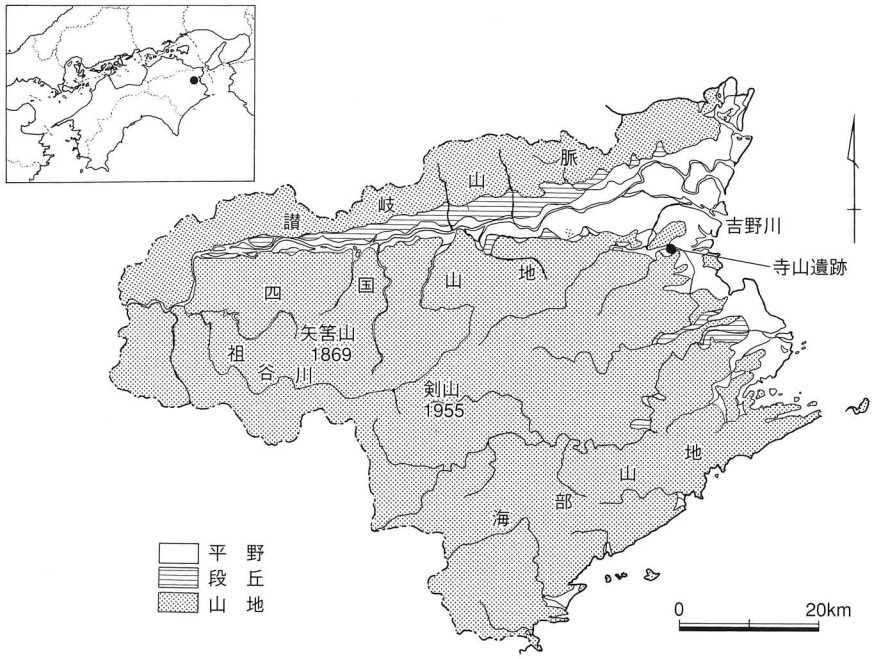
園瀬川の河川改修事業は、昭和21年より進められてきたが、近年、市南部の市街化に伴い、下流域無堤地区で浸水被害が度重なってきたこと、また、当地域の右岸側に徳島南環状道路の建設が計画されたことなどにより、平成15年度に国の「緊急対策特定区間」の選定を受け、平成19年度までの５ヶ年間で橋北、法花谷、寺山の無堤地区において築堤・護岸・樋門等の整備事業が実施されることとなった。

当事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成13年度に徳島県県土整備部河川課から文化財課に対し協議があった。当事業区間の内、寺山地区については、「全国遺跡地図36徳島県」で金剛光寺跡として登載されており、（現「徳島県遺跡地図」201－416寺山遺跡）近傍からは、奈良時代の古瓦が採集されている。金剛光寺は、京都市峰定寺所蔵の梵鐘に永仁４(1296)年の寺名及び願主の記銘があり、戦国時代末期に土佐の長宗我部氏の阿波侵攻に伴い焼失し、廃寺になったと伝えられる。

文化財課は、寺山地区については、工事区間内に金剛光寺に関係する遺跡が存在する可能性があるとして、工事着手前に埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された場合は、その取り扱いについて、改めて協議を持つこと等の方針を示した。

試掘調査は、平成13年11月に12,750㎡を対象として文化財課が実施した。その結果、工事区間の内、約300ｍの間で古代から中世に至る柱穴・溝・土坑等が良好な状態で遺存することが明らかとなった。試掘調査の結果をうけ、文化財課と河川課は再度協議を持ち、築堤工事により埋蔵文化財が影響を受けると考えられる14,100㎡について、工事着手前に発掘調査を実施し、遺跡の記録保存をはかることで合意した。

発掘調査は、徳島県が財団法人徳島県埋蔵文化財センターに委託し、平成14年度に10,128㎡（延べ23,631㎡）、15年度に3,972㎡（延べ8,800㎡）、計２ヵ年にわたり実施した。



第１図　寺山遺跡の位置

2　広域基幹河川改修事業（園瀬川）の調査と整理の経過

(1)　寺山遺跡における整理の経過

平成14・15年度にかけて着手した広域基幹河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成15年度に当該事業の堤防路線に係る調査対象地点の発掘調査を完了した。当該事業は、古代寺院の金剛光寺が所在していたとされる地域にあたり、その存在を示す成果が期待された。調査の結果、寺の存在を直接的に示す遺構・遺物は確認できなかったが、集落が金剛光寺のあったとされる寺山を中心に大きく発展していた様子をうかがう事ができた、特に中世（鎌倉～室町）の遺構面では、一括大量出土銭（埋納銭：約3,700枚）が確認され、注目を集めた。

また古墳時代の竪穴住居跡が多数出土し、当該期の集落が展開していたことも確認された。眉山、園瀬川を挟んだ対岸に位置する向寺山あるいは気延山など、園瀬川・鮎喰川流域に接した尾根上には多数の古墳群が築造されており、それら古墳群を築造した集団との関係が注目される。

広域基幹河川改修（園瀬川）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の本報告書作成整理業務は、平成14年度に開始された。整理作業期間は平成16年度から平成19年度の４年間とし、平成20年度に刊行の計画で実

施された。整理業務に際して、遺物コンテナ１箱170点換算で、１班（研究員１名、整理作業員５名※H.17より研究員１名、整理作業員４名）が年間140箱の遺物コンテナに係る整理作業を完結させるとの作業歩掛に基づき、試掘・本掘が実施された寺山遺跡の整理作業を開始した。報告書作成にあたっては、１冊の報告書として刊行する計画を策定した。なお、整理作業の中には、試掘調査も含むこととした。

作業の対象は、平成14・15年度にかけて着手した広域基幹河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の資料である。まず、遺物コンテナ70箱を平成16年度の後半分として１班体制で実施した。引き続き、平成17年度には遺物コンテナ560箱の整理作業を４班体制で実施した。平成18・19年度は２班体制で、遺物コンテナ各々280箱の整理作業を実施し、整理業務を完了した。

整理作業は、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元の工程を通じて実測遺物の抽出、実測を実施した。遺物実測図は製図ペンによる浄書をし、挿図図版を作成、同様に各遺構や土層などの図面も浄書・図版化を行った。土器・石器・鉄器などの一部については写真撮影を行い、遺構などの写真とともに写真図版として構成した。実測図作成と併行して遺物観察表項目の整備を行った。以上の内容をもとに本文の作成を行い、自然科学分野などの分析委託成果を併せて編集を行い、報告書としての体裁を整えた。

業務の体制

平成14年より６年４ヵ月間の歳月を要した本事業の総量は以下のとおりである。

発掘調査所用期間１年４ヵ月、報告書作成所用期間４年、発掘調査担当職員６人、報告書作成担当職員10人、出土箱数1,160箱、出土遺物総点数48,0000点、整理作業員延べ4,800人。

調査組織及び整理体制は以下のとおりである。

調査組織

所　　長	本浄　敏之（平成13～15年度）	浦上　純二（平成16・17年度）
	村山　一行（平成18年度）	伊川　政文（平成19年度）
事務局長	西村　和博（平成14・15年度）	河野　幸一（平成16～18年度）
	多田　升二（平成19年度）	
総務課長	山本　高史（平成14・15年度）	古田　哲郎（平成16・17年度）
	一宮　一郎（平成18・19年度）	
総務係長	福本紀美子（平成12～14年度）	坂尾　俊一（平成15・16年度）
	新居　謙輔（平成17～19年度）	
主　　事	鈴木　智栄（平成14～16年度）	布川　純子（平成14・15年度）
	川口　治代（平成16・17年度）	浦川　明美（平成18・19年度）
	野田登記子（平成19年度）	
技　　師	原田　敏夫（平成13～15年度）	
調査課長	菅原　康夫（平成10～14年度）	新居　文和（平成15年度）
調査係長	新居　文和（平成14年度）	
調査第一係長	富本　輝仁（平成15年度）	

調査第二係長　藤川　智之（平成15・16年度）

調査担当

平成14年度	井藤　良雄	宮本　格	森江　孝志	原　芳伸
平成15年度	前田　綾博	藤川　智之	篠原久仁子	林　賢彦

整理体制

整理普及課長　島巡　賢二（平成10～15年度）
事業第二課長　島巡　賢二（平成16～19年度）
整理係長　貞野　雅巳（平成16年度）　豊田大之介（17～19年度）
事業第一係長　濱　徹（平成16～18年度）　藤川　智之（平成19年度）
事業第二係長　氏家　敏之（平成19年）

報告書作成業務

久保脇美朗・棚次美和子（平成16年度）
濱　徹・安倍　崇志・宮本　卓純・原　芳伸（平成17年度）
濱　徹・原　芳伸（平成18年度）　藤川　智之・原　芳伸（平成19年度）

3　寺山遺跡における調査の経過

(1)　調査の経過（Ⅰ－第２図・第３図およびⅡ－第１図）

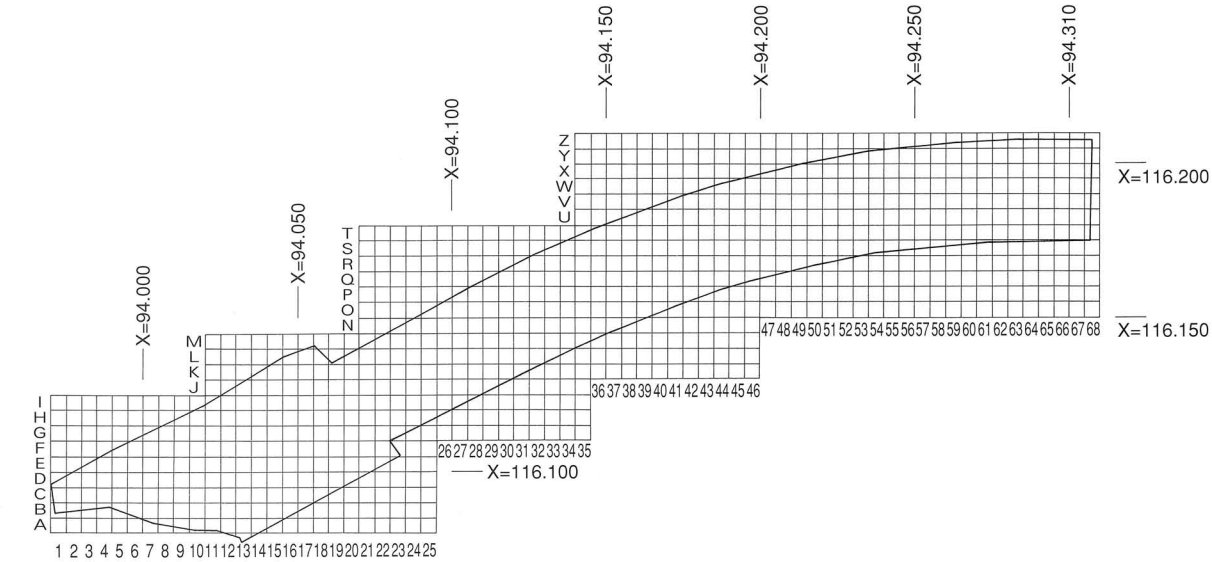
調査区の設定

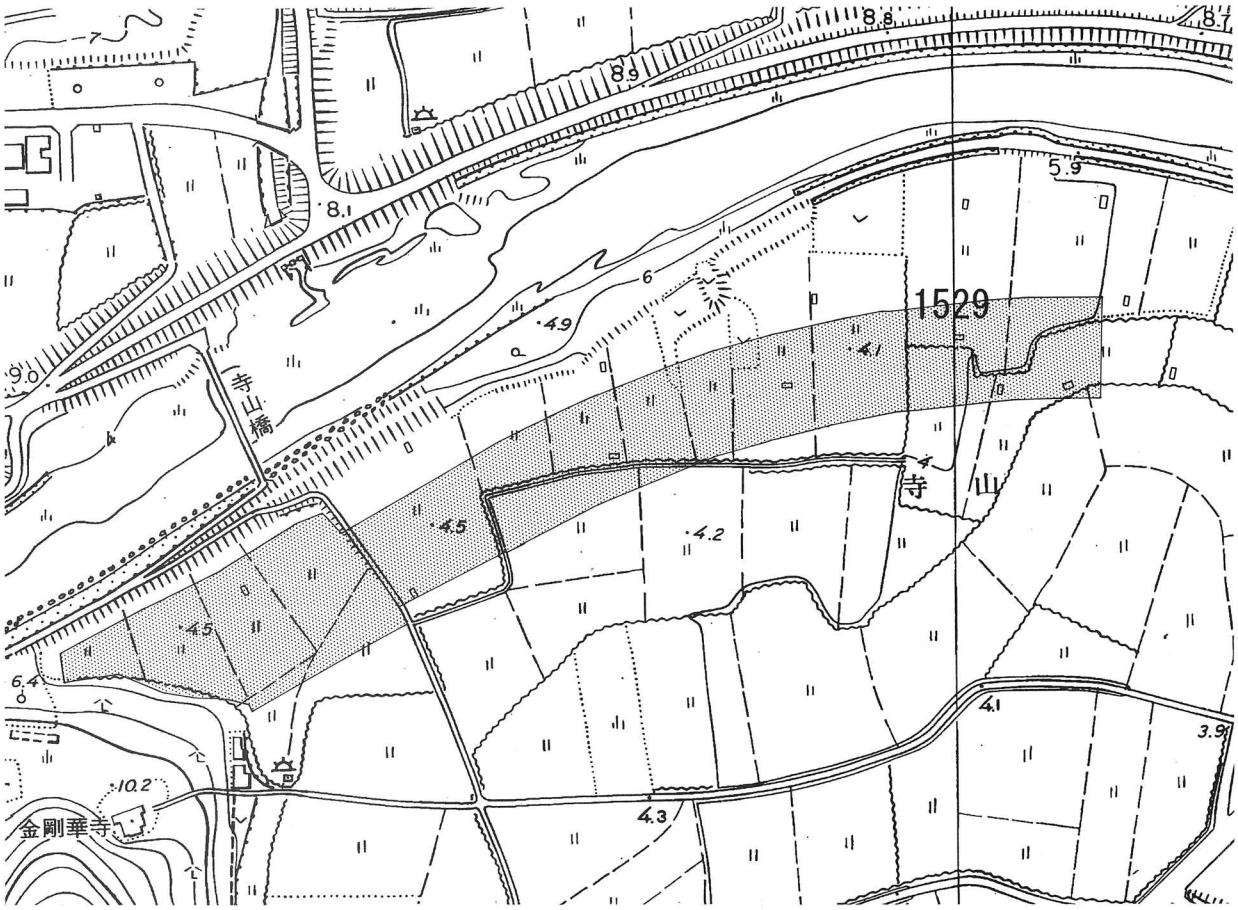
平成14年度の調査開始に際し、調査の進行に合わせて調査区東より１～５区にほぼ等分割して、便宜上の呼称を与え、発掘調査を実施した。実際には調査区が田畑の筆にように明確に区分されるものではなく、調査範囲が長大なものとなるための措置である。遺構番号については、遺構面ごとに通し番号を与えた。

平成15年度の調査では、昨年度からの継続となる範囲（４区の一部と５区の全域に相当）に加えて、これら調査区の南西の隣接地を調査区として追加し、これを６区とした。６区に関しては、遺構面の呼称・遺構番号の振り替えが困難なため、'03年度６区で独立した形をとった。整理作業においてもそれを踏襲した。

平成14・15年度の調査区では、主として以下の５時期の遺構面を確認している。

第１遺構面（鎌倉時代後半～室町時代：13世紀後半～14世紀前半頃）
第２遺構面（鎌倉時代：13世紀前半）
第３遺構面（平安時代：９世紀～10世紀）
第４遺構面（古墳時代後期：６世紀末～７世紀前半）
第５遺構面（弥生時代後期～古墳時代前期：２世紀～４世紀）





第２図　グリッド配置および調査区位置図（S＝１/2,000）

４区および５区では、平成14年度に第３遺構面までの作業を完了しているため、平成15年度では、第４遺構面より下位を発掘対象とした。６区では、最も上位の層からを対象としたが、作業工程を考慮して第２遺構面より下位を対象とし、調査を実施した。

(2) 発掘調査の方法

グリッドの設定（第２図）

調査を始めるにあたり、方格の５ｍメッシュを１グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。

グリッドの設定に際しては、第Ⅳ系国土座標を基準とした。設定方法としては、一辺５ｍ四方を一単位（グリッド）として面的に管理し、調査対象地を包むものである。南西隅を基準として、北にＡ・Ｂ・Ｃ…と英字アルファベットを、東へ１・２・３…とアラビア数字の記号を配し、その組み合わせでＡ－１、Ａ－２、Ｂ－１、Ｂ－２…として、各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

(3) 寺山遺跡調査日誌抄

2002年（平成14年度）

４月１日　調査準備。現状確認。

４月17日　試掘（４区・５区）。

４月22日　機械掘削。

５月２日　機械掘削。人力掘削。

５月９日　機械掘削。側溝掘削。人力掘削。

５月21日　機械掘削。人力掘削。写真撮影。１/100平面図平板実測。

５月23日　人力掘削。１/100配置図作成。１/20断面図・平面図作成。遺構半裁、完掘写真撮影。機械掘削。

５月30日　人力掘削。遺構検出。遺構出土状況写真撮影。機械掘削。
滑石製温石（表面に線刻）出土。

６月３日　人力掘削。機械掘削。
空撮打ち合わせ。

６月４日　人力掘削。遺構検出状況写真撮影。
１/100遺構配置図作成。機械掘削。

６月19日　人力掘削。機械掘削。宋銭等、多量出土（埋納銭）。砥石、瓦出土。

７月４日　１・２区遺構掘削。銅製品出土。

７月20日　SC1001（埋納銭遺構）実測作業。
型取りのためのクリーニング。

７月22日　３区遺構掘削。平面図作成。
京都科学埋納銭型取り。

７月29日　３区遺構掘削。埋納銭取り上げ。

８月20日　４・５区遺構掘削。遺構検出状況写真撮影。遺構配置図作成。

９月24日　４・５区遺構掘削。SX1040滑石製品。

10月４日　人力掘削（空撮のための精査）。

10月10日　３・４・５区第１遺構面空撮。人力掘削（１・２区空撮のための精査）。現場説明会のためのプレス。

10月11日　スカイマスター空撮（第１遺構面３・４・５区）。人力掘削（１・２区空撮のための精査）。

10月13日　出土銭の現場説明会。

10月15日　スカイマスター空撮。人力掘削
（空撮のための精査）。

10月22日　人力掘削。スラグ出土。

11月６日　５区第２遺構面遺構掘削。
５区第２遺構面遺構検出写真撮影。

11月11日　３・４・５区第２遺構面遺構掘削。

12月27日　３区第２遺構面遺構掘削。
仕事納め式。

2003年

1月6日　仕事始め式。3区第2遺構面遺構掘削。

1月11日　3区第2遺構面遺構掘削。スカイマスター空撮（4・5区）。

1月15日　3・5区第2遺構面遺構掘削。

1月20日　3・4・5区第2遺構面遺構掘削。

2月1日　3・4・5区空撮。

2月17日　3・4・5区第3遺構面遺構掘削。

2月21日　スカイマスター空撮（4・5区）。3区第3遺構面遺構掘削。

3月6日　5区遺構検出。

3月12日空撮。遺物取り上げ。

3月31日整理作業。

2003年（平成15年度）

4月1日　事務引継ぎ。

4月2日　6区遺構掘削。完掘写真撮影。

4月15日　SB遺構内掘削。SR5001掘削。

4月21日　SB・SP・SX遺構内掘削。SR5001掘削。機械掘削（6区）。

5月6日　6区空撮前準備。

5月9日　スカイマスター空撮。

5月13日　5区SB掘削。6区遺構掘削。

5月16日　上八万小学校約80名見学。

5月19日　5区SB・SK掘削。6区遺構掘削。

5月20日　5区SB竈確認。EP掘削。6区遺構掘削。

5月29日　5区機械掘削。6区遺構掘削。（半掘・冠掘）

6月3日　5区遺構掘削。6区完掘。

6月10日　5区完掘。6区完掘写真撮影。

6月14日　現地説明会。

6月22日　スカイマスター空撮。

6月26日　5区流路SR5001－E掘削。SB遺構

7月3日　5区遺構掘削。6区平面図作成。

7月25日　引越し。

7月28日　遺物洗浄（木製品）。遺物実測図（1/10）作成。

7月31日　図面・写真整理。現場撤収。

調査風景（調査区西端より）

Ⅱ　調査地点の立地と環境

1　地理的環境（第１・３図）

徳島県は四国東部に位置する。面積は4,144.23㎞で、全面積の約80％を山地が占め、平野は約20％である。平野部は吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの河川の流域に開けている。

徳島県を東西に流れる吉野川は江戸期に設けられた第十堰によって現在の流れになり、本来の吉野川本流であった旧吉野川は板野郡上板町上六条で大きく北流し、阿讃山麓裾を蛇行しながら紀伊水道に注いでいる。

寺山遺跡は、園瀬川右岸の標高約4.5mの沖積地上に位置している。園瀬川は、剣山地東部の旭ケ丸に発して、名東郡佐那河内村の山間部を流れ進んだ後、新町川に合流し、紀伊水道に注ぐ延長12.2㎞の河川である。園瀬の名はかつてあった、平安時代創建とされる金剛光寺の園中に川の水が引き込まれたことに由来するのではないかといわれている。

(1)　遺跡の位置（第３図）

寺山遺跡は、徳島市八万町に所在し、園瀬川右岸の標高約4.5mの沖積地上に位置している。現在、調査区の北にある園瀬川は、過去において流路の変遷があったとされる。現在は、遺跡の北方を東西に流れているが、この流路は、蜂須賀家政の阿波入国以降とされる（『阿波志』）。この付け替えより以前は、寺山の南部を流れていたことが、耕作地の地割などから推定できる。江戸時代までは調査区南の冷田川を流れていたが、藩政期に灌漑用に掘られた法華川(現園瀬川)に流路を変更したといわれている。従って調査区の南は古園瀬川（冷田川）の旧河道であり、調査区は現園瀬川と古園瀬川（冷田川）に挟まれた自然堤防の微高地に位置している。

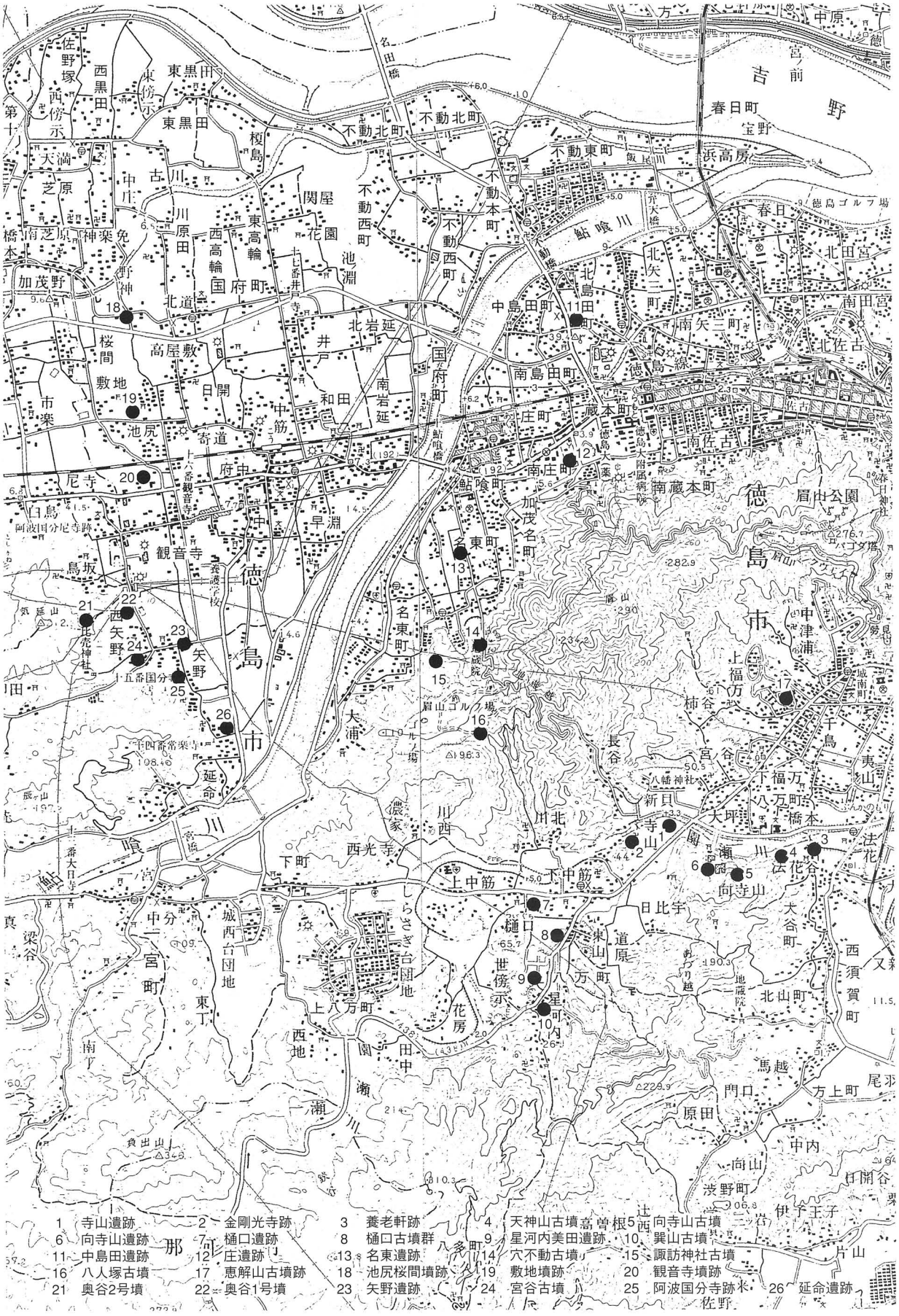
2　歴史的環境（第４図）

寺山遺跡の西には、地名の由来になっている「寺山」がある。寺山は標高44mの小高い山であり、地蔵院から南南東に延びる山地の南端にあたる。園瀬川がこの山地の鞍部を横切って流れ、寺山は山地から切り離されて残った独立丘陵状の地形を呈するものである。

現在、調査区の北を東西に流れている園瀬川は、蜂須賀家政の阿波入国以降に流路の変遷があったとされている（『阿波志』）。この付け替えより以前は、寺山の南側を流れていたことが耕作地の地割などから推定できる。つまり江戸時代までは調査区南の冷田川を流れていたが、藩政期に灌漑用に掘られた法華川（現園瀬川）に流路を変更したと考えられている。従って調査区の南は、古園瀬川（冷田川）の旧河道であり、調査区は現園瀬川と古園瀬川（冷田川）に挟まれた自然堤防の微高地に位置していることになる。

調査地点の西に位置する独立丘陵の寺山には、平安時代創建の金剛光寺が所在したといわれ（『八万村史』1935)、奈良時代の複弁八葉蓮華文軒丸瓦（個人蔵）が採集されている。調査地周辺の「塔の下」「仁王田」などの田名は、金剛光寺に由来するものであろう。しかし、平安時代初期の創建とも伝えられている金剛光寺に関しての文献は残っておらず、伝承地名である「塔の下」「仁王田（門)」などの田名が残っているだけであり、その詳細は明らかではなく、伽藍の配置等も伝承地名のみが根拠となっている。京都市左京区花脊の峰定寺所蔵の梵鐘（現存する阿波国の文字がみえる最古の鐘）には、

第３図　調査地点位置図（S＝１/4,000）



第４図　調査地点および周辺の遺跡（１/50,000　徳島・川島）

「阿波國以西郡八万金剛光寺鐘
願主三部阿闍梨耶実秀
永仁四年歳次丙申十月五日
大工内蔵範頼」

の銘がみえ、鎌倉期の永仁四年（1296）に寺の存在は確認される。戦国期に長宗我部元親が阿波に侵攻した際、消失し廃寺になったといわれているが、この間の経緯についても詳細は不明である。

同地には現在、結晶片岩を組み合わせた階段や正徳元年（1711）銘の石造物などが残り、金剛光寺の後進となる金剛庵の名残をとどめてはいるが、金剛庵は昭和34年(1959)に火災に遇い、消失している。現在では荒廃した状態である。

調査地点には古称として川沿い全体に「屋敷筋」の名称が残り、さらに調査区西より「上屋敷」・「中屋敷」・「下屋敷」の地名が残る。文化年間（1804～1817）の絵図（『下八万村分間絵図』）では、園瀬川が現在と同じ位置に描かれ、調査地周辺は田畑として表現されている。調査地には「塔の下」「仁王田（門）」などの田名が残り、「仁王門」あるいは「屋敷筋」といった地名は、中世から継承されている可能性が高い。

また寺山遺跡周辺には数多くの重要な遺跡の存在が知られている。周辺の主な遺跡としては、向寺山遺跡・向寺山古墳・樋口古墳などがある。弥生時代・古墳時代頃の遺跡が多く知られている。近年の発掘調査においても、樋口遺跡など奈良時代以降の重要な遺跡の存在が確認されるようになってきている。以下、周辺の遺跡を時代別に述べていくことにする。

旧石器時代

吉野川下流域の平野部全体を通して、この時代の遺跡はほとんど知られていない。鮎喰川右岸扇状地の名東遺跡においてサヌカイト製の国府型ナイフ形石器が１点出土しているにとどまっている。

縄文時代

縄文時代の遺跡は後期以前に属するものは少なく、前期としては吉野川下流域平野部の石井城ノ内遺跡で出土した抉状耳飾が形態的な特徴から縄文前期の可能性があるぐらいで、草創期、中期のものは知られていない。

後期に属する遺跡は、近世に徳島城の所在した地にある城山貝塚と鮎喰川左岸扇状地の矢野遺跡が確認されている。矢野遺跡で竪穴住居とされるものは１軒であると推定されるが、同様の規模をもち、内部に焼土のある遺構が数十基あり、住居跡と見られるが、現状では根拠に乏しく、竪穴状遺構であると想定される。また、日本でも最西端で最古級という希少な土面なども出土している。

縄文晩期の遺跡としては、名東遺跡、庄遺跡、三谷遺跡、矢野遺跡が存在している。三谷遺跡は縄文晩期から弥生時代前期にかけての貝塚が検出されており、埋葬されたイヌが確認され、縄文から弥生への変遷過程を考察する上で貴重な資料になっている。

弥生時代

鮎喰川扇状地には集落遺跡が密集している。前期では庄遺跡、南庄遺跡、鮎喰遺跡、矢野遺跡がある。

庄遺跡では、広範囲での土木事業が行われたことを示す大規模な灌漑用水路が検出されている。

中期には、遺跡形成の範囲は拡がり、遺構・遺物が前期よりも多く検出された。名東遺跡においては偏平紐六区袈裟襷文銅鐸が出土している。

後期には集落域や集落数の増減が見られる。矢野遺跡でも銅鐸が出土し、銅鐸埋納坑が住居の密集部の中心部に位置することや埋納方法や柱穴を伴うことなどが判明して、貴重な成果をあげることになった。

古墳時代

前期の古墳として、眉山南麓の勢見山古墳や巽山古墳、気延山一帯の宮谷古墳、奥谷１号墳、奥谷２号墳などがある。宮谷古墳は墳丘長36mの前方後円墳であり、後円部に竪穴式石室が築かれている。三角縁神獣鏡が３面出土したが、いずれも主体部以外から確認された。

中期は眉山南麓の恵解山古墳群、気延山一帯の尼寺古墳群、内谷古墳群などが知られている。箱式石棺を採用し、二棺併置をおこなっている恵解山古墳群から出土した副葬遺物には、櫛、琴柱形石製品、衝角付冑などがある。

後期には、眉山南西部の向寺山古墳や樋口古墳群、気延山一帯のひびき岩古墳群や巨石を用いた横穴式石室をもつ円墳の矢野古墳などがある。

一方、この地域の集落の状況は不明な部分が多い。しかし近年の調査で中期以降の集落の一端が見つかった。鮎喰川左岸扇状地の敷地遺跡で、５世紀末と６世紀末～７世紀前半の二時期の遺構が確認され、今後の調査の進展が注目される。

古　代

鮎喰川左岸扇状地の観音寺遺跡から出土した木簡などによって、阿波国府の所在は四国霊場一六番札所観音寺附近にほぼ確定してきている。その国府推定地から約1.5km南東に国分寺、国分寺から約1.2km北西に国分尼寺が所在する。国分寺や国分尼寺以外にも石井廃寺などの寺院跡や観音寺周辺から古代の瓦が採集されている。これらの瓦は、国分寺の瓦窯のほかに常楽寺瓦窯や内御田瓦窯、瓦谷瓦窯などで生産され、国分寺など周辺寺院に供給されていたと考えられている。

また敷地遺跡では国司館跡と考えられる掘立柱建物跡などが検出された。そして池尻・桜間遺跡、延命遺跡、敷地遺跡で見つかった水田面遺構の広がりなどから、国府造営と前後して水田地としての開発も行われたことが分かってきている。

中　世

鮎喰川右岸扇状地の中島田遺跡で確認される遺物の大半は土師質土器であるが、輸入磁器などを含む中世土器や陶磁器が出土している。そして寺山遺跡の対面、南西方に立地している広田遺跡からも陶磁器などが確認された。これらのことから、当時の交通や流通は発展していたと考えられている。

また観音寺遺跡では掘立柱建物や土壙墓が確認されたが狭い範囲にとどまった。敷地遺跡では排水機能を有する溝状遺構や水田面の遺構が検出され、古代に拡大した水田域がさらに中世の段階になると整備が進んだものとみられる。

鮎喰川右岸扇状地の山塊には守護小笠原氏が築いた阿波９城の一つに数えられる一宮城跡が所在す

る。その後一宮氏・細川氏・三好氏・長宗我部氏・蜂須賀氏と居城し、蜂須賀家政が徳島城下に移った後に廃城となった。

近　世

眉山南麓の地には竹林院、延生軒、養老軒などの別荘が建てられていた。竹林院は江戸時代の延宝2年（1674）に蜂須賀家四代綱通が僧鉄崖に贈ったとされる寺であった。別荘延生軒は蜂須賀家5代綱矩の治世に、家老長谷川伊豆貞長によって、名東郡下八万村祝山に作られたものであり、別荘養老軒は元禄9年（1696）には藩士折下角左衛門氏治によって、下八万村法華谷に建てられたものである。元禄年間には数多くの詩や句が残されていて文人墨客の集う所であったと考えられている。

最後にこの項で伝承として多くを参照した「八万村史」の寺山遺跡に関すると思われる部分を抜粋しておく。参考資料である。

金剛光寺の創建

俗に平安朝時代僧空海の創建に係ると謂はれて居る金剛光寺は、境内の廣き事上八万村の北方より下八万の西方に跨り園瀬川屈曲して境内を流れ之に架するに橋梁を以てし閼伽池の如きは其庭池にして池中に華表を建て殿樓多くして堂宇の宏大なる當時阿波南方の巨刹丈六寺と其の壮麗を競つたと謂はれて居る。思ふに金剛光寺は平安朝時代に於ける本村及び附近文化の中心をなして居たものであらう。

金剛光寺

字寺山に昔時在り口碑に依れば今を去る千餘年前の開基なりと傳へ阿波國古寺の一たりしも天正年間長曾我部元親の一炬に付せられ今は諸堂及び門趾を存するに過ぎず、聞くならく七堂伽藍建ちて其宏壮美麗は當時の勝浦郡丈六寺に桔抗せりと、今に寺跡の田名に『塔の下』『風呂の下』『仁王田』等の名殘りて其の宏壮なりしを偲ぶに足れり。

嘉永七年寅三月、椎野庄左衛門（現村長祖曾父に當る）遺跡保存のため寺跡に辨財天を祀れり。
該寺の梵鐘が現今、山城國愛宕郡蜂定寺に藏され左の銘を刻せり。

『阿波國以西郡八万金剛光寺鐘』『願主三部阿闍梨耶實秀』『永仁四年歳次丙申十月五日』『大工内藏範頼

真言宗　金剛庵　下八万字寺山

本尊　辨財天

堂宇　縦三間半　横二間半

庵室　縦三間半　横二間半

往時、名刹金剛光寺の七堂伽藍ありし跡にして、其附近の田には今尚古き地名の残れるもの少なからず。現在堂内に奈良朝時代（約一千二百年前）の古瓦を所藏せり。

境内面積二五四坪にして正德五乙未歳九月十月（紀元二三七六年）の手洗鉢、安政三辰年三月（紀元二五一七年）の燈籠三基等殘れり。圓福寺末にして、毎年舊暦中の猪ノ子には奉納相撲を行ふ慣習あり。

（名所舊蹟ノ項参照）

寺山辨財天の埋藏金

昔、寺山に金剛光寺と言つて七堂伽藍の建てられた名刹があつたが、天正年間長曾我部元親の阿波侵入に當り其の兵燹に罹つて荒廢してしまつた（廢寺院、金剛光寺参照）此の寺跡に「朝日さす夕日輝く金剛光寺小判千両有明の月」と刻まれた石碑を里人が發見し、何處かに小判千両が秘められてある判じ歌と解釋し里人は言ふに及ばず近郷近在より欲張り者が集まり血眼になって心當りを探索したが、何處を掘つても鐚錢一文も出てこなかつた。

引用・参考文献

『徳島県文化の森総合公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　－延生軒跡・向寺山古墳－』　徳島県教育委員会　1987年
『徳島県埋蔵文化財センター年報　Vol.7　1995年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1996
『埋蔵文化財　縄文の彩り　速報展　1996』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
『歴史時代の徳島市－阿波の古瓦－』　徳島市教育委員会　1982
『南庄遺跡　－徳島家畜保健衛生所建替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』　徳島県教育委員会　1989
『県営名東団地建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　名東遺跡　（天神地区）』　徳島県教育委員会　1990
『庄遺跡Ⅰ－大蔵省蔵本団地宿舎新営工事（第Ⅰ期工事）関連埋蔵文化財発掘調査報告－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1996
『庄遺跡Ⅱ－大蔵省蔵本団地宿舎新営工事（第Ⅱ期工事）関連埋蔵文化財発掘調査報告－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1997
『庄遺跡Ⅲ－大蔵省蔵本団地宿舎新営工事（第Ⅲ期工事）関連埋蔵文化財発掘調査報告－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1999
『鮎喰遺跡・石井遺跡　－徳島県立城西高等学校・名西高等学校新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2000
『庄・鮎喰遺跡　－一般国道192号拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』　徳島県教育委員会　1985
『名東遺跡　－建設省名東町宿舎建設に伴う発掘調査－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1995
『中島田遺跡Ⅱ　－都市計画道路常三島中島田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1996
『県道徳島鴨島線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　徳島市中島田遺跡・南島田遺跡　徳島県教育委員会　1989
『古墳時代の徳島市　－埋蔵文化財資料展』　徳島市教育委員会　1981
『徳島考古　第２号』　徳島考古学研究グループ　1985
『徳島市誌　1958年版』　森本安市　徳島市教育研究所　1958
『八万史』　竹内金二　八万村青年団　1935
『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要２』　徳島市教育委員会　1992
『矢野銅鐸』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1995
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.7 1995年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1996
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.8 1996年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1997
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.9 1997年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1998
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.10 1998年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　1999
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.11 1999年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2000
『徳島県　埋蔵文化財センター年報　Vol.12 2000年度』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2001

『観音寺遺跡Ⅰ　（観音寺遺跡木簡篇）　－一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2002
『矢野遺跡（Ⅰ）　－一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2001・2002
『矢野遺跡（Ⅱ）（縄文時代篇）　一般国道192号徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター　2003
『徳島大学埋蔵文化財調査報告書　第１巻　庄・蔵本遺跡１　－徳島大学蔵本キャンパスにおける発掘調査－』　徳島大学埋蔵文化財調査室　徳島大学　1998
菅原康夫『日本の古代遺跡37　徳島』　保育社　1988
三好昭一郎・高橋啓・福家清司『図説　徳島県の歴史』　河出書房新社　1994
東　潮　編『川と人間－吉野川流域史』徳島大学　渓水社　1998
坪井良平『梵鐘の研究』　ビジネス教育出版社　1993

Ⅲ　調査成果

1　基本層序　トレンチ配置状況と土層堆積状況（第５・６・７図）

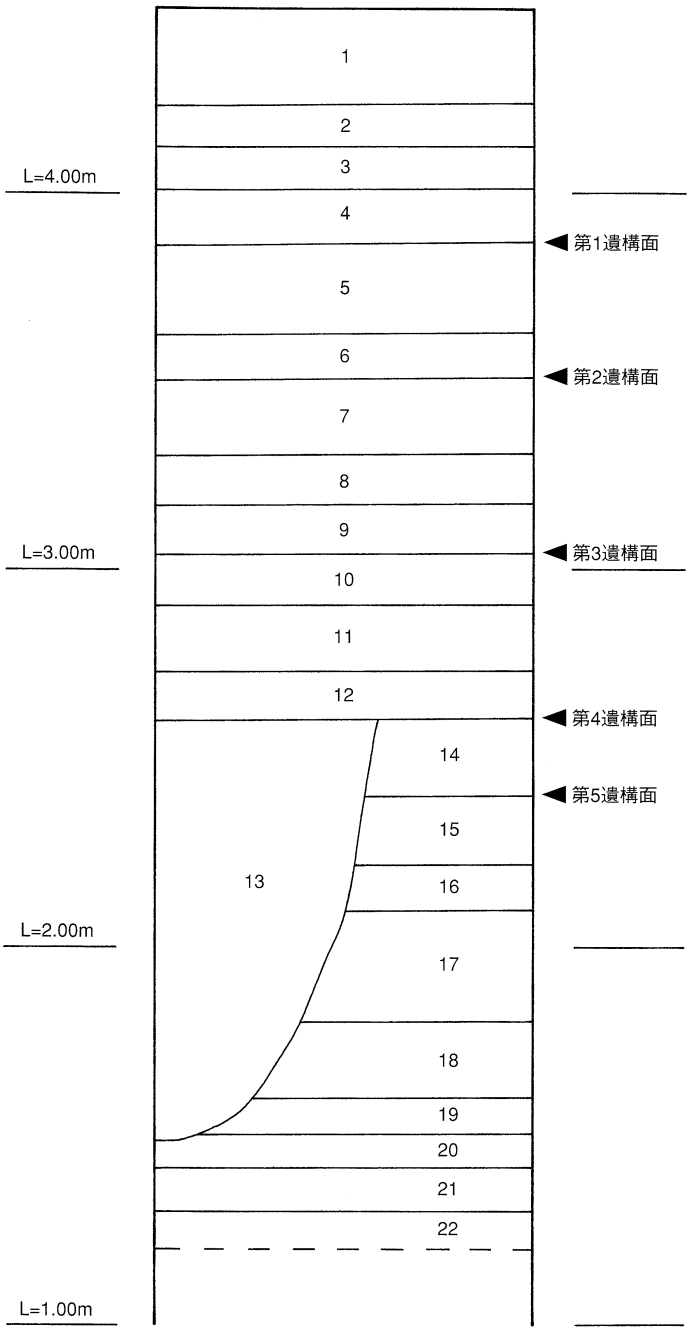
試掘調査の結果をもとに全面発掘を実施し、５時期の遺構面（鎌倉前・後半～平安～古墳後半～庄内併行期（自然流路））を確認した。調査区内は近世・近代の耕地開墾により部分的に攪乱を受けているが、第３遺構面まで達するものは少ない。調査区が東西に広範囲に及ぶため、各地点によって多少の差異はあるが、第６・７図の土層断面を例にとれば、調査区の基本層序は、①表土(水田)②③④灰オリーブ色粘質土⑤暗オリーブ褐色粘質土（中世遺物包含層）⑥暗灰黄色粘質土（鎌倉後半遺構面）⑦オリーブ褐色粘質土⑧黄褐色粘質土（鎌倉前半遺構面）⑨オリーブ褐色粘質土（古代遺物包含層）⑩オリーブ褐色粘質土（奈良～平安遺構面）となり、⑩層以下は自然流路堆積層（部分的に砂礫層含む。）となり、⑩⑪層（古墳遺物包含層）は自然流路堆積土上面にあたり、流路埋没後⑫層上面に古墳時代後期の遺構が形成されている。⑥層は鎌倉時代後半～末にかかる遺構面で、出土銭は⑤の遺物包含層を切り込んだ土坑に収められていた。出土銭（埋納銭）の検出面は表土から１ｍ下にあたる。⑦⑧は鎌倉時代前半頃の遺構面⑩は平安時代後半頃の遺構面が確認された。⑫層以下は自然流路堆積層と思われるグライ化した青灰色シルト・粘土となり、地表面下約3.5mの地点で、弥生時代終末期～古墳時代初頭頃の土器片（甕）などが出土した。遺跡は園瀬川の沖積作用によって形成された平野上に立地しており、河道が現在の位置に固定されるまでは頻繁に氾濫を繰り返していた。

調査区西側の「寺山」に近接した地点の基本的な堆積を模式柱状図で表した。これに従って説明すれば（第５図)、調査着手前の地盤高は約4.5mで、第１層・第２層は近世以降の水田形成に伴う土壌である。以下の堆積層のうち、上位では旧河道にあたる層（第13層）を除くと、細砂に多くのシルトをまじえる砂質土である。比較的安定した堆積状況である。下位の層でも同様の砂質土の堆積が厚いが、流路による堆積がやや粗い粒子となって面的にも広がっている場合（第18層・第20層）がある。第22層は少なくとも４区～６区にかけて広範囲に広がっている層で、黒褐色の非常に粘性の高い特徴がある。1.5m以上の深さがあり、下端を確認することができなかった。淀みや沼といってよい堆積である。第22層でも上位においては、炭化物・有機物の混入があり、少量の弥生土器も含まれていた。

遺構が検出された面（遺構面）は上位から第１遺構面・第２遺構面としており、５面が確認された。内訳は、第５層上面で第１遺構面（標高約3.9m)、第７層上面で第２遺構面（標高約3.5m)、第10層上面で第３遺構面（標高約3.0m)、第14層で第４遺構面（標高約2.6m)、第15層上面で第５遺構面（標高約2.4m）である。

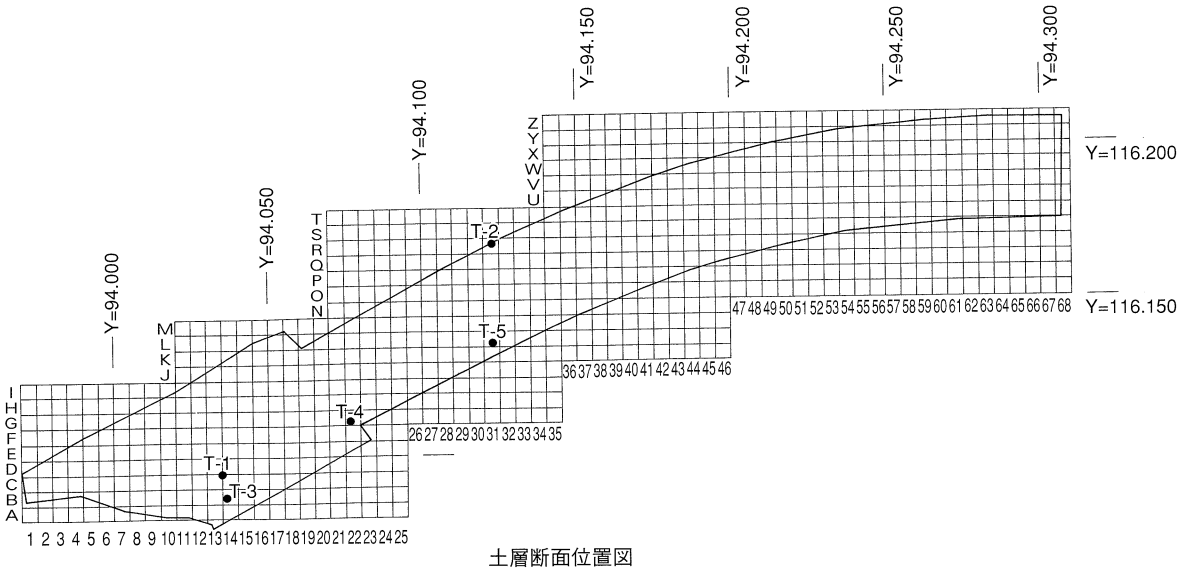
地区によって遺構面の拡がりに差がある。東側の１区では上層の遺構西側においては、新しい段階の遺構面のみが残存するが、東側に移るにつれてより古い段階の遺構面が下層で検出される。平成15年度に対象とした地点（４～６区）は、古墳時代前期～室町時代に至る５面の遺構面が残存した。

平成14年度の調査ではそのうち１～５区の第３遺構面までを完了しており、平成15年度では４・５区の第４遺構面以下と６区の各段階の遺構面を対象としている。

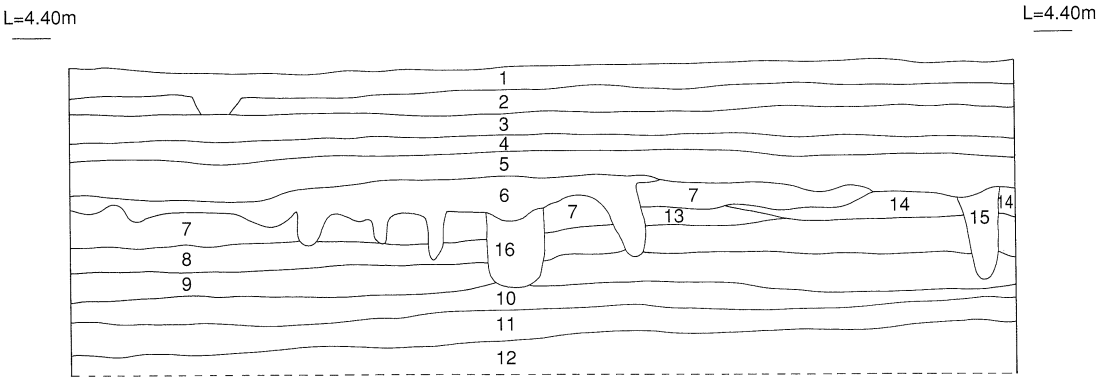


1 （耕作土）
2 （床土）
3 灰オリーブ色5Y5/2砂質土
4 暗褐色10YR3/3砂質土
5 暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
6 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土
7 オリーブ褐色2.5Y5/4砂質土
8 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
9 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
10 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
11 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
12 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
13 （SR4001 埋土）
14 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
15 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
16 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
17 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
18 オリーブ褐色2.5Y4/4中砂
19 褐色10Y4/6シルト
20 オリーブ褐色2.5Y4/3中砂
21 暗オリーブ色5Y4/4礫混じりシルト
22 灰オリーブ色5Y4/2粘土

第５図　模式柱状土層図

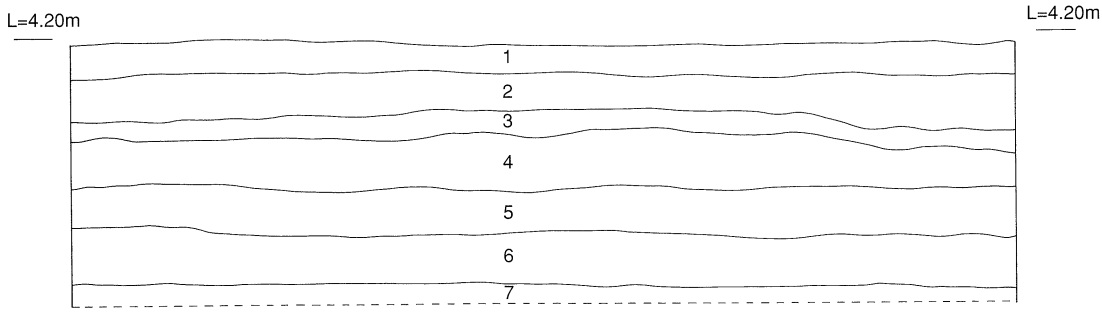


土層断面位置図



1 オリーブ黒色7.5Y3/2砂質土（床土）
2 灰オリーブ色5Y5/2砂質土（酸化鉄を30%含む。）
3 灰オリーブ色5Y4/2砂質土（酸化鉄を25%含む。）
4 暗褐色10YR3/3砂質土（土器片をわずかに含む。円礫をわずかに含む。）
5 暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（土器片をわずかに含む。）
6 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（土器片・炭化物を含む。）
7 黄褐～オリーブ褐色2.5Y4～5/4砂質土（砂質土を15%含む）
暗灰黄色2.5Y4/2
8 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（マンガン粒子を30%含む。）
9 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（マンガン粒子を40%含む。）
10 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（マンガン粒子を35%含む。）
11 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（マンガン粒子を10%含む。粘性強い。）
12 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（粘性強い。しまり強い。）
13 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（マンガン粒子を10%含む。炭化物を少し含む。）
14 黄褐色2.5Y5/4砂質土（マンガン粒子を5%含む。）
15 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（φ1mmの炭化物・土器片を含む。）
16 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（φ1～3mmの炭化物を含む。）

T-1　土層断面

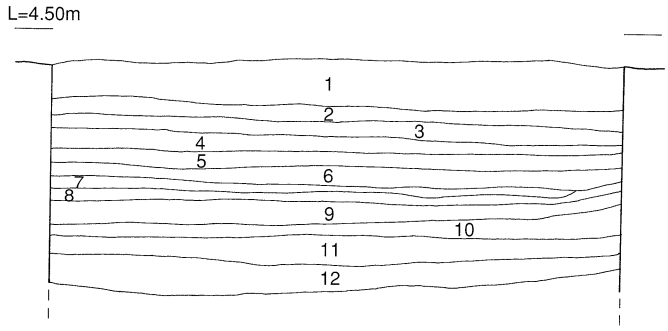


1 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（酸化鉄を15%含む。）
2 褐色10YR4/4砂質土（酸化鉄を70%含む。）
3 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
（マンガンを50%含む。炭化物・土器片をわずかに含む。）
4 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（土器片を3つの層より多く含む。）
5 暗褐色10YR3/3砂質土
（土器片を多く含む。φ5～15mmの円礫を10%含む。）
6 暗褐色10YR3/4砂質土
（土器片を多く含む。(5の層と同程度) φ5～20mmの円礫を10%含む。）
7 褐色10YR4/4砂礫
（しまりわずかにあり・粘性なし。砂：礫＝1：2。
砂は中～細粒砂、礫はφ2～20mmの円礫）

T-2　土層断面

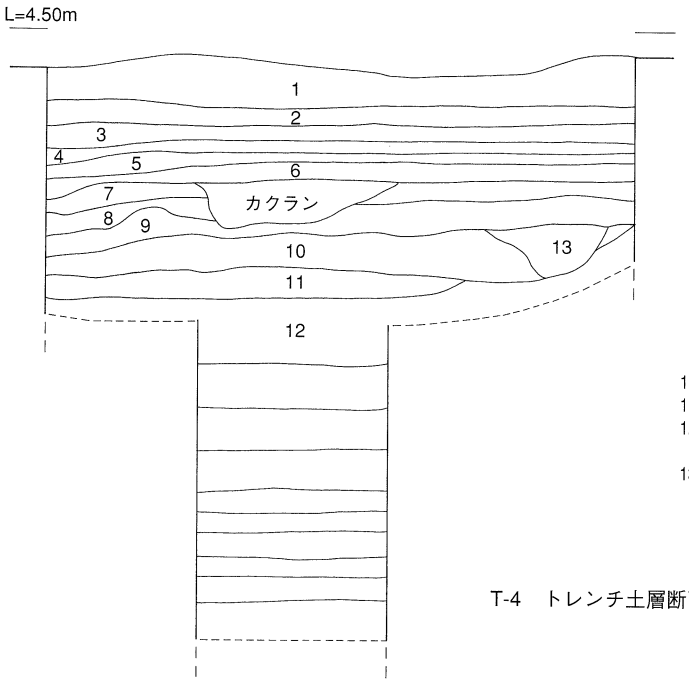
0　2m

第6図　トレンチ土層断面図1



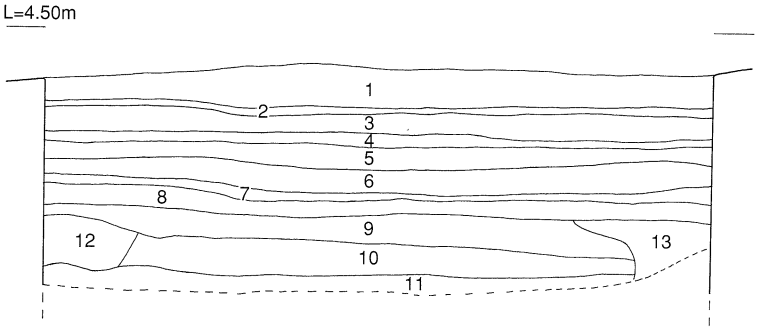
1　オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱い。粘性ややあり。耕作土）
2　明黄褐色10YR6/6砂質シルト（しまりややあり。粘性あり。鉄分20%含む。）
3　明黄褐色10YR6/6砂質シルト（しまりあり。粘性あり。角礫φ10mm1%含む。）
4　にぶい黄橙10YR6/4砂質シルト（しまりややあり。粘性ややあり。）
5　黄褐色10YR5/8砂質シルト（しまりややあり。粘性あり。鉄分30%含む。）
6　暗灰黄色2.5Y5/2粘質土（しまりあり。粘性あり。）
7　明褐色7.5YR5/6砂質シルト（しまりあり。粘性あり。鉄分25%含む。）
8　橙色7.5YR6/6砂質シルト（しまりあり。粘性ややあり。）
9　オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
（しまりあり。粘性あり。角礫φ20～30mm1%含む。遺物少量含む。マンガン20%含む。）
10　暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土
（しまりあり。粘性あり。遺物多量に含む。マンガン50%含む。）
11　オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土
（しまりあり。粘性あり。砂岩角礫φ10～20mm1%含む。遺物多量に含む。）
12　黄褐色2.5Y5/4粘質土
（しまりあり。粘性あり。円礫φ20～30mm1%含む。遺物多量に含む。）

T-3　トレンチ土層断面



1　オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱い。粘性ややあり。）
2　明黄褐色10YR6/6砂質シルト（しまりややあり。粘性あり。鉄分20%含む。）
3　明黄褐色10YR6/6砂質シルト（しまりあり。粘性あり。角礫φ10mm1%含む。）
4　にぶい黄橙色10YR6/4砂質シルト
（しまりややあり。粘性あり。マンガン15%含む。）
5　黄褐色10YR5/8砂質シルト（しまりややあり。粘性あり。鉄分3%含む。）
6　暗灰黄色2.5Y5/2粘質土（しまりあり。粘性あり。）
7　明褐色7.5YR5/6砂質シルト（しまりあり。粘性あり。鉄分25%含む。）
8　暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土
（しまりあり。粘性あり。マンガン50%。遺物少量含む。円礫φ10mm1%含む。）
9　オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
（しまりあり。粘性あり。マンガン20%含む。遺物少量含む。円礫φ10mm1%含む。）
10　黄褐色2.5Y5/4粘質土（しまりあり。粘性あり。遺物多量に含む。）
11　褐色10YR4/4粘質土（しまりあり。粘性あり。遺物少量含む。）
12　暗褐色10YR3/4粘質土
（しまりあり。粘性あり。円礫φ10mmをわずかに含む。遺物少量含む。）
13　にぶい黄褐色10YR4/3粘着土
（しまりあり。粘性あり。炭化物を少量含む。遺物多量に含む。）

T-4　トレンチ土層断面



1　オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
（しまり弱い。粘性ややあり。鉄分20%含む。）
2　明黄褐色10YR6/6砂質シルト
（しまりややあり。粘性あり。鉄分20%含む。）
3　にぶい黄色2.5Y6/4砂質シルト
（しまりややあり。粘性ややあり。鉄分3%含む。）
4　黄褐色2.5Y5/4砂質シルト（しまりややあり。粘性ややあり。
マンガン10%含む。鉄分5%含む。）
5　灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土
（しまりあり。粘性あり。鉄分3%含む。角礫φ5mm1%含む。）
6　灰オリーブ色7.5Y5/2粘質土（しまりあり。粘性あり。鉄分5%
含む。マンガン10%含む。円礫角礫φ5mm～20mm5%含む。）
7　灰オリーブ色5Y5/2粘質土（しまりあり。粘性あり。
円礫角礫φ10mm20%含む。遺物多量に含む。）
8　暗灰黄色2.5Y5/2粘質土（しまりややあり。粘性ややあり。
円礫角礫φ5mm～30mm10%含む。）
9　黄褐色2.5Y5/4粘質土（しまりあり。粘性あり。
円礫φ10mm～30mm5%含む。遺物多量に含む。）
10　黄褐色2.5Y5/4粘質土（しまりあり。粘性あり。円礫φ5mm～
30mm1%含む。炭化物を少量含む。遺物少量含む。）
11　灰色7.5Y5/1粘質土（しまりあり。粘性あり。）
12　黒褐色2.5Y3/2粘質土（しまりややあり。粘性あり。
円礫角礫φ5mm～70mmを多量に含む。遺物多量に含む。）
13　黒褐色2.5Y3/2粘質土（しまりややあり。粘性あり。
円礫角礫φ5mm～20mmを少量に含む。遺物少量に含む。）

T-5　トレンチ土層断面

0　2m

第７図　トレンチ土層断面図２

2　遺構と遺物

発掘調査の概要

平成13年度の試掘調査の結果をもとに、平成14～15年度にかけて対象地全体に発掘調査を実施した。調査区は園瀬川に沿って東西に約300mと長く、地点により遺構面・遺構・遺物の粗密がみられる。概して調査区西側、寺山に向かって遺構・遺物ともに増大する傾向にある。

平成14年度の調査では、５時期（遺構面）（鎌倉～奈良・平安～古墳～弥生終末）の遺構および遺構面が確認された。しかしながら、当初の試掘段階において未確認であった遺構面の検出もあり、平成14年度は第３面までの発掘調査を完了した。平成15年度に以降の遺構面について継続的に調査を行うこととした。

第１遺構面（13世紀後半～14世紀前半頃）では、埋納銭遺構をはじめ、掘立柱建物跡、溝、土坑、柱穴などを確認した。出土遺物では大量の銭貨（埋納銭）、銅鏡（和鏡）、和泉型瓦器椀、土師質土器坏・皿・鍋・釜、青・白磁などが出土した。

第２遺構面については、調査区西側で大溝（区画溝）に囲まれた範囲に掘立柱建物跡を含む柱穴群や土壙墓群が検出された。特に調査区中央部では廃棄あるいは整地に用いられたと思われる大量の土師質土器杯・皿が広範囲にわたり出土した。平成15年度には仮設道路としていた部分を追加し６区として調査を実施した。この６区では、最も上位の層からを対象としたが、作業工程を考慮して第２遺構面より下位を対象とした。

第３遺構面は遺物・遺構ともに密度が低く、少数の溝・小穴・土坑および竪穴状遺構を検出した。遺構内埋土はやや不明瞭で赤褐色を呈するものが基本で、第２遺構面のものとは容易に識別できる。出土遺物量は少ない。

第４・第５遺構面は、平成14年度に遺構の検出および一部遺構掘削を行い、平成15年度に調査継続した。第４遺構面は７世紀前半頃の竪穴住居跡などを検出し、第５遺構面は弥生終末～古墳時代初頭頃の遺物を含む自然流路であることが確認された。

第４遺構面は対象地の東西に自然流路（SR4001・SR4002）が検出され、その間に竪穴住居が密集して検出された。特に５区では、すべての住居が複雑に重なり合うように築かれていた。

第５遺構面は第４遺構面と比較して、自然流路に切られる分だけさらにせまい範囲での遺存である。第４遺構面の住居とほぼ重複するような位置で竪穴住居が検出され、隅丸方形の平面プランで、一辺が４m前後と第４遺構面の場合と比較してやや小さく、炉については検出できなかったものが多い。土器の年代からみて、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての幅がある。

各遺構面の概要（第８～18図）

各遺構面の概要は以下のとおりである。

第１遺構面では、埋納銭遺構をはじめ、掘立柱建物跡、溝、土坑、柱穴などを確認した。出土遺構のなかには水田の用水路等、近世（江戸）期に構築されたものも含まれている。

第２遺構面では、2000基を上回る遺構が検出され、遺構の密度も濃厚である。ただし、この中には掘り込み面が、第１遺構面からのものも相当数含まれている。

遺構の内訳は、柱穴になるとみられる小穴を中心に、やや大形の土坑・溝・不整形土坑からなる。埋

土は、いずれも非常に暗い色調の暗褐色となるのが基本で、プランの検出は容易である。小穴の一部には柱が沈み込まないように根石を据えるものがあり、また第２遺構面の検出面からの深度が１ｍを超えるものもある。埋土の暗褐色土自体に土器の細片を多く含んでおり、その他にも土師器杯などを納めたものもみられた。

第３遺構面は、約400基の遺構が検出された。遺構密度は粗である。小穴・溝・土坑などが含まれる。埋土はやや不明瞭で赤褐色を呈するものが基本で、第２遺構面のものとは容易に識別できる。出土遺物量は少ないが、赤色塗彩やヘラ記号を施したものも確認される。

第４遺構面は、対象地の東西に自然流路（SR4001・SR4002）が検出され、その間に竪穴住居が密集して検出された。特に５区では、すべての住居が複雑に重なり合うように築かれていた。住居は平面形が一辺５ｍを超える隅丸の方形で、竈をもつものでは、煙道が住居外にのびている。住居内には、４基の主柱穴があり、上屋を支える構造となっている。床面には若干粘性のある土を敷き詰めて貼床とする。竈は14棟で残存しており、北壁あるいは西壁沿いに焚き口を設ける。上面が削平されていて、深度は５～20㎝である。埋土の色調はベースとの違いがほとんど変わらず、識別は困難で、切合いについても早い段階でのトレンチによる断面観察で確認を進めた。住居内の遺物の残存には個体差がみられ、床面に使用時に近い状況をとどめている場合と無遺物に近く日常的に使用する器を持ち出している場合がある。住居のほかに土坑などが数基検出されており、土器・鉄鏃などが出土した。

第５遺構面は第４遺構面と比較して、自然流路に切られる分だけさらにせまい範囲での遺存である。第４遺構面の住居とほぼ重複するような位置で竪穴住居が検出された。住居は隅丸方形の平面プランで、一辺が４ｍ前後と第４遺構面の場合と比較してやや小さい。柱穴は明瞭に識別できるものの、炉については検出できなかったものが多い。貼床はないものが多いか、不明瞭。上面はやはり削平を受けており、20～40㎝の深度を有する。埋土はベースよりもわずかに暗灰色を呈し粘性もあり、第４遺構面よりは識別は容易。住居内の遺物は非常に少なく、多くは持ち出され、あるいは隣接する自然流路内に廃棄された。土器の年代からみて、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての幅がある。

主な遺構

今年度の調査では５時期の遺構面が確認されたが、当初予想された寺の存在を直接的に示唆する遺構を捉えるに至らなかった。出土遺構には約3,700枚が出土した埋納銭遺構をはじめ、盛土整地した後に片岩の板石を組み、上面に円礫が敷き詰めて構築された何らかの祭祀のための遺構と考えられる石組遺構や同様にして構築されている何らかの建築物に関連すると思われる石敷遺構の他、大溝（区画溝）・柱穴群（掘立柱建物）・土壙墓・土坑（土器溜まり遺構）・竪穴住居跡（古墳）・自然流路などが確認された。概略は以下のとおりである。

第１遺構面（鎌倉時代後半～室町時代：13世紀後半～14世紀前半頃）
　埋納銭遺構・掘立柱建物跡・溝・水路・井戸・溝・土坑・柱穴　など
第２遺構面（鎌倉時代：13世紀前半頃）
　掘立柱建物跡・石敷遺構・石組遺構・大溝（区画溝）・土壙墓・
　土坑（土器溜まり含む。）・柱穴　など
第３遺構面（平安時代：９～10世紀頃）

溝・土坑・柱穴・竪穴状遺構　など

第４遺構面（古墳時代後期頃６世紀末～７世紀前半頃）

竪穴住居跡・土坑・柱穴・自然流路　など

第５遺構面（弥生時代終末～古墳時代前期頃：２世紀～４世紀）

自然流路

主な遺物

遺物では圧倒的に土師質土器杯・皿の出土が多い。特に第２遺構面の調査区中央部で、暗褐色砂質土約400㎡、層厚40㎝にわたり、廃棄されたと思われる土師質土器坏・皿が大量に出土した。整理中のため、実数は不確定であるが、この地点だけでコンテナ200箱、点数は200,000点を超える。各遺構面の出土遺物の概要は以下の通りである。瓦器椀の分類は尾上分類に準拠した。

なお、出土遺物については大量に出土しているため、土器観察表に記述は譲る。本文中においては１点１点を列挙して解説は加えていない。

第１遺構面（13世紀後半～14世紀前半頃）

銅鏡、銭貨（埋納銭）、和泉型瓦器椀・小皿、土師質土器杯・皿・小皿（底部糸切り）・鍋・釜、青・白磁　など

第２遺構面（13世紀前半頃）

和泉型瓦器椀・小皿、土師質土器椀・坏・皿・小皿(底部ヘラ切りを含む)・鍋・釜、青・白磁・瓦・石鍋　など

第３遺構面（９～10世紀頃）

土師器高杯・椀・皿・小皿・甕・竈、黒色土器椀、緑釉陶器　など

第４遺構面（６世紀末～７世紀前半頃）

須恵器杯　など

第５遺構面（弥生時代終末～古墳時代前期頃）

弥生土器甕　など

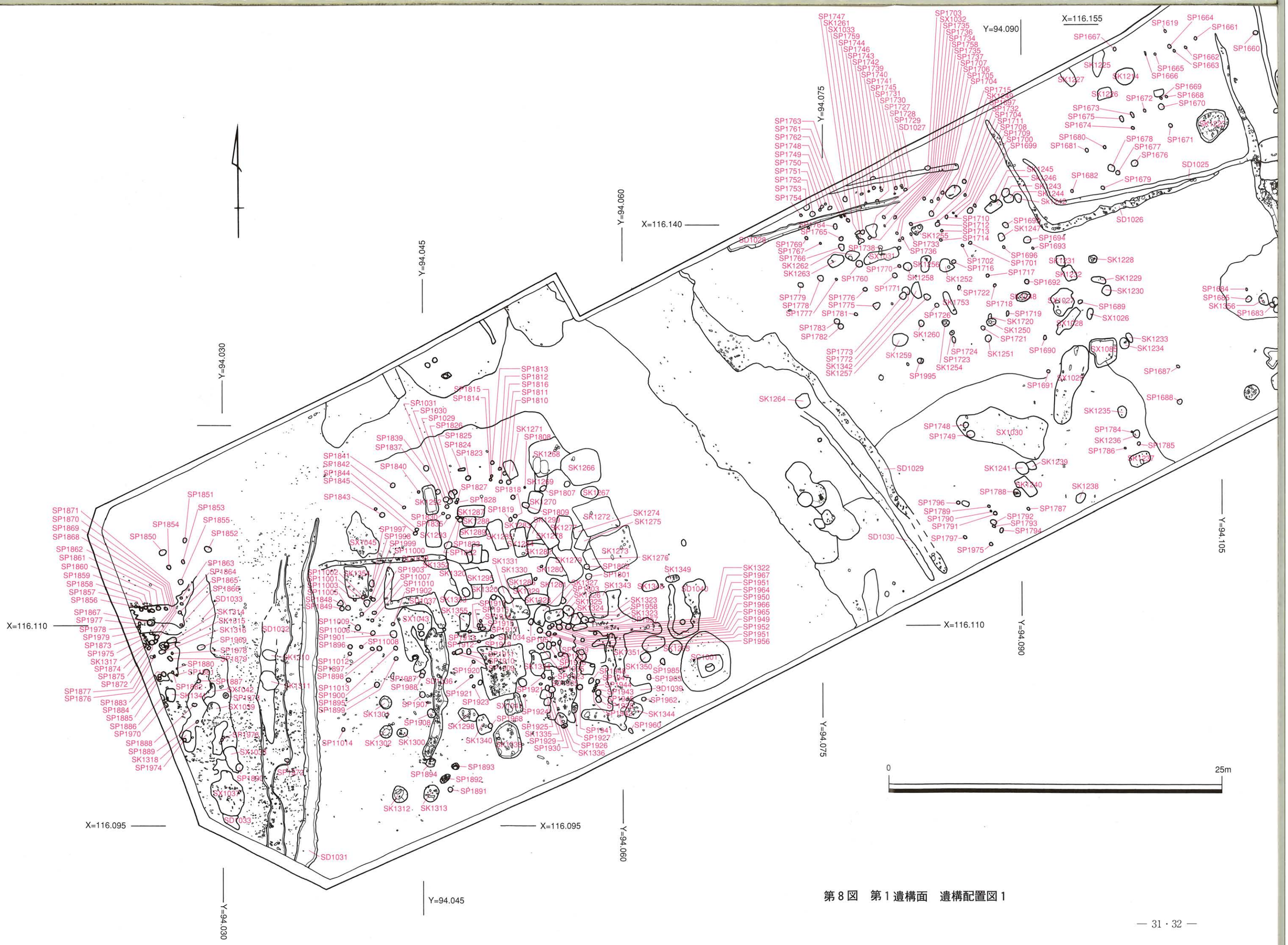
遺物総点数　　480,000点

コンテナ総数　　600箱

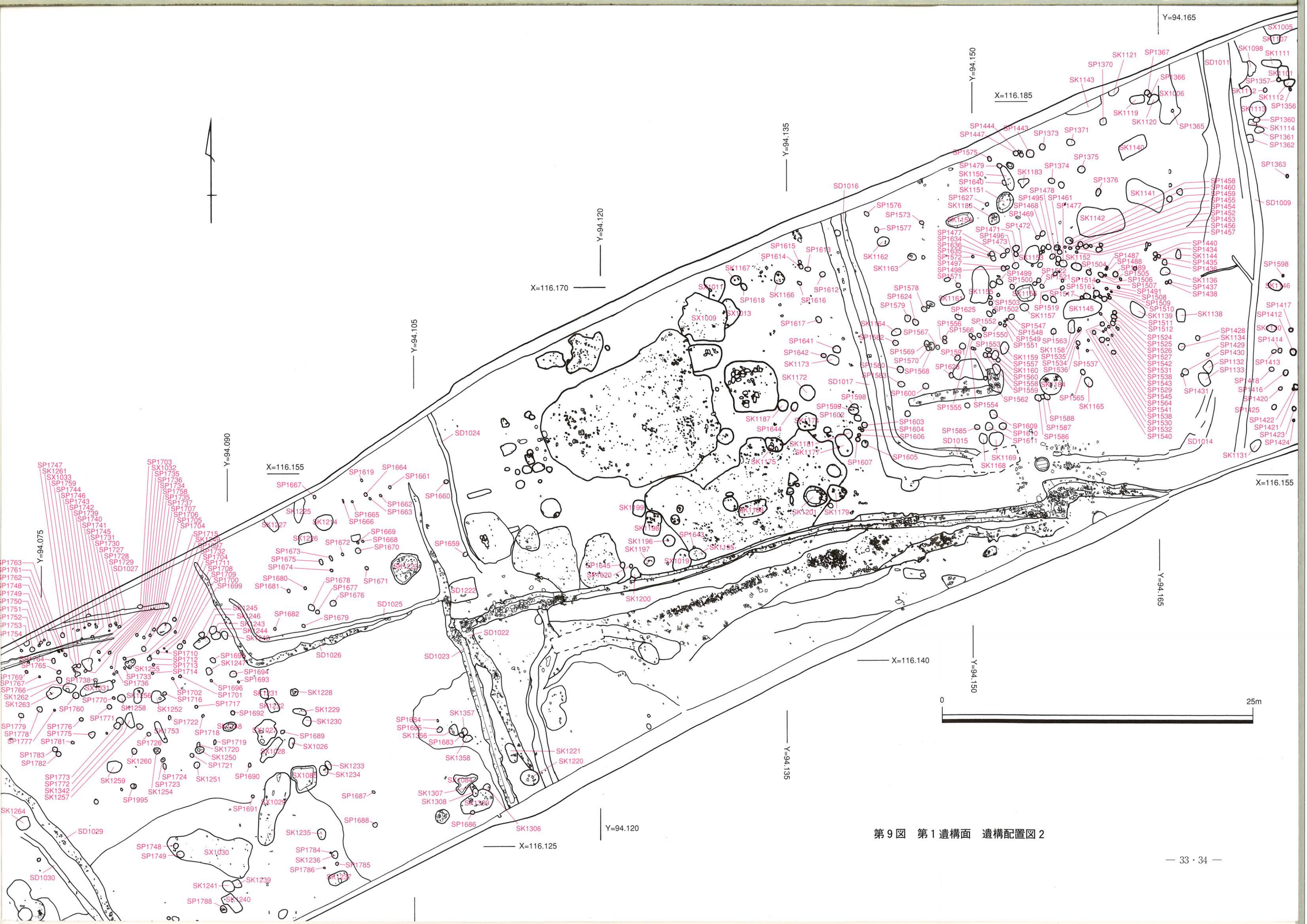
引用・参考文献

横田賢次郎・森田　勉「太宰府出土の輸入陶磁器について　―型式分類と編年を中心として―」『九州歴史資料館研究論集』４　1978

尾上　実「南河内の瓦器椀」『古文化談叢』1983



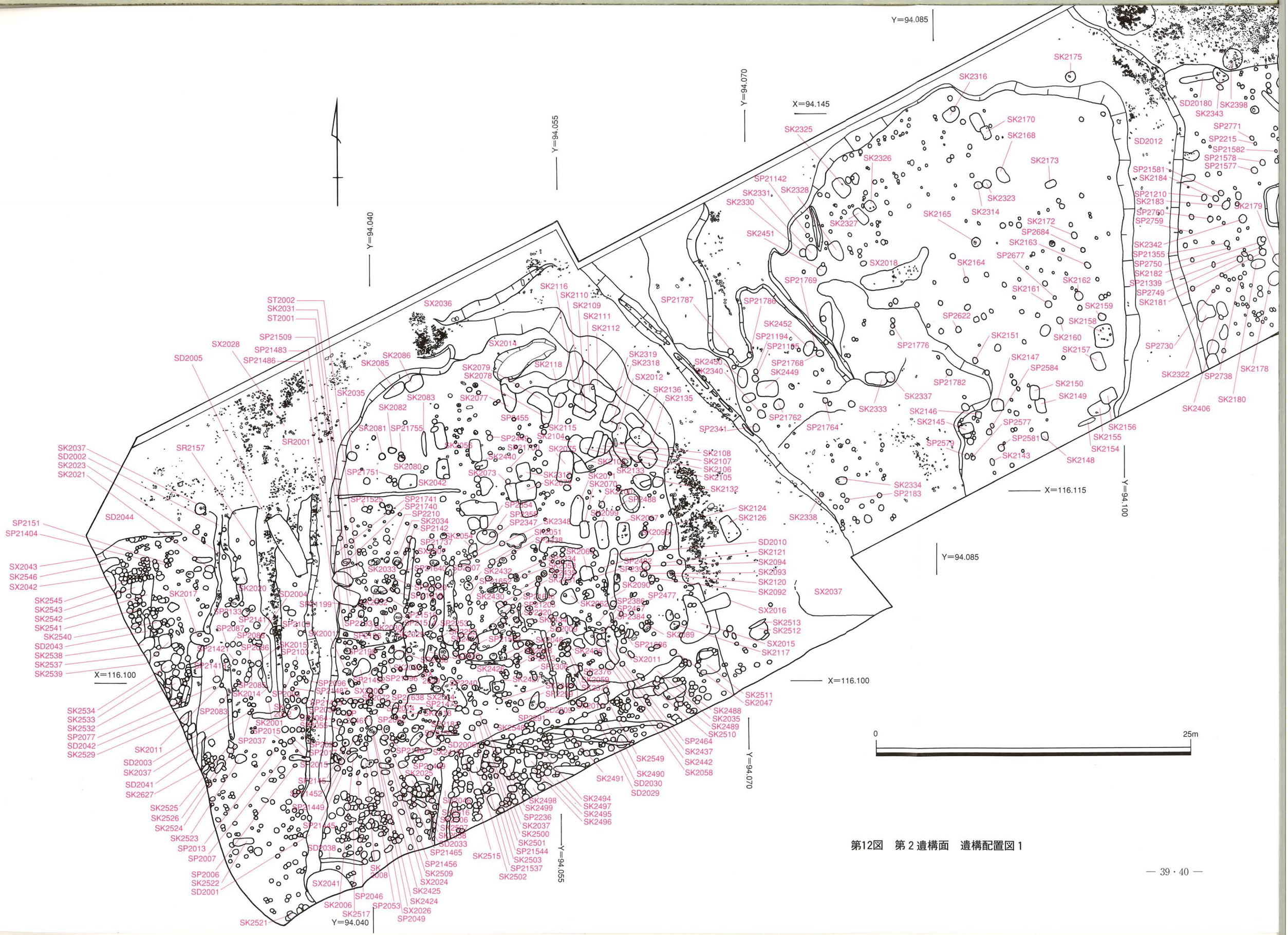
第８図　第１遺構面　遺構配置図１



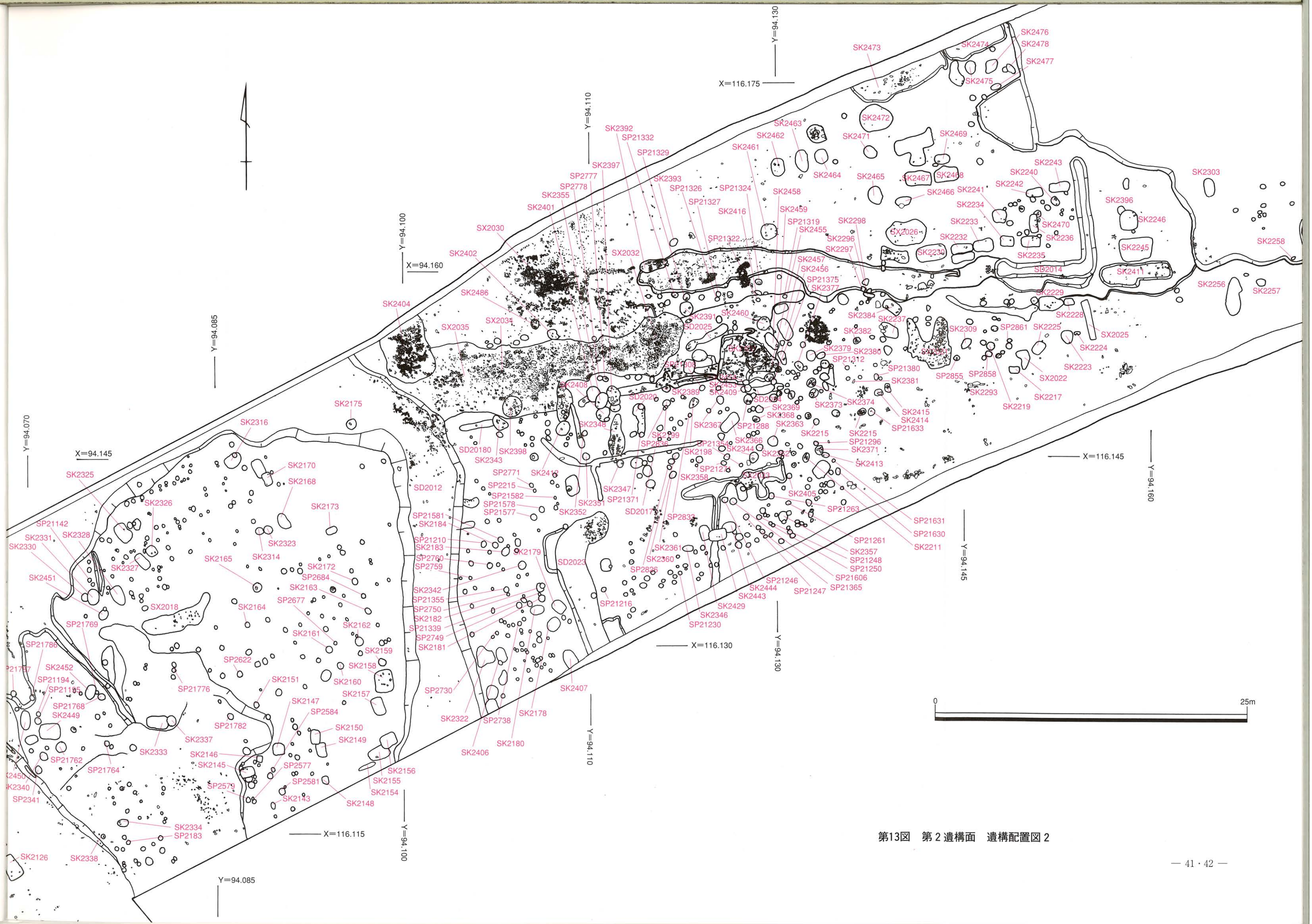
第９図　第１遺構面　遺構配置図２

第10図　第１遺構面　遺構配置図３

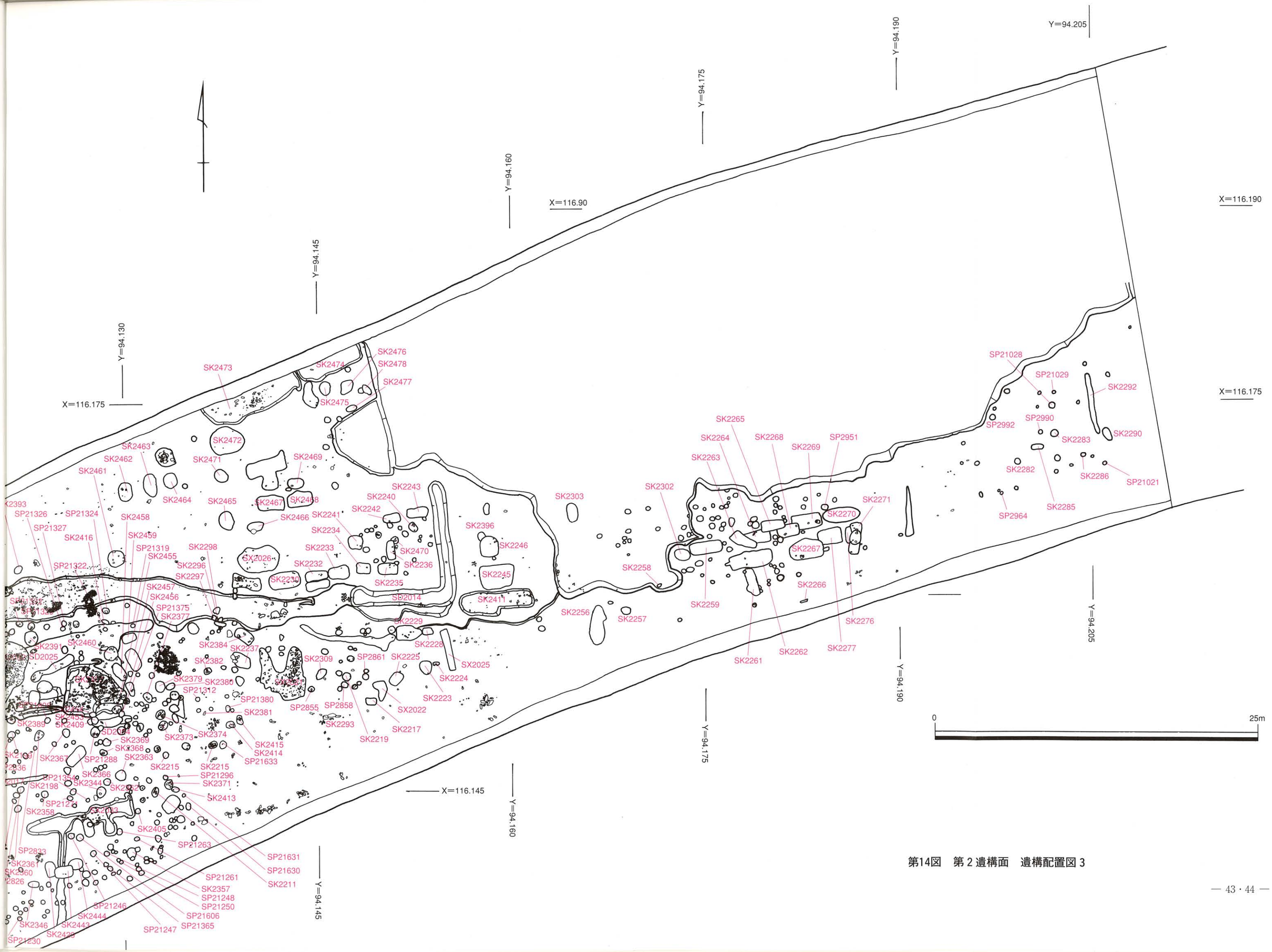
第11図　第１遺構面　遺構配置図４



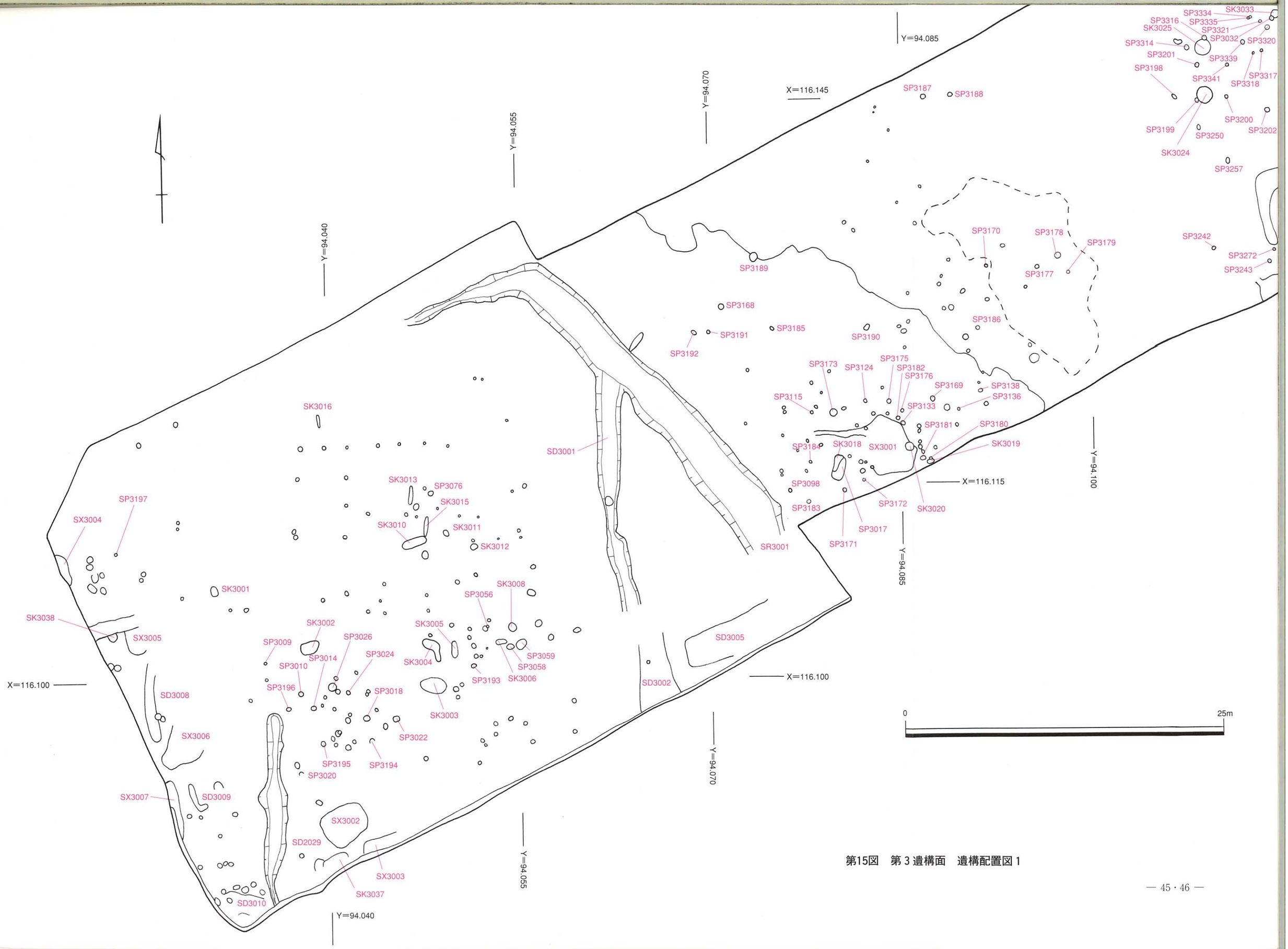
第12図　第２遺構面　遺構配置図１



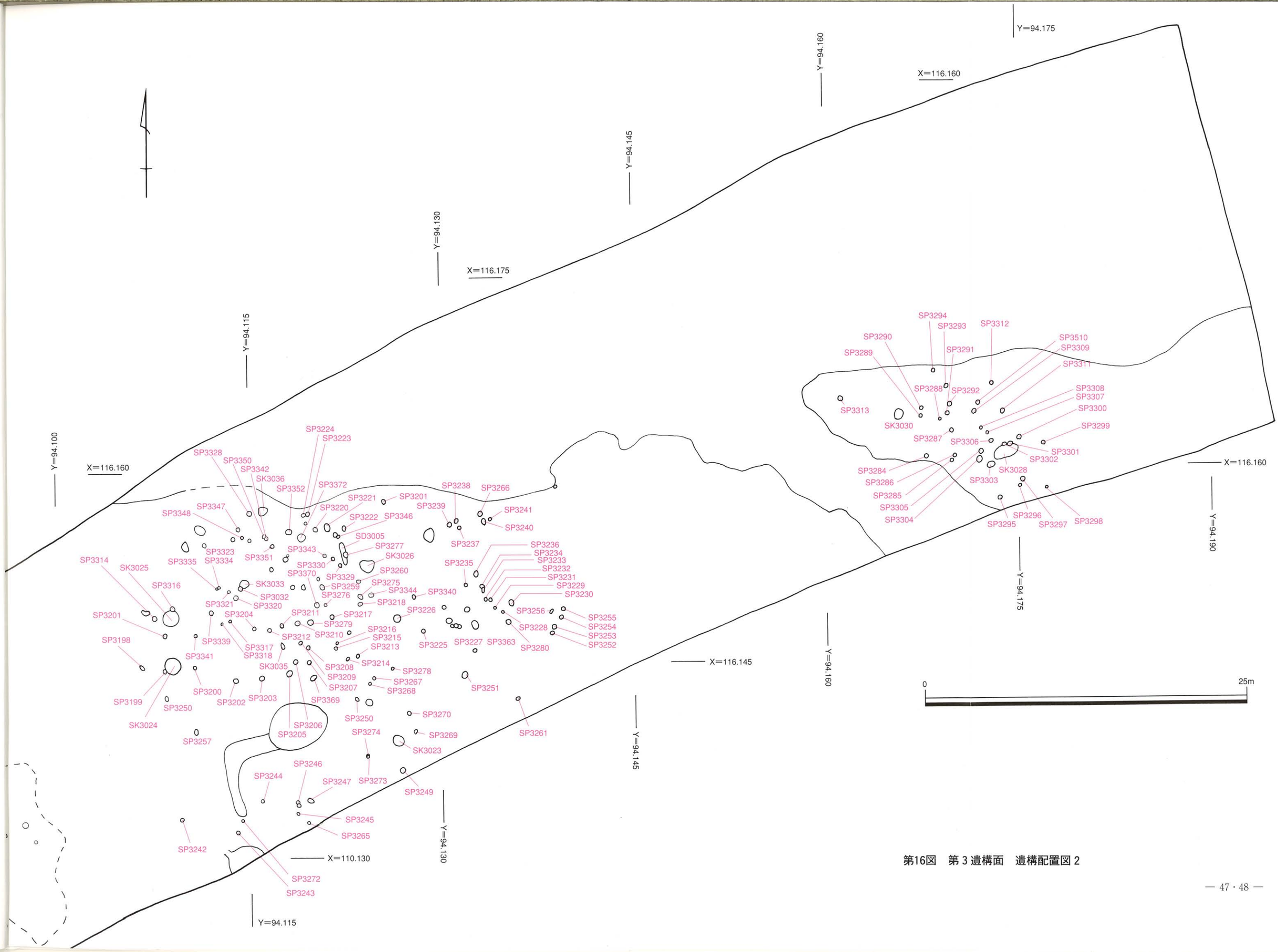
第13図　第２遺構面　遺構配置図２



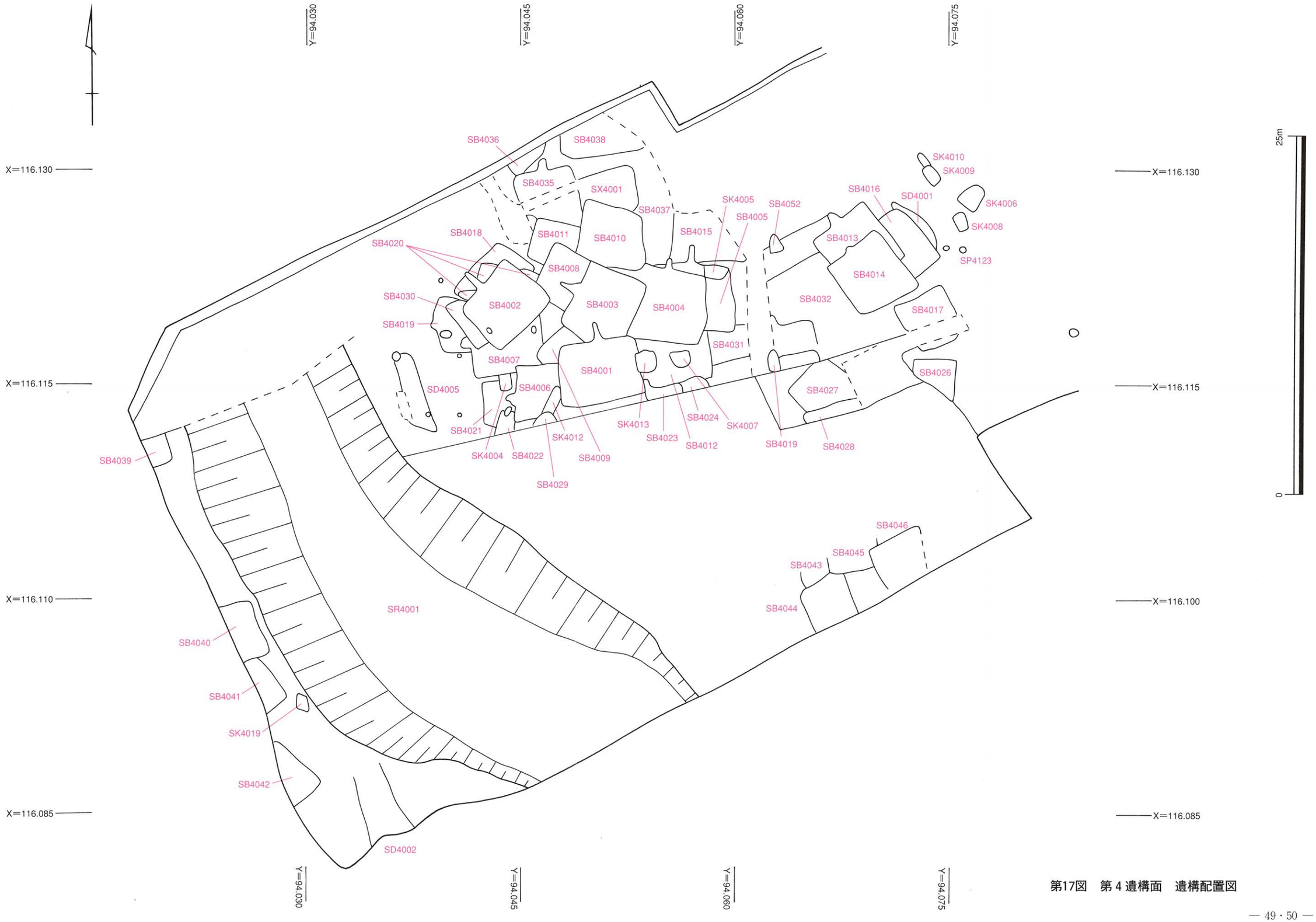
第14図　第２遺構面　遺構配置図３



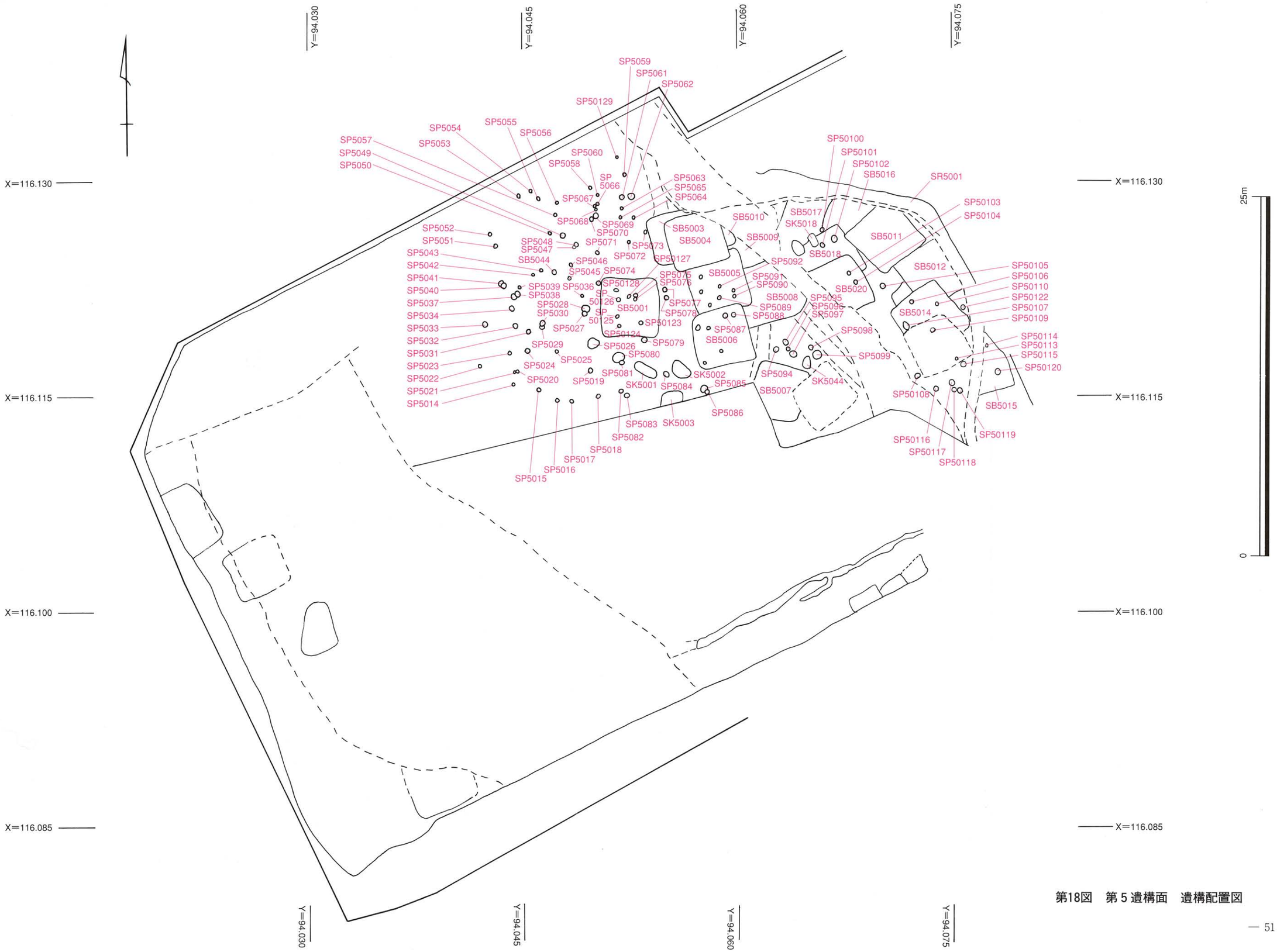
第15図　第３遺構面　遺構配置図１



第16図　第３遺構面　遺構配置図２



第17図　第４遺構面　遺構配置図



第18図　第５遺構面　遺構配置図

(1) 第１遺構面（鎌倉時代後半～室町時代）

第１遺構面（鎌倉時代後半～室町時代：13世紀後半～14世紀前半頃）

第１遺構面においては、調査区東側では地鎮ピットから銅鏡が出土した以外は、特に目立つ遺構は検出されなかった。水田区画と思われる数条の畦畔状遺構や溝が検出された。水田経営に伴う溝（水路）の地割は現在の地割とほぼ合致し、近世初頭から踏襲されてきたことがわかる。調査区西側では特筆すべき遺構として、鎌倉時代後半～末の遺物包含層・遺構面を切り込んで埋納銭遺構が検出された。発掘調査で確認され、埋納方法の詳細が判明した例としては本県では初めてである。

出土遺構（第８～11図）

SC1001（一括大量銭埋納坑）（第19・20図）

調査区西部、F・G－19・20グリッドで検出された一括大量銭埋納遺構である。宋銭や明銭など、渡来銭の大量出土の銭貨を総称して一括出土銭といい、中世に顕著な行為である。

調査地点の現況は水田であり、海抜約L＝4.5mを測る。大量出土銭検出面までの調査区の基本層序は、①表土（水田）②～④灰オリーブ色粘質土、⑤暗灰黄色粘質土（遺物包含層）、⑥灰オリーブ粘質土である。⑥層は鎌倉時代後半～末にかかる遺構面で、出土銭は⑤の遺物包含層を切り込んだ土坑に収められていた。出土銭（埋納銭）の検出面は現地表面から約１m下にあたる。

銭貨の埋納坑は長軸36.6㎝、短軸22㎝、深さ６㎝で長方形の平面を呈し、土坑の掘り方いっぱいに緡銭の状態で置かれていた。

検出時に上面の一部が遊離したが、ほぼ現状保存された状態で確認された。検出時においては、見かけ上は２緡１対で５列４段に並べ重ねた状態の緡が観察された。土坑内はオリーブ黒色粘質土で充填されていたが、銭の周囲の土は銅イオンの流出による黒灰色化・固結化がみられた。埋納銭上部への被覆粘土等は認められなかった。

精査の結果、緡と緡の間にズレや空間があり、各段にも不整列部がみられた。また上面、下底面の緡には凹凸があり、緡を束ねたと思われる植物性繊維が銭に付着していた。さらに緡表面全体にも植物性繊維が確認できた。この植物性繊維は、材質分析の結果、稲藁の紐と莚であった可能性が高いことが指摘されている。

これらのことから、10緡（一貫緡：1,000枚）を一緡ごとに両端を結び目にして折り返し、２ないし３列４段にまとめた銭緡・10緡（一貫緡：1,000枚）をつくる。これを藁紐で固定し、計４単位の小口を揃え、全体を莚状のもので梱包して藁紐で束ねた埋納方法が採られたと復元される。

出土遺物（銭貨）（第21～23図）

銭種と枚数

詳細は「まとめ」の項に記載するが、53種3,715枚（調査時）を数える。最古銭は五銖（後漢　初鋳年24年）、最新銭は至大通寶（元　初鋳年1310年）である。最多銭は皇宋通寶（北宋　初鋳年1038年）である。総重量は約13kgである。

約40緡のうち１緡の枚数が確定した20緡が97枚（文）、99・96枚（文）が３緡、94枚（文）が２緡、

98枚（文）が１緡あり、百文に満たない銭貨を百文に通用させる省百法が追認された。

SC1001周辺出土遺物（第24・25図）

SC1001埋納坑周辺は、灰オリーブ粘質土が薄く堆積していた。平面プランは不明瞭で、不定形な拡がりをみせる。SC1001埋納坑は、この灰オリーブ粘質土層を掘り込んでいる。

本来ならば、遺物包含層扱いとするところであるが、SC1001直上およびSC1001の位置するF・G－19・20とE・F－20グリッドを中心とした範囲を特に周辺出土遺物として取り扱った。

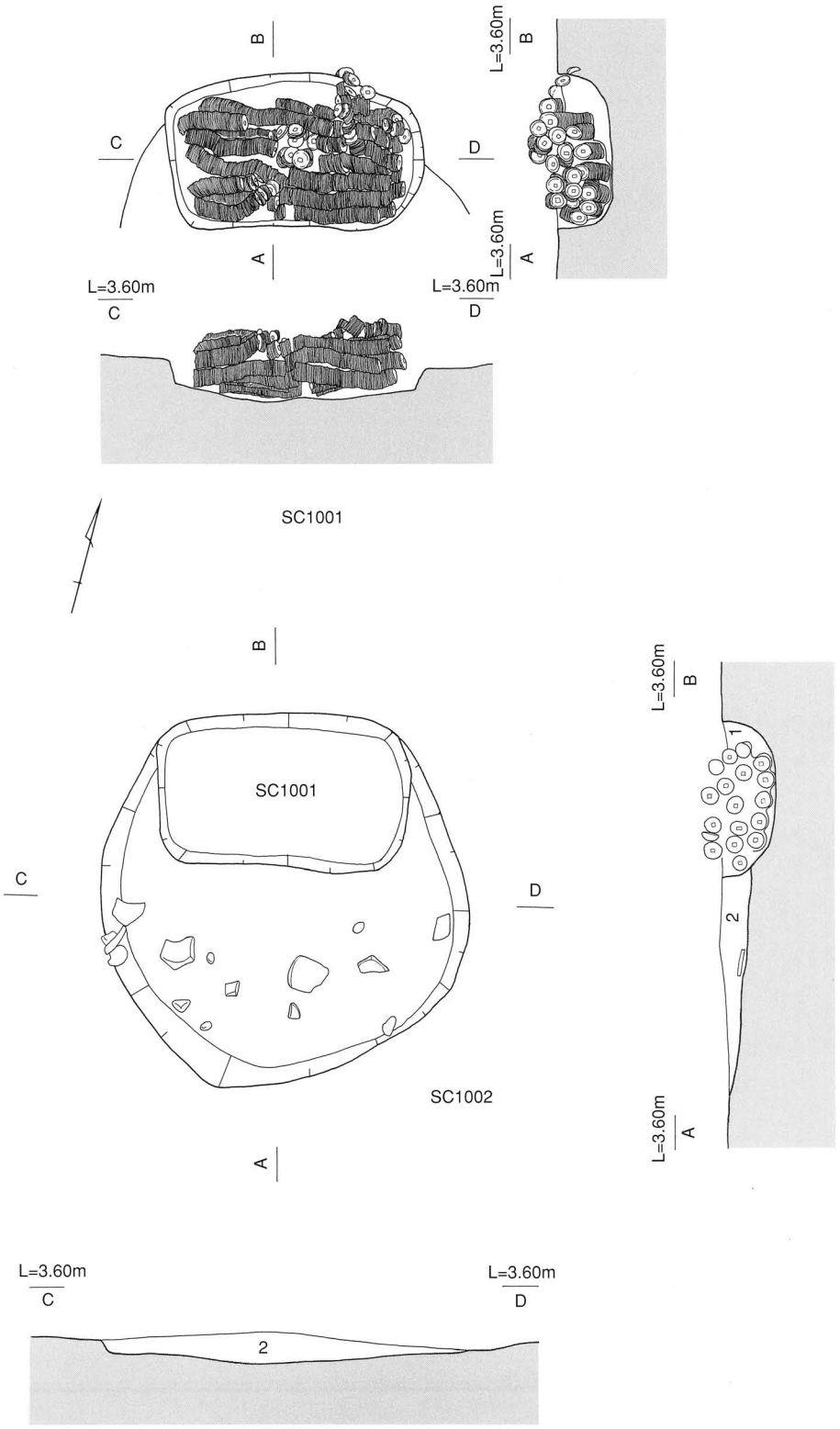
SC1001埋納坑周辺からは、土師質土器の杯・皿や瓦器、土師質の土錘などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。瓦器は和泉系で、時期的には概ね尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－２期に収まる。出土遺物には時期的な幅があるものの、SC1001の構築時期は周辺の状況からも概ね14世紀初頭頃と考えられる。

SC1002（一括大量出土銭関連遺構）（第19・20図）

F・G－19・20、調査区西側を調査区西部、F・G－19・20グリッドで検出された一括大量銭埋納遺構である。銭貨の埋納坑である長方形の平面を示すSC1001と切り合う。長軸53㎝、短軸32㎝、深さ４㎝の円形状の浅い土坑である。埋土は灰オリーブ色の粘質土で周辺との差異は微妙であり、若干色調が暗い程度である。SC1001の堀方と思われるが、銭貨の銅イオンの影響によるシミの可能性も残る。土坑内からは土師質土器・瓦器の細片などが出土した。

出土遺物（第25図）

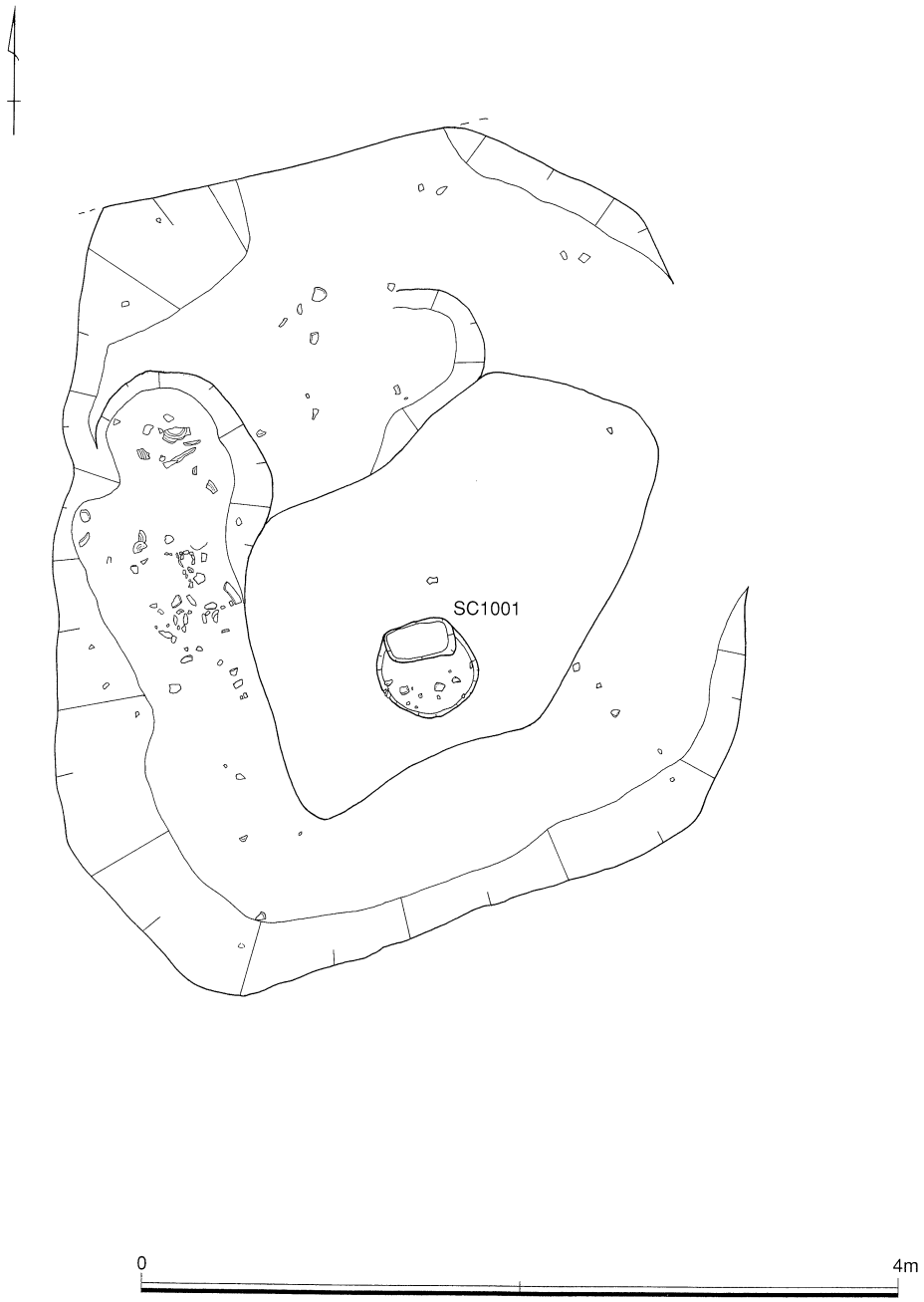
土師質土器や瓦器が出土したが、出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。24は和泉系の瓦器小皿である。



1　オリーブ黒色5Y3/2粘性砂質土
（シルト質で粘性強い。上面約1cm程度の範囲がやや黒ずむ。
銭と接する土（暗オリーブ灰色2.5GY3/1粘性砂質土）は銅イオンの
影響で固化している。緡銭表面には繊維状（植物）のものが付着。）
2　黒褐色2.5Y3/2砂質土
（マンガン・炭化物・土器細片含む。やや砂性強い。）

0　50cm

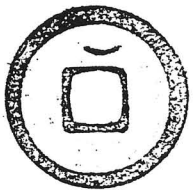
第19図　SC1001・1002平・立・断面図



第20図　SC1001周辺平面図

五　銖

開元通寶

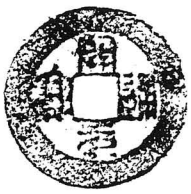


乾元重寶

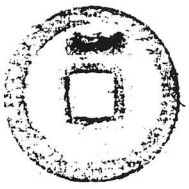
開元通寶

天漢元寶

唐國通寶


開元通寶

宋通元寶



太平通寶

淳化元寶

至道元寶

威平元寶

景德元寶

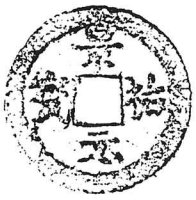
祥符元寶

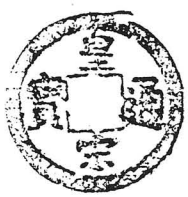
祥符元寶

天禧通寶

天聖元寶

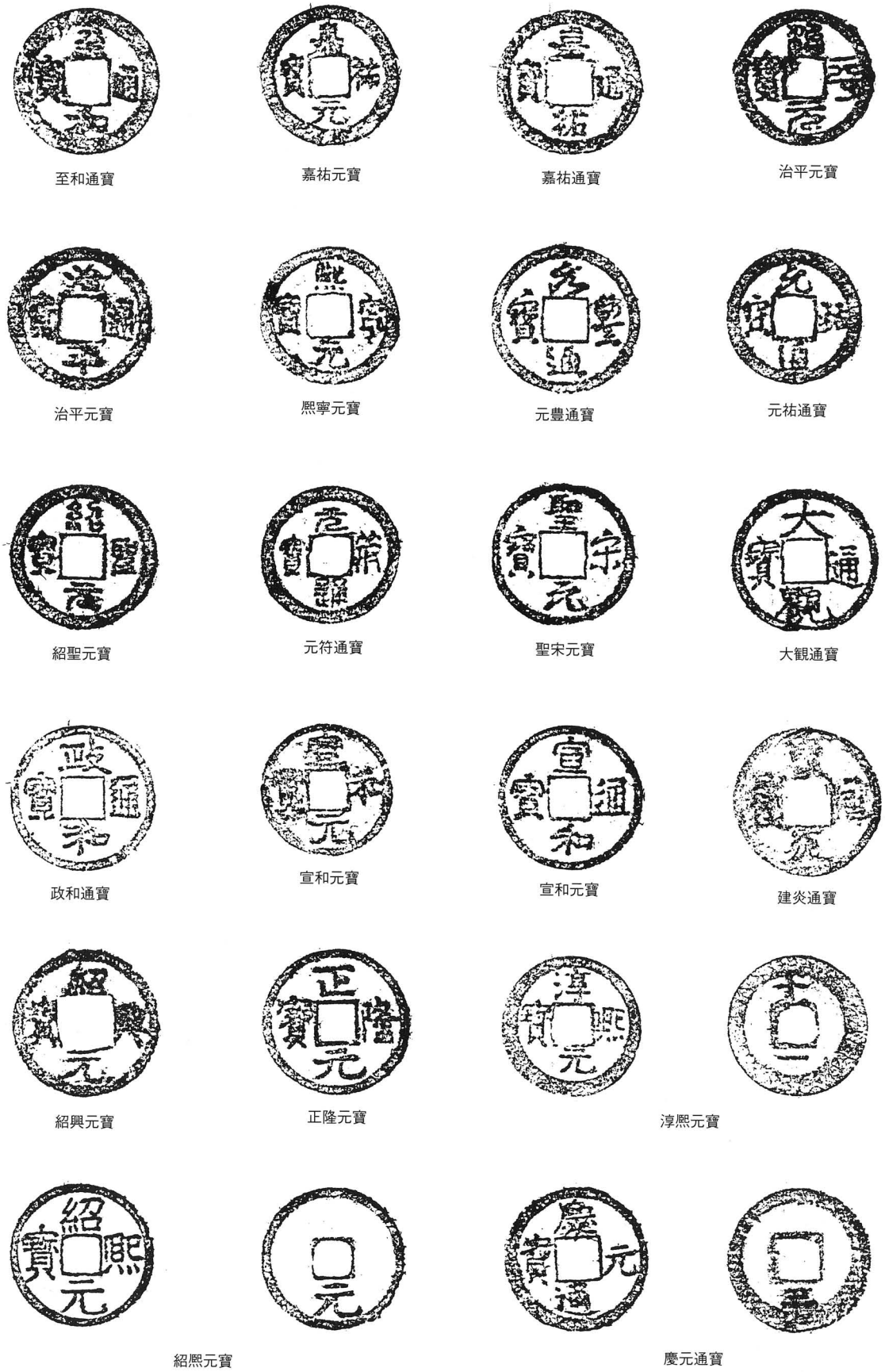
明道元寶


景祐元寶

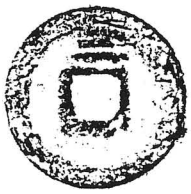

皇宋通寶

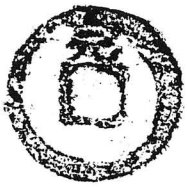
至和元寶

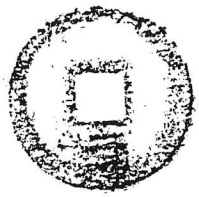
第21図　一括大量出土銭　拓影銭種１（S＝１／１）

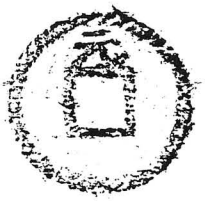


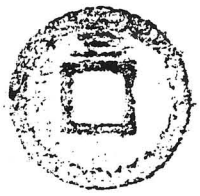
第22図　一括大量出土銭　拓影銭種２（S＝１／１）

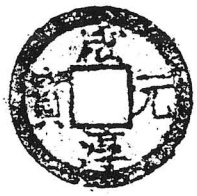




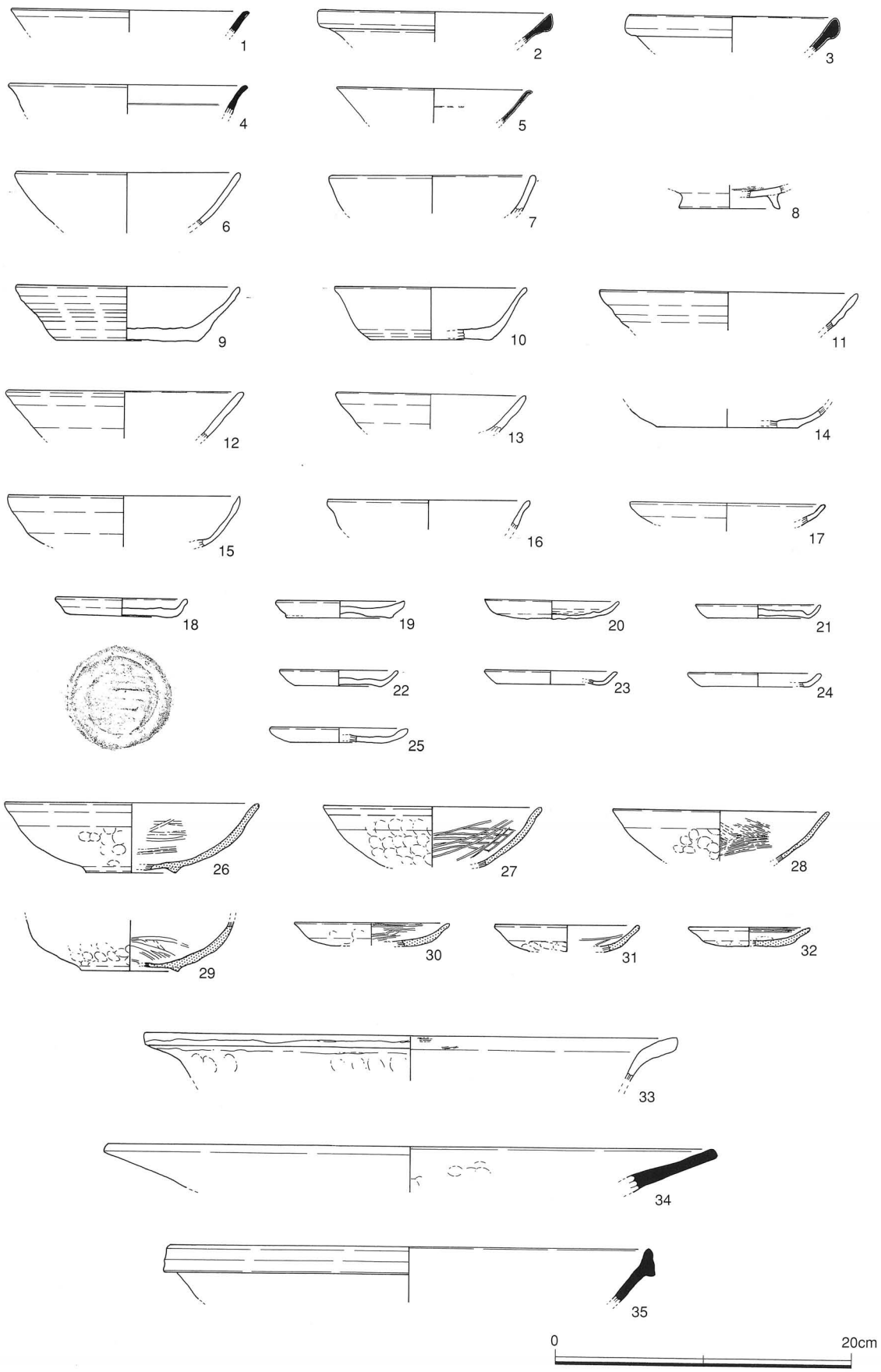




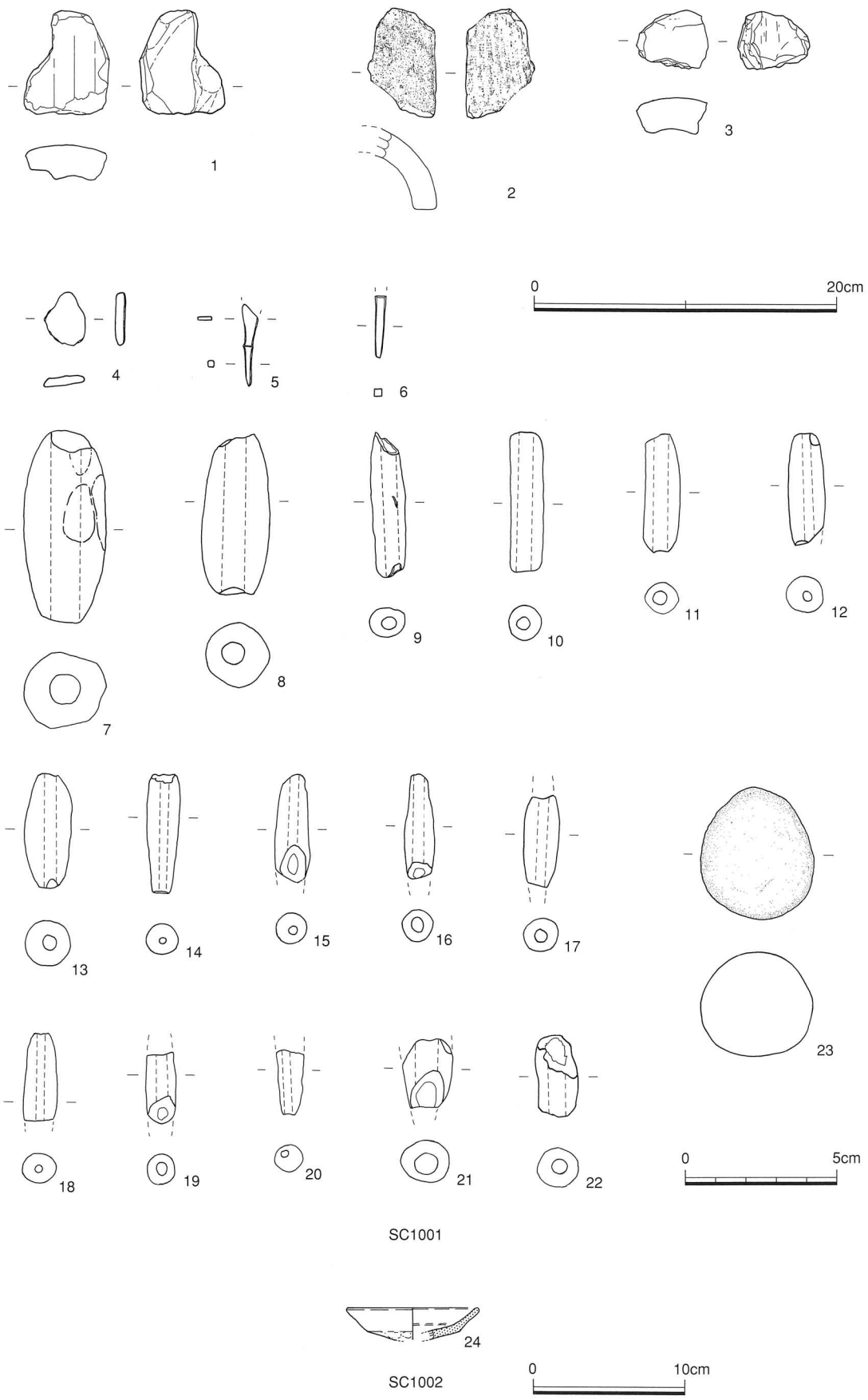




第23図　一括大量出土銭　拓影銭種３（S＝１／１）



第24図　SC1001出土遺物



第25図　SC1001・1002出土遺物

SD（区画溝・用水路）

地割を示す溝が40条検出された。これらの溝は、陶器や磁器などの17～19世紀頃の出土遺物が主体を占めることから、江戸期に形成されたものと思われる。これらの溝の大部分は現況の水田面の地割と重なっている。これらは代々踏襲されてきたものと考えられ、現況の地割には大きな変化はみられない。

検出された溝の中には、丸木杭あるは木杭跡が溝に沿って列状に残存しており、土留め板を支えていたものと考えられる。側板は残存していなかった。木杭は直径５㎝、長さ40㎝程度の自然木を用い、その一端を尖らしている。

出土遺物

近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿、古墳時代の須恵器等も出土しており、出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。出土須恵器等は後世の掘削時における二次的な埋没である。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。

SD1001

T～Z－56～68、調査区東側を東西方向に延びる水田耕作に伴う水路である。「コ」の字状に屈曲しながら延び、現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。両肩には溝に沿って鋸歯状に並ぶ木杭列がみられた。土留め板等の護岸がされていたものと思われるが、板材は遺存していなかった。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。時期的には江戸期以降のものと考えられる。

出土遺物（第26図）

肥前系をはじめとする近世期の陶・磁器類が主体的に出土している。土師質土器の杯・皿、古墳時代の須恵器等も出土しているが、これらの須恵器等は後世の掘削時における二次的な埋没である。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。

SD1003

S～Z－55・56、調査区東側を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。両肩には溝に沿って鋸歯状に並ぶ木杭列がみられた。土留め板等の護岸がされていたものと思われるが、板材は遺存していなかった。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。時期的には江戸期以降のものと考えられる。

出土遺物（第26図）

肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類が主体的に出土している。土師質土器の杯・皿、古墳時代の須恵器等も出土しているが、これらの須恵器等は後世の掘削時における二次的な埋没である。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。

SD1004

S～W－55・56、調査区東側を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。両肩には溝に沿って鋸歯状に並ぶ木杭列がみられた。土留め板等の護岸がされていたものと思われるが、板材は遺存していなかった。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。時期的には江戸期以降のものと考えられる。

出土遺物（第26図）

肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類が主体的に出土している。土師質土器の杯・皿・鍋・釜等も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。

SD1005

S～W－54・55、調査区東側を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。時期的には江戸期以降のものと考えられる。

出土遺物（第27図）

肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類が主体的に出土している。土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。

SD1006

Q～U－44～46、調査区東側を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね17世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。７は土師質土器の擂鉢である。

SD1007

Q～X－44・45、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は備前焼の擂鉢である。口縁部の肥厚は小さく、端部は四角く収める。

SD1009

P～W－40・41、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は備前焼の擂鉢である。

SD1014

O～R－38～41、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

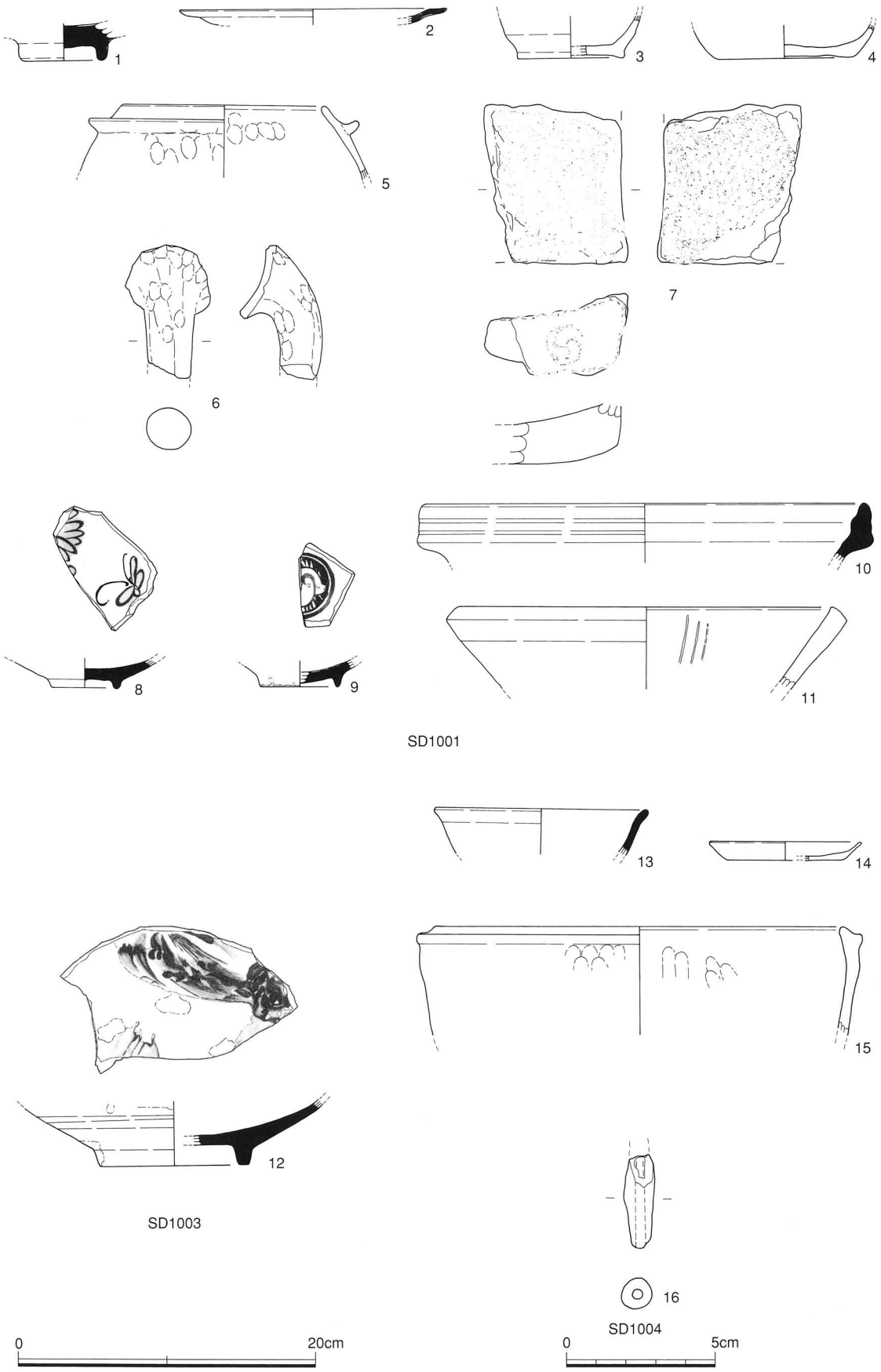
肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は唐津焼の皿である。みこみに砂目がみられる。

SD1016

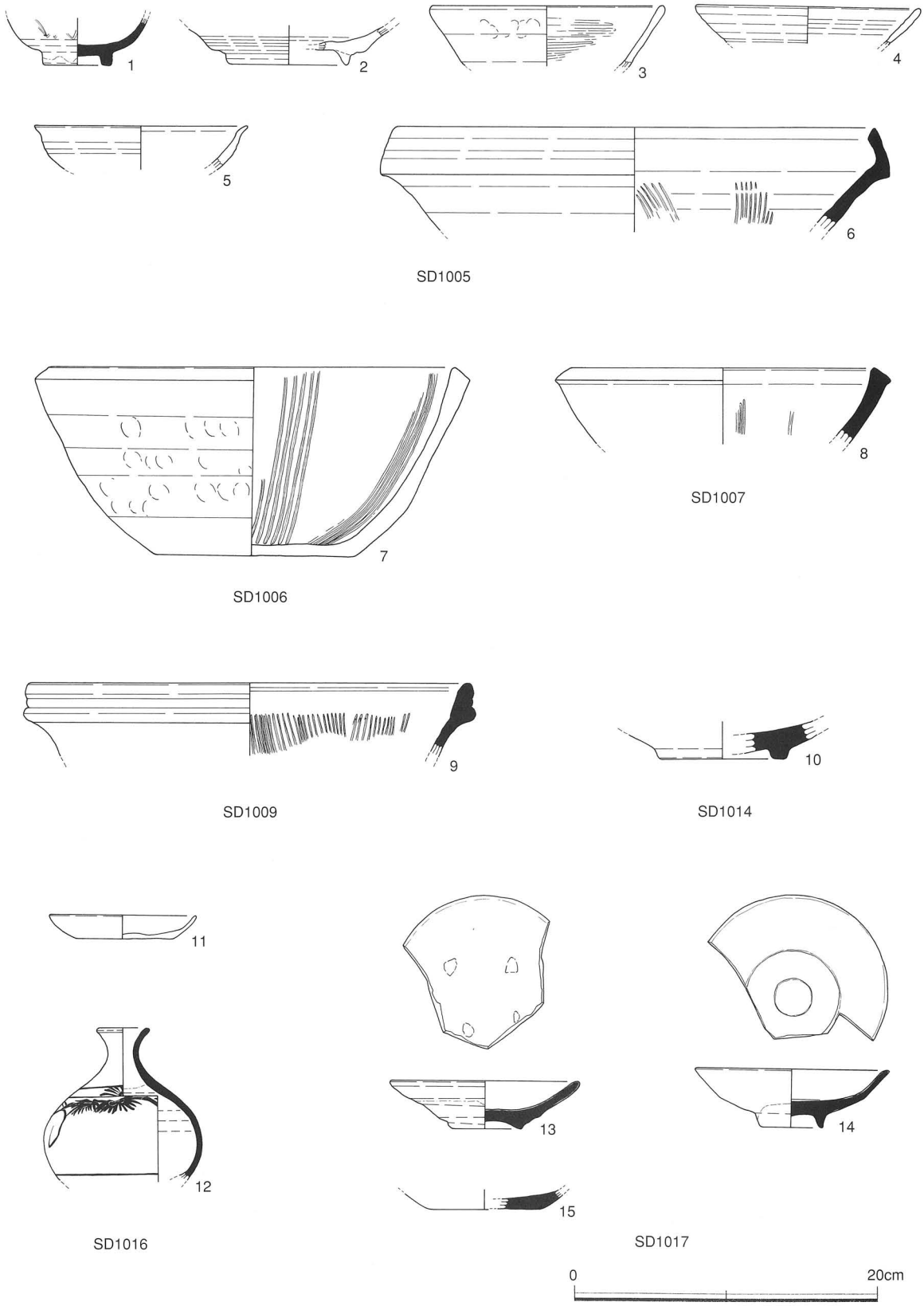
P～T－34・35、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

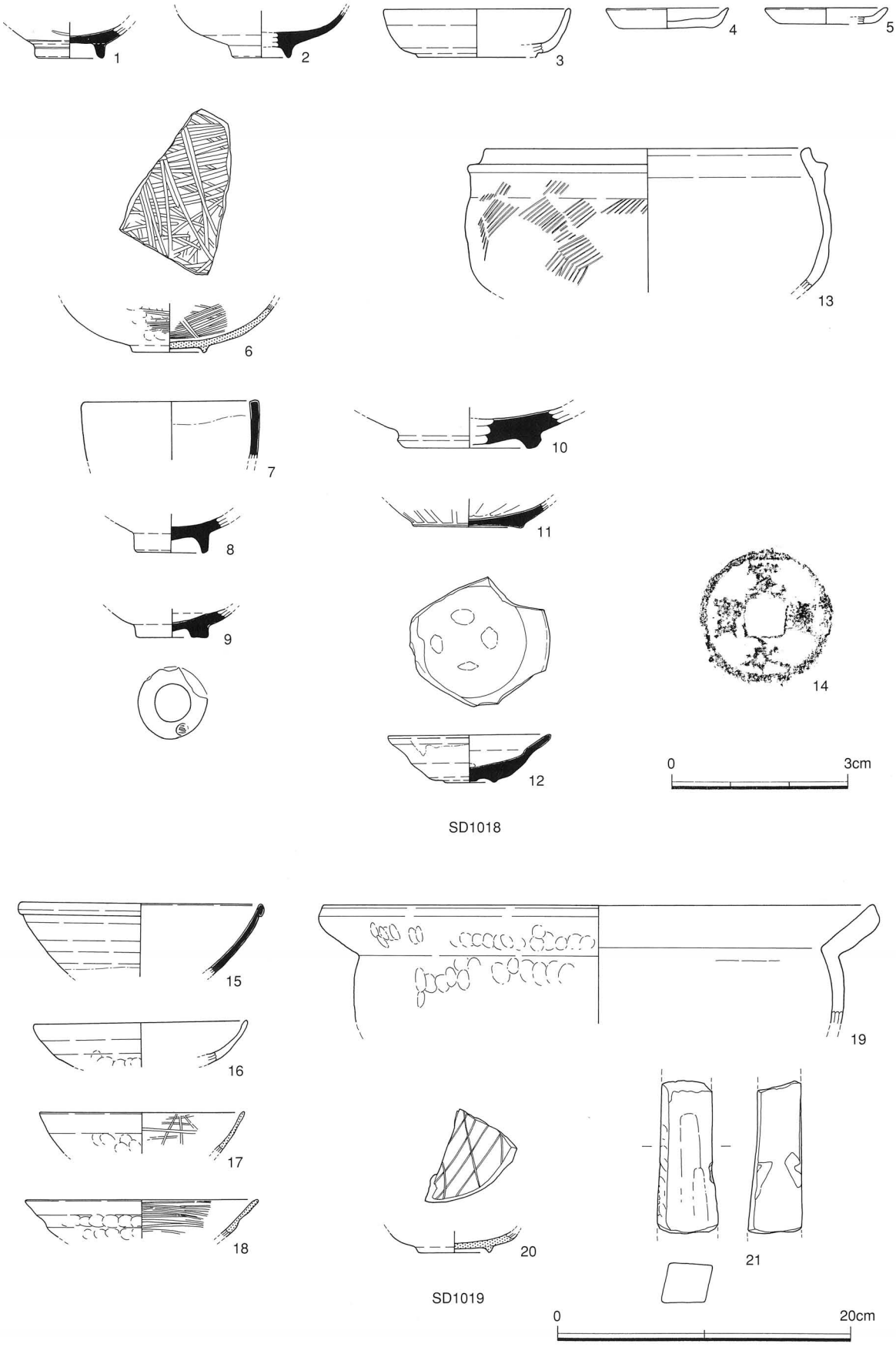
肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は肥前系の瓶である。



第26図　SD 出土遺物（1001・1003・1004）



第27図　SD 出土遺物（1005・1006・1007・1009・1014・1016・1017）



第28図　SD 出土遺物（1018・1019）

SD1017

O～R－35～37、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第27図）

肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。13～15は唐津焼の皿である。

SD1018

O～R－35～37、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第28図）

肥前系・瀬戸美濃系などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類、瓦器椀等も出土している。出土遺物は近世の陶・磁器が主体となるが、出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SD1019

T～Z－56～68、調査区中央部を東西方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。両肩には溝に沿って鋸歯状に並ぶ木杭列がみられた。土留め板等の護岸がされていたものと思われるが、板材は遺存していなかった。遺構内出土遺物はほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第28図）

肥前系をはじめとする近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿、瓦器椀、輸入磁器等が出土している出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。瓦器椀は和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。

SD1022

J～N－28・29、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第29図）

肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。１は備前焼の擂鉢である。

SD1025

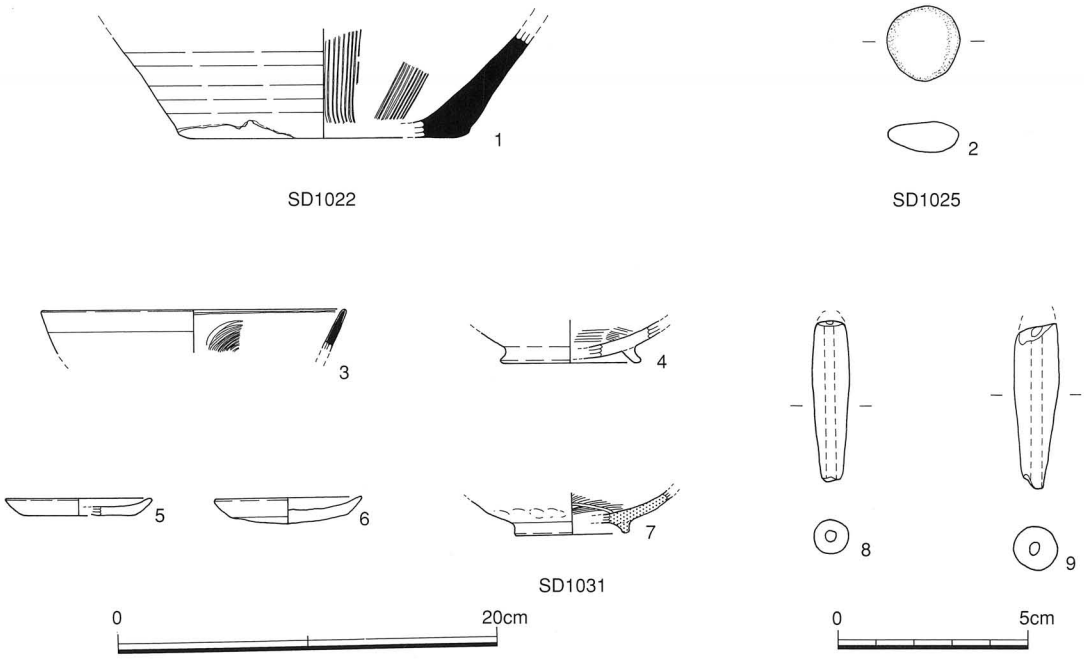
J・K－17～20、(L～O－25～28)、調査区中央部を南北方向に延びる水田耕作に伴う水路である。現況の地割りと概ね一致している。埋土は青灰色にグライ化した粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には近世の陶・磁器が主体となるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね16世紀頃と考えられる。

出土遺物（第29図）

肥前系や備前などの近世期の陶・磁器類の他、土師質土器の杯・皿類も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。２は扁平な円礫で、おはじきと思われる。

SD1031

C～H－３～５（C～H－13・14)、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。



第29図　SD 出土遺物（1022・1025・1031）

出土遺物（第29図）

土師質土器の杯・皿類の他、土師質の土錘、輸入磁器も出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1032

C～G－12・13、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第30・31図）

土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、白磁の碗・四耳壺などの輸入磁器が出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1033

F～H－11・12、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第32・33図）

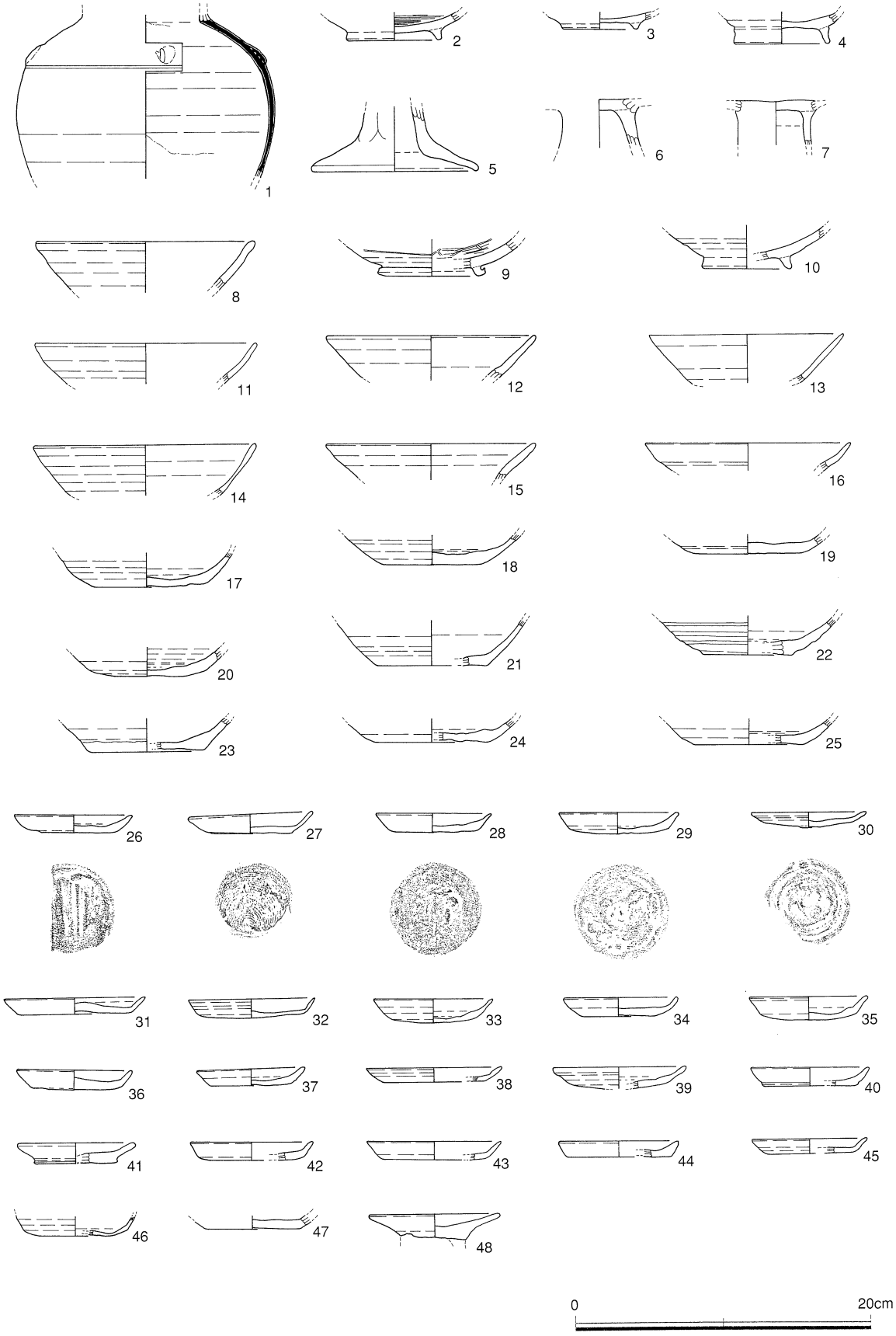
土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、白磁などの輸入磁器が出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1034

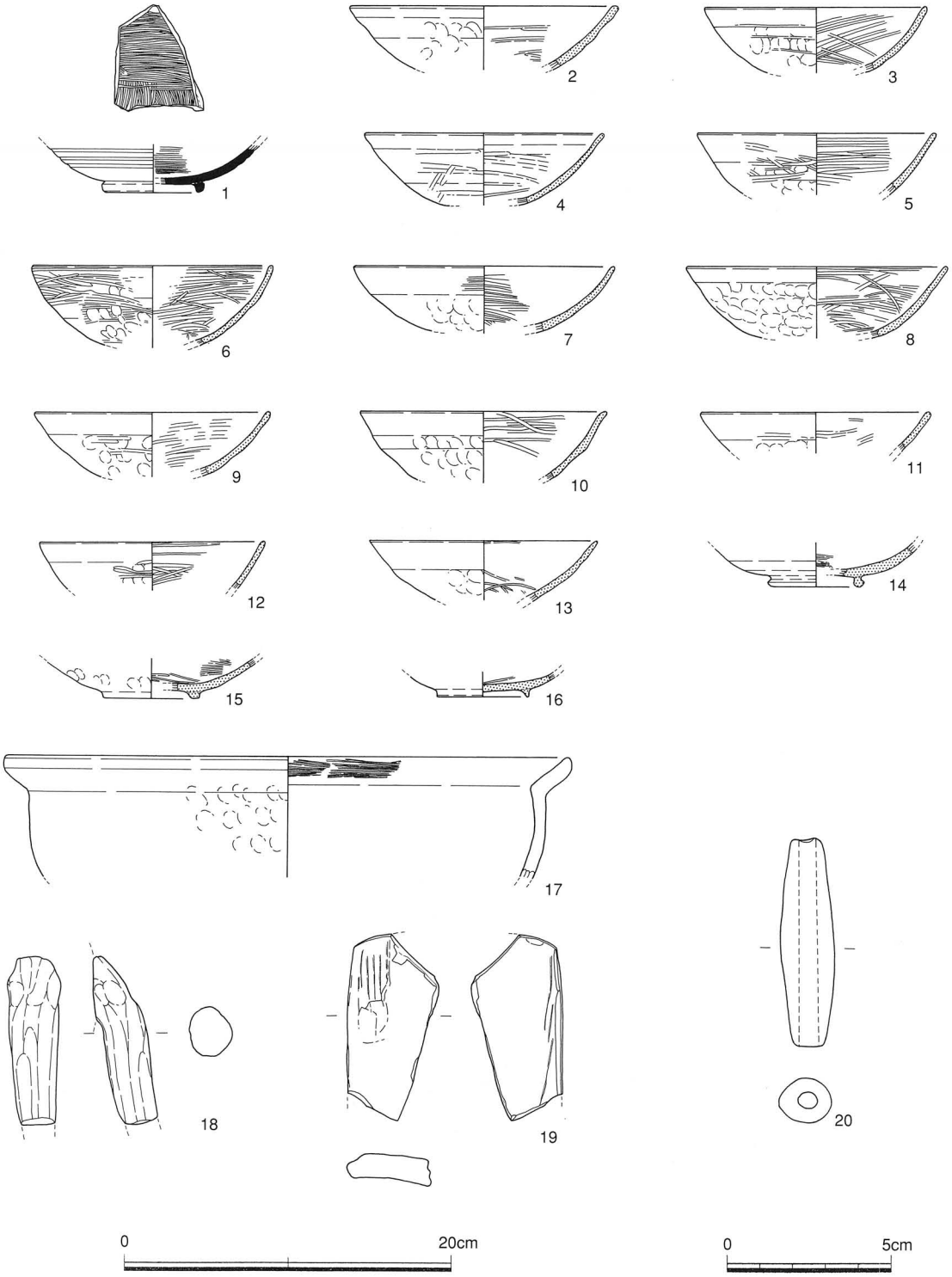
F・G－16・17、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第34図）

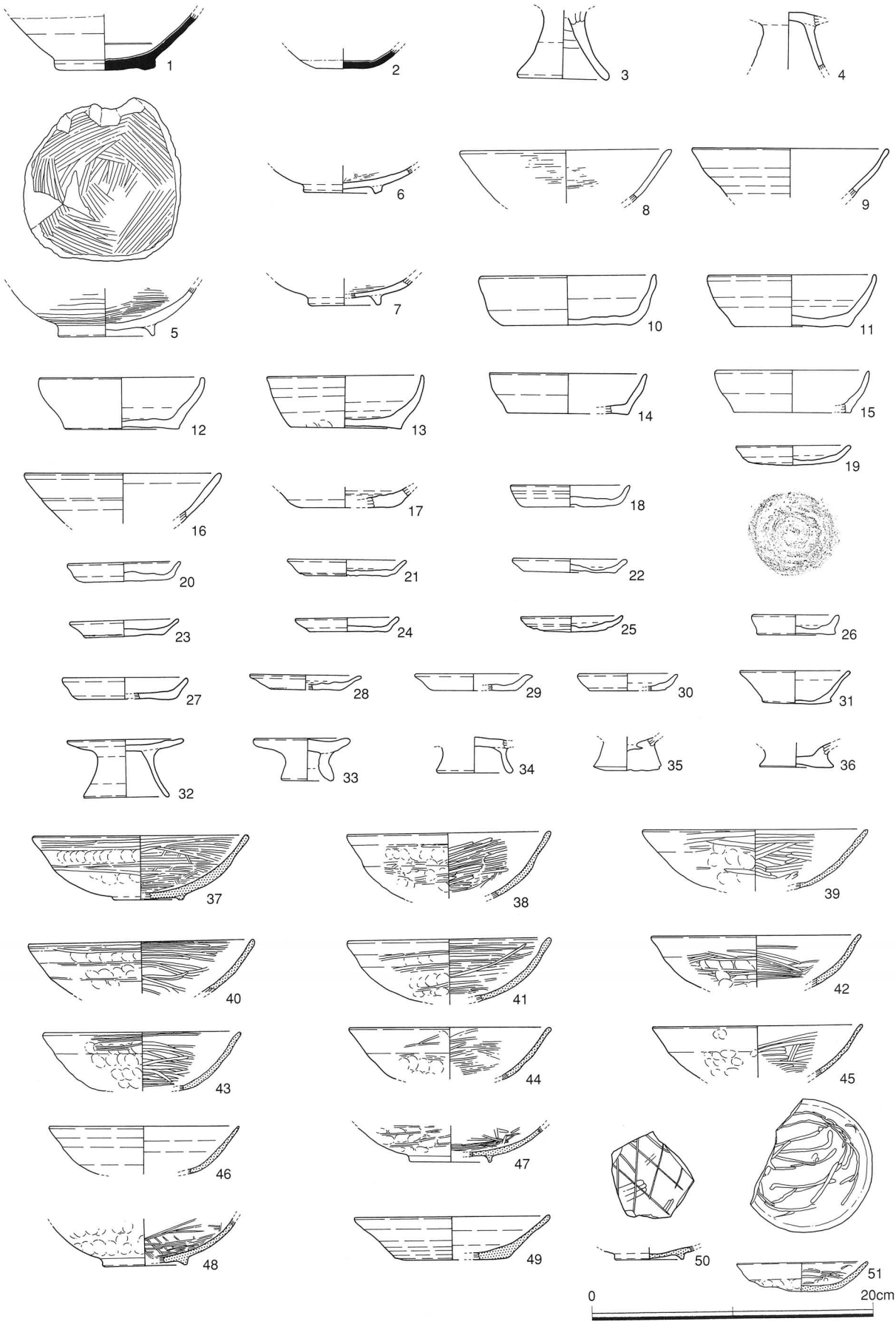
土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、輸入磁器などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りがみられる。



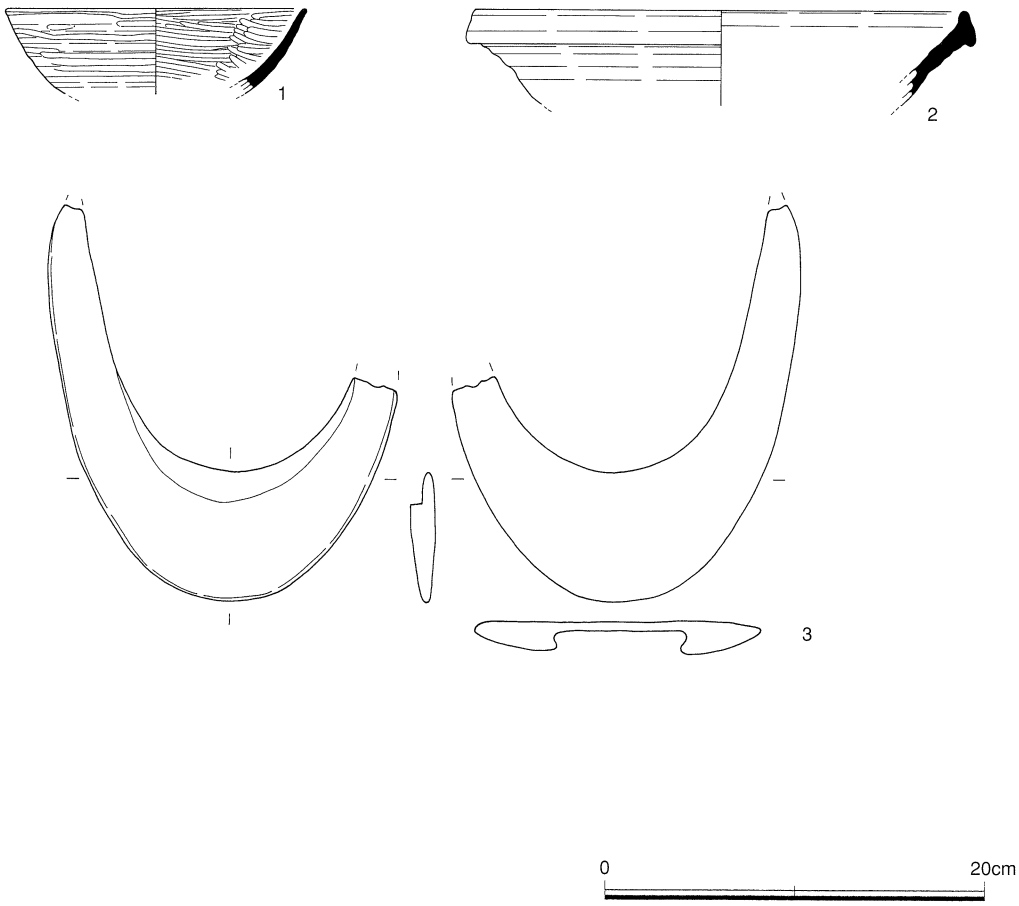
第30図　SD1032出土遺物 1



第31図　SD1032出土遺物 2



第32図　SD1033出土遺物１



第33図　SD1033出土遺物２

SD1035

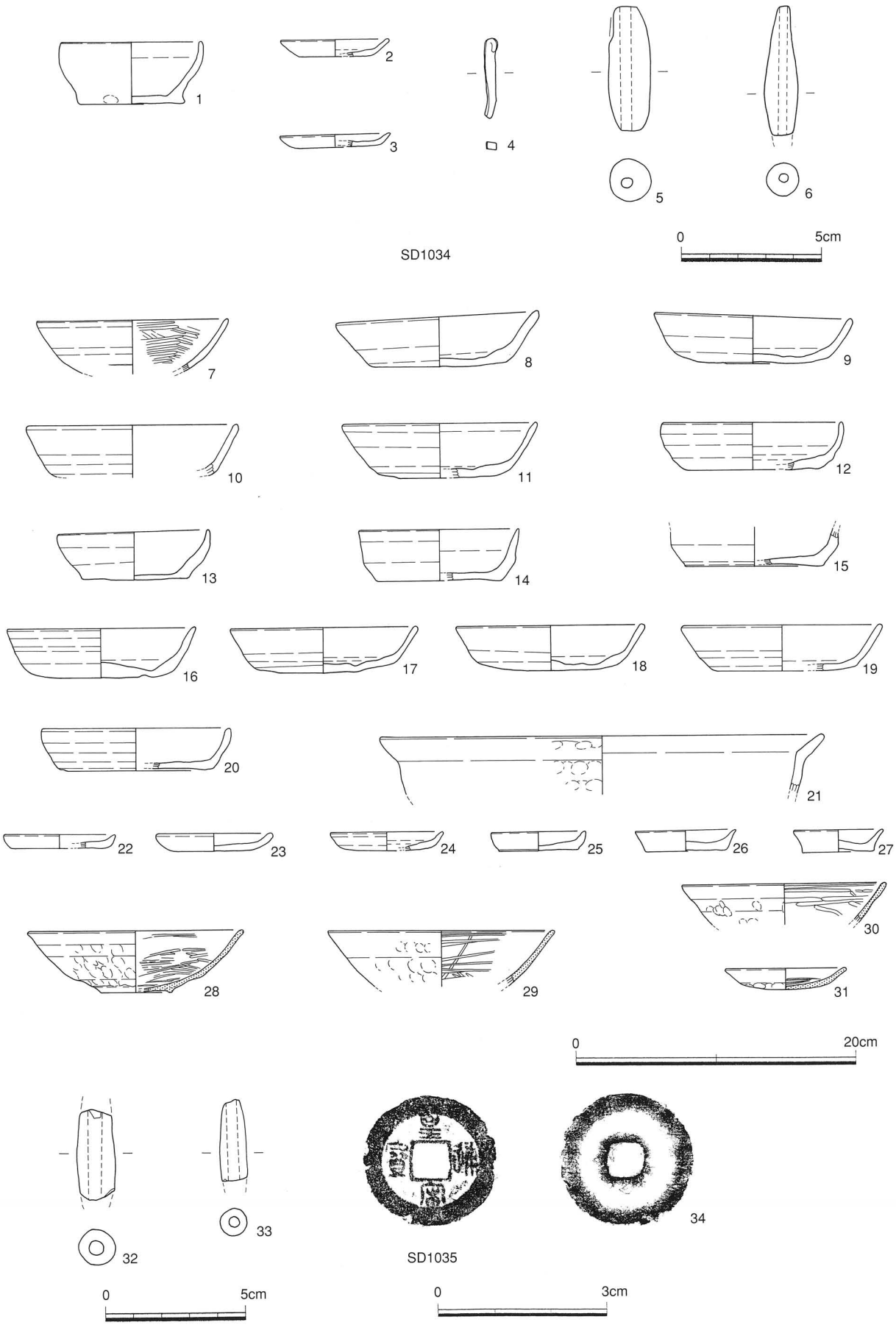
E・F－17・18、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片である。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第34図）

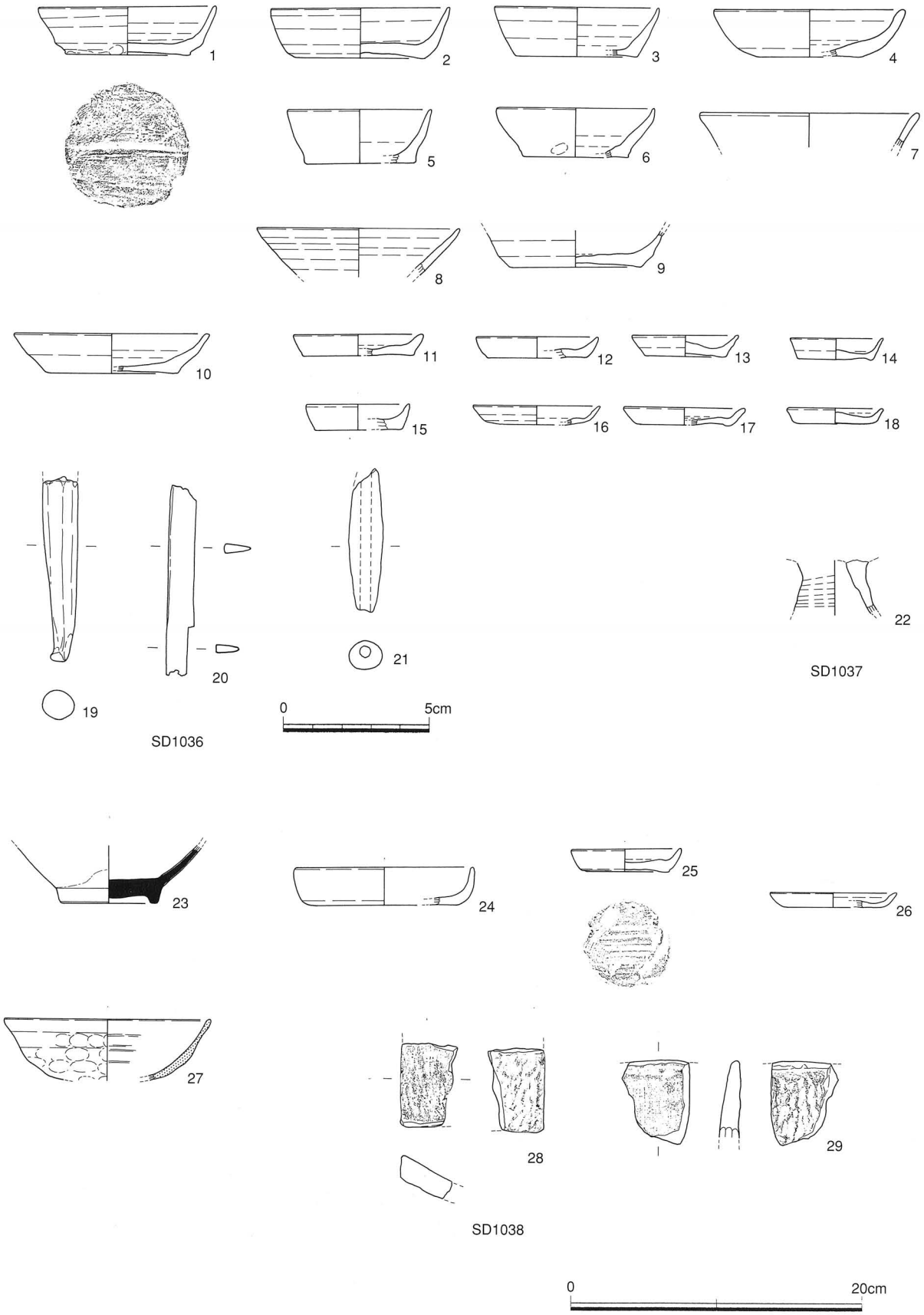
土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、白磁などの輸入磁器が出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1036

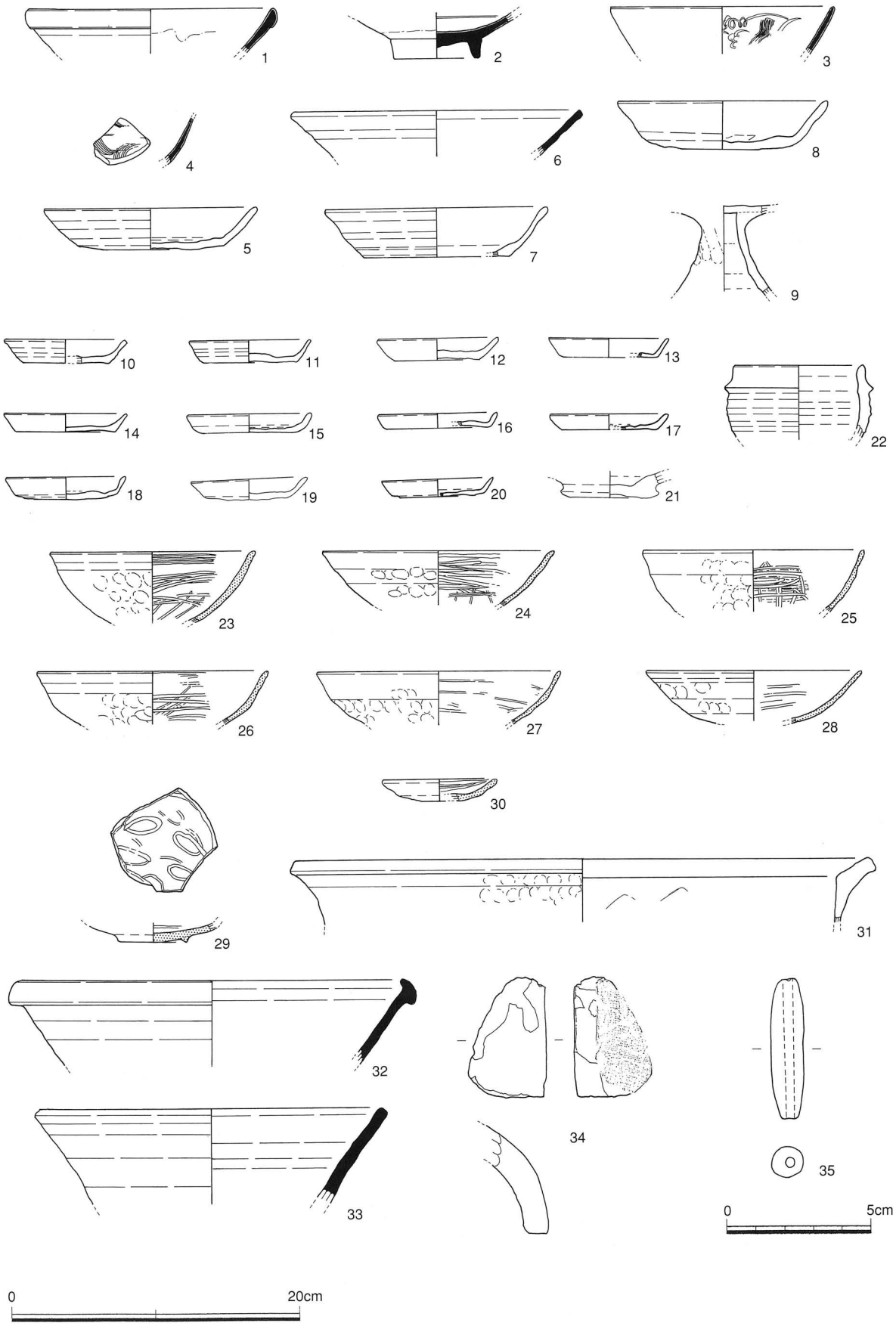
D～G－16・17、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。



第34図　SD 出土遺物（1034・1035）



第35図　SD 出土遺物（1036・1037・1038）



第36図　SD1039出土遺物

出土遺物（第35図）

土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、輸入磁器などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1037

F・G－16・17、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第35図）

土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、輸入磁器などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。22は土師器の高杯脚部である。

SD1038

G・H－14～17、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第35図）

土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、輸入磁器などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。

SD1039

E～G－17～19、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第36図）

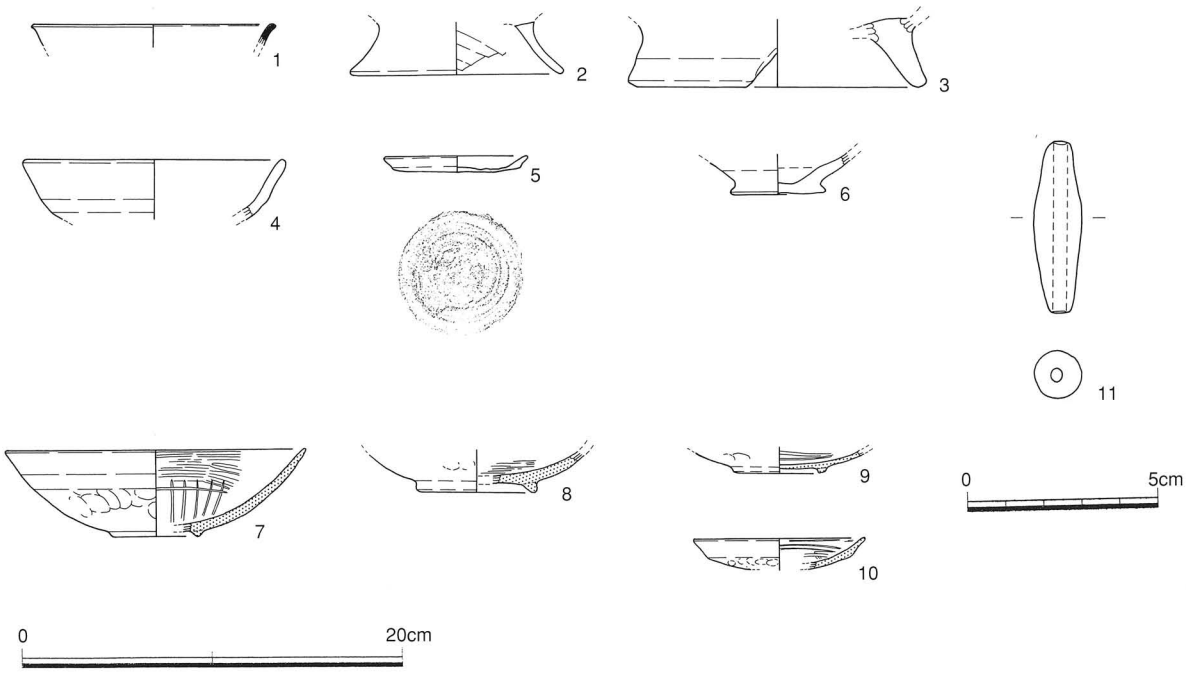
土師質土器の杯・皿類の他、土師器・瓦器・須恵器・土師質の土錘、輸入磁器などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SD1040

F～H－19・20、調査区西部を南北方向に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。埋土は黒色粘質土が堆積していた。遺構内出土遺物には土師質土器・瓦器等がみられるが、ほとんどが小片であり、実測可能なものは少ない。出土遺物には時期的な幅があるものの、構築時期は概ね14世紀頃と考えられる。

出土遺物（第37図）

土師質土器の杯・皿類の他、瓦器・土師質の土錘などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－1期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。



第37図　SD1040出土遺物

SI（水田状遺構）

調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。東側よりSI1001～1009の記号を与えた。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物

近世の陶・磁器片や土師質土器片、土師質の土錘などが散見したが、いずれの区画も出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1002

H～L－56～61、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第38図）

近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘、砥石などが散見しているが、出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1002

W・X－62・63、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第38図）

近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘などが散見しているが、出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1005

U～X－60・61、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第38図）

近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘などが散見しているが、出土量は少

なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1006

U・V－61・62、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第39図）

近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘などが散見しているが、出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1007

S～U－59～63、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第39図）

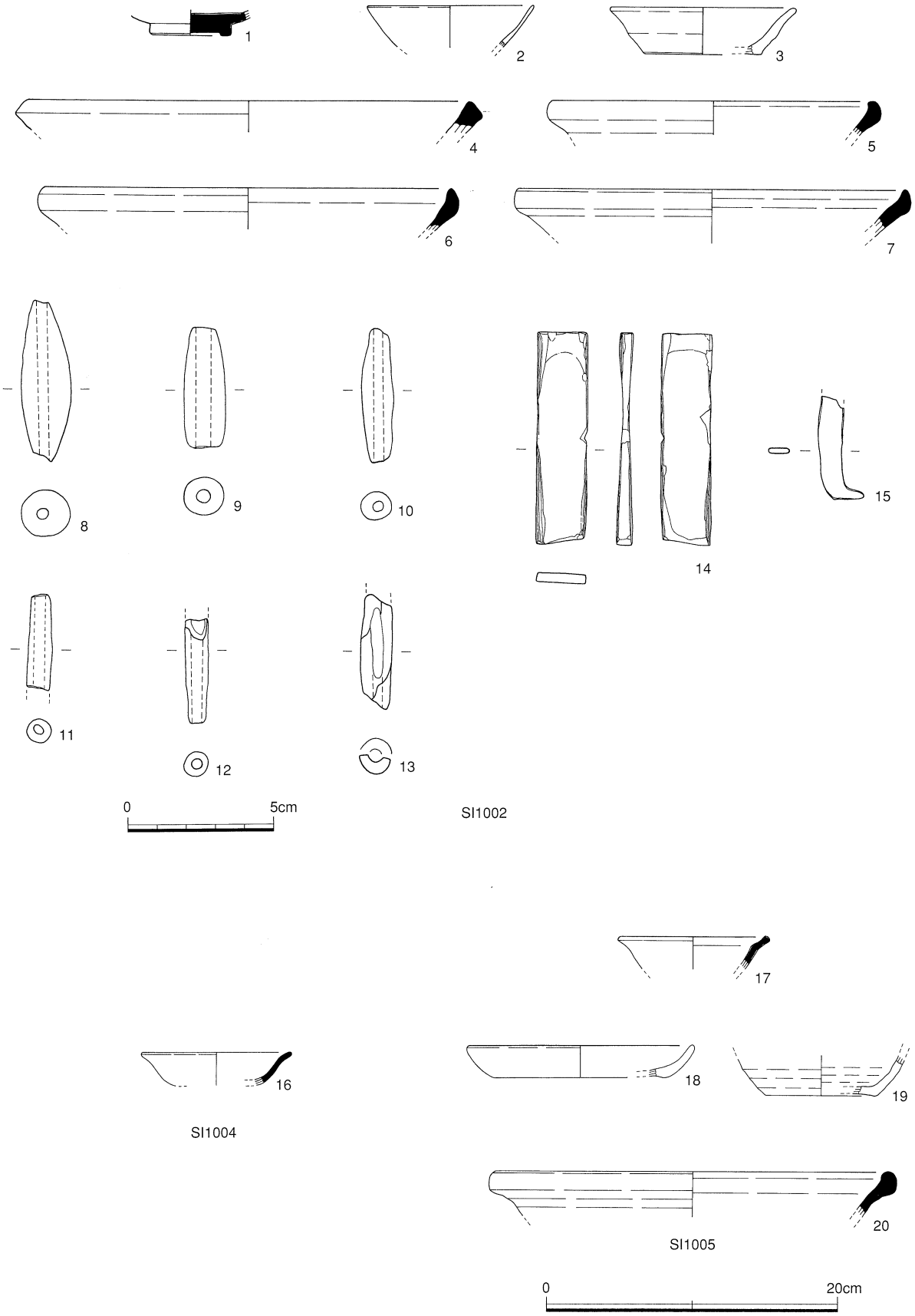
近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘などが散見しているが、出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SI1009

T～V－58～60、調査区東側で主に検出された畦畔（SG）および溝（SD）に区画された範囲をSIとした。SDと共伴する水田遺構と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。残存状態は良好ではなく、明瞭に整然と区画は確認できない。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物（第39図）

近世の陶・磁器片や土師質土器片、須恵質土器片、土師質の土錘などが散見しているが、出土量は少なく、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。



第38図　SI 出土遺物（1002・1004・1005）

SG（畦畔状遺構）

調査区東側で主に検出された畦畔状の遺構である。旧水田の畦畔痕跡と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、SD と共伴する水田遺構と考えられ、時期的には概ね江戸時代の遺構と思われる。

出土遺物

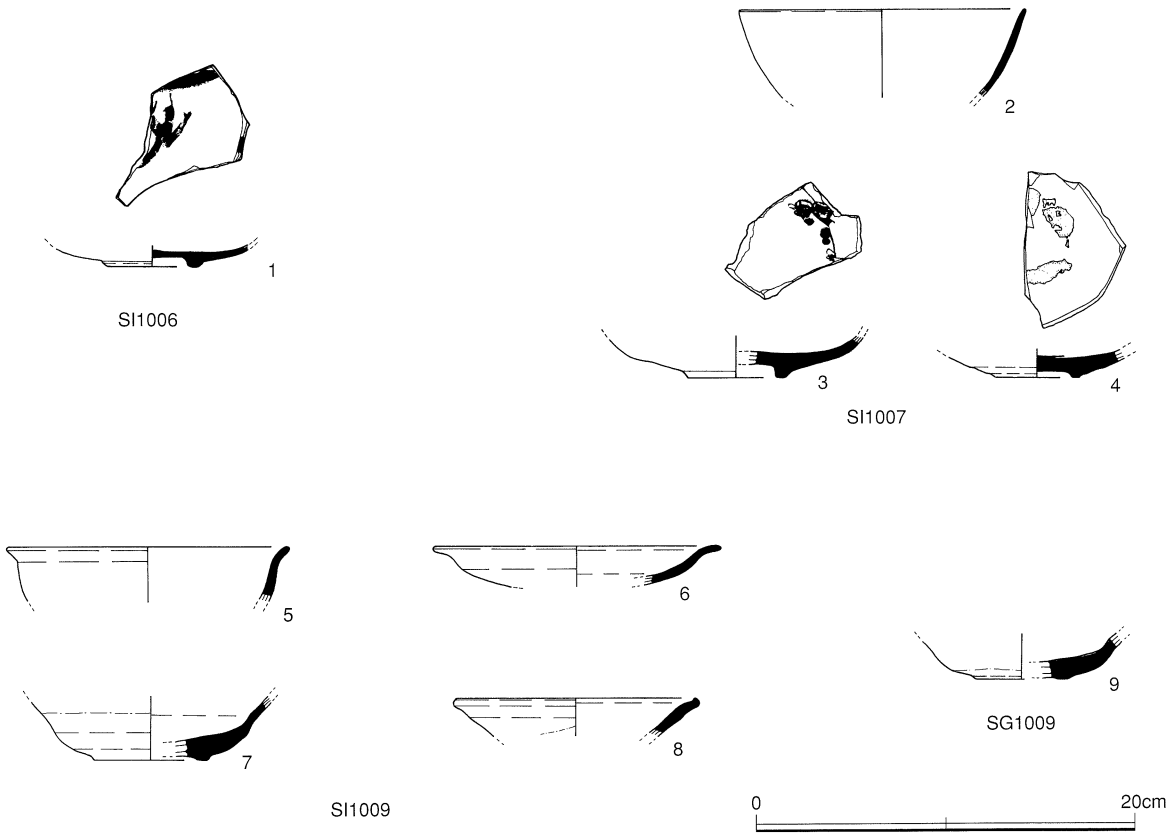
近世の陶・磁器片や土師質土器片などが出土したが、実測可能なものはほとんどなかった。

SG1009

V～Z－55・56、調査区東側で主に検出された畦畔状の遺構である。旧水田の痕跡と考えられ、方位に沿って延び、基本的には東西南北を志向する。SD と共伴する水田遺構と考えられる。出土遺物は少なく、詳細な時期の判明するものは少ないが、唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第39図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。９は瀬戸美濃系の陶器の碗と思われる。



第39図　SI・SG 出土遺物（1006・1007・1009・SG1009）

SK（土坑）

SKとしたものは、358基を数える。平面形は円形状または四角形状を呈するが、不定形なものも多くみられる。特に調査区西側、寺山の麓付近では土坑が密集してみられた。墓とは断定できないが、諸状況から墓の可能性がある。極小片のため詳細は不明であるが、人骨と思われる骨片が出土しているものもあり、土壙墓であると考えられる。

SK1008

T・U・V－63・64、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。１は伊万里青磁の鉢と思われる。

SK1016

T・U－59・60、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器・須恵質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK1024

V・X－55・56、半円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。３は土師質土器の釜である。

SK1034

V－54、楕円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物などから室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。４は和泉系の瓦器小皿である。

SK1036

T・U－53～55、楕円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物などから室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は滑石の石製品である。円盤状を呈する。石鍋の再加工品と思われる。

SK1082

U～W－46・47、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器の杯・皿類などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1083

U・V－46～48、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器の杯・皿類などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは1点のみである。10は土師質土器の杯で、底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1090

T・U－57・58、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器の杯・皿類などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは1点のみである。11は唐津の皿である。

SK1093

T・U－58・59、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類・陶磁器類などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。13は肥前系の染付の椀、伊万里と思われる。14は唐津の皿である。

SK1098

U～W－40・41、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

土師質土器の杯・皿類などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。15は土師質土器の杯で、底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1103

Q・R－44・45、半円形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第40図）

出土遺物には土師質土器の杯・皿類などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものはなかった。16～18は不明土製品である。表面に凹凸があり、何らかの型の可能性も考えられる。表面に二次的な被熱はみられない。

SK1105

T～V－41・42、楕円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。出土遺物などから室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第41図）

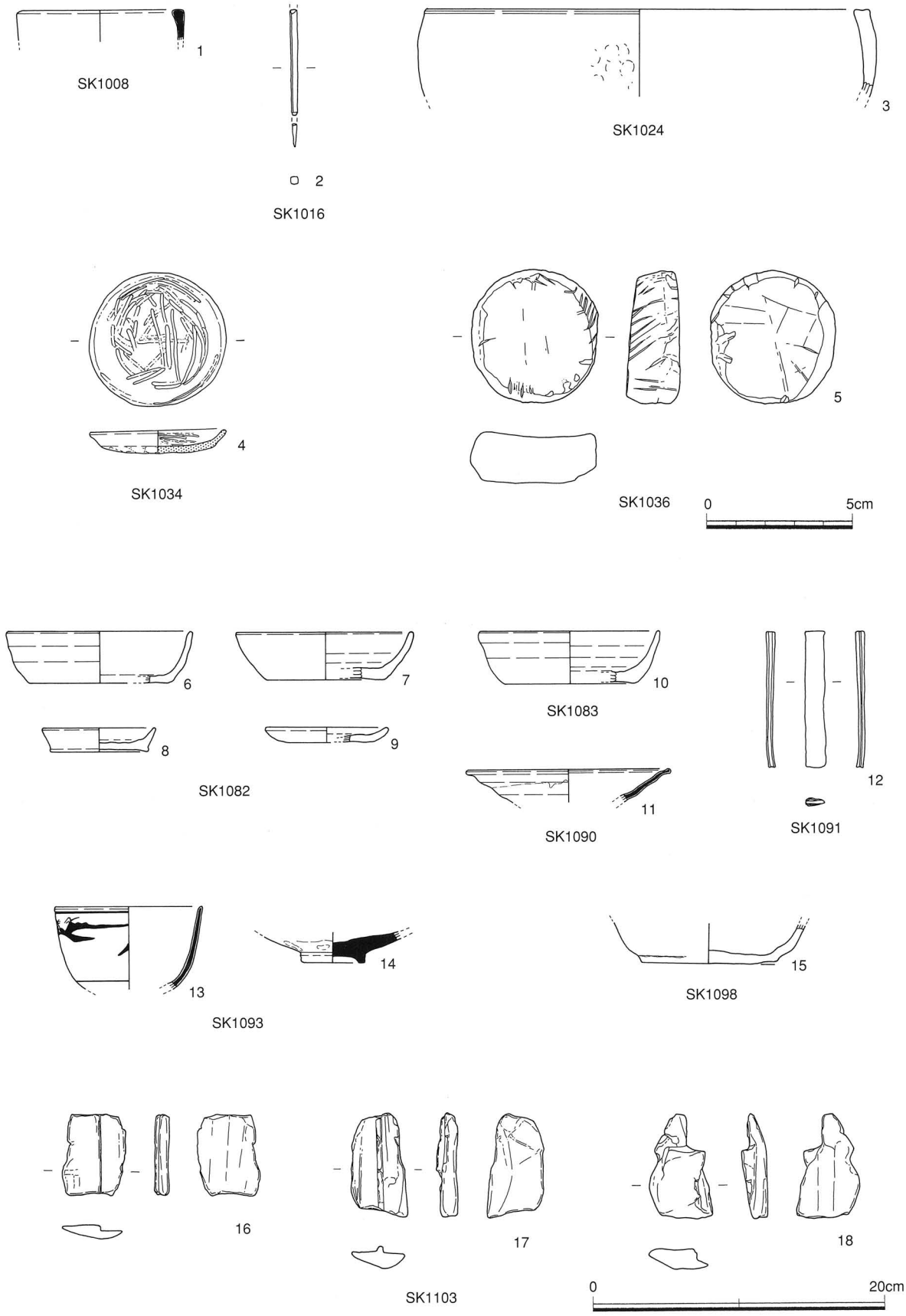
土師質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1111

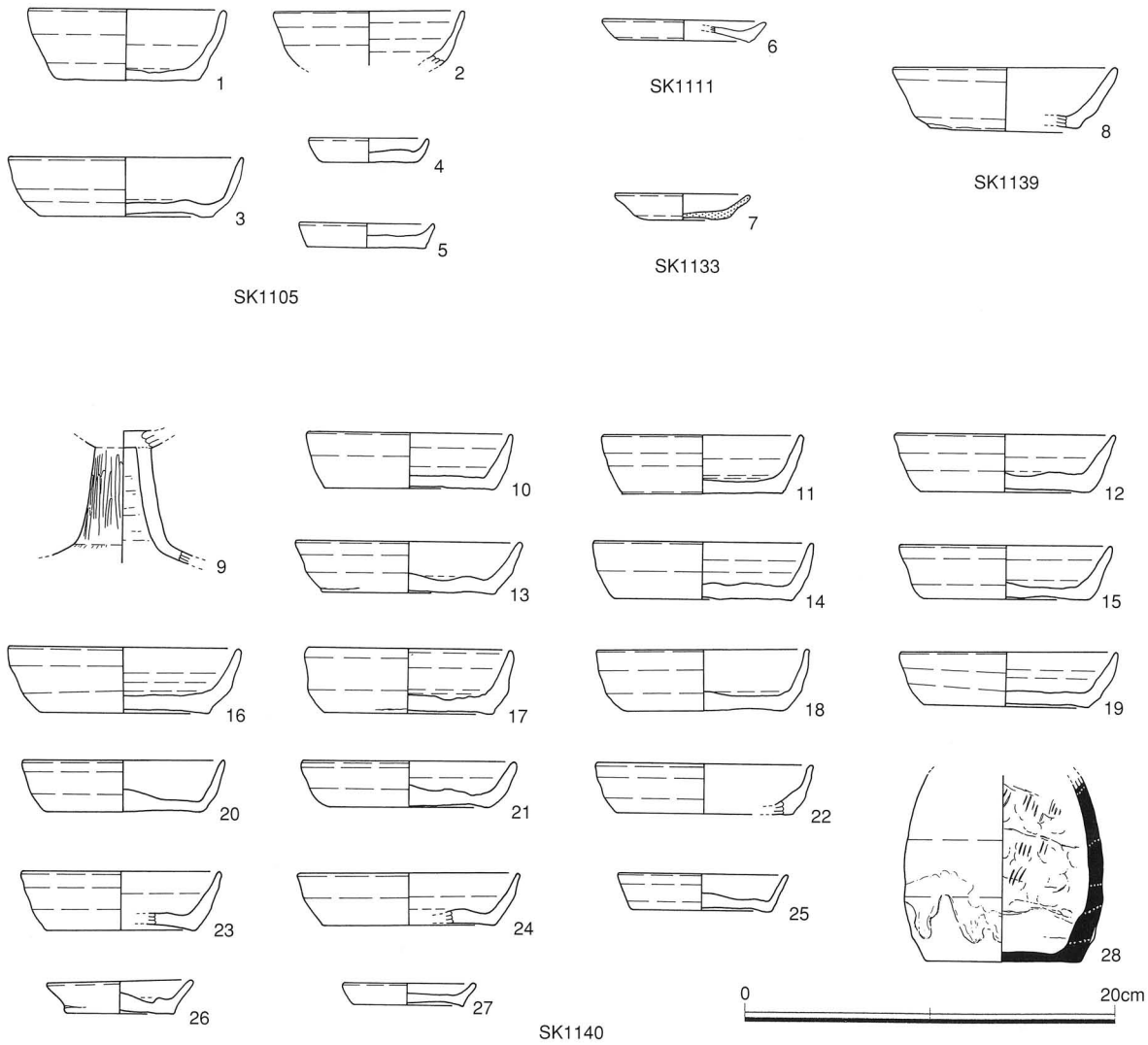
U～W－41・42、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第41図）

土師質土器・須恵質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみで



第40図　SK 出土遺物（1008・1016・1024・1034・1036・1082・1083・1090・1091・1093・1098・1103）



第41図　SK 出土遺物（1105・1111・1133・1139・1140）

ある。

SK1133

Q・R－39～41、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第41図）

土師質土器・須恵質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。７は和泉系の瓦器小皿である。

SK1139

S－39、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第41図）

土師質土器・須恵質土器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。８は土師質土器の杯である。

SK1140

U－38・39、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第41図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1141

T・U－39・40、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第42図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りのものが主体であるが、一部回転ヘラ切りが混在する。

SK1142

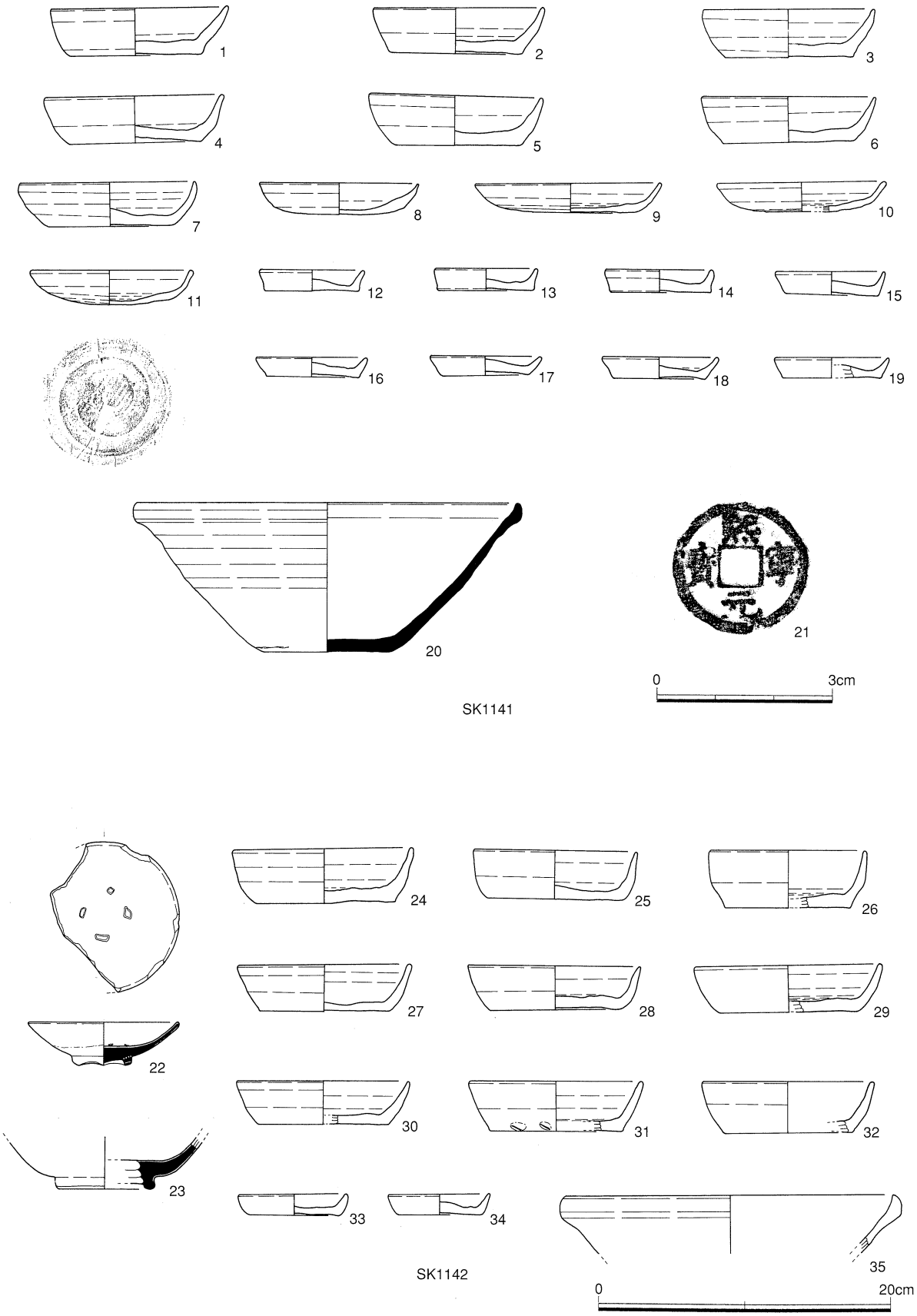
R～T－38・39、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第42図）

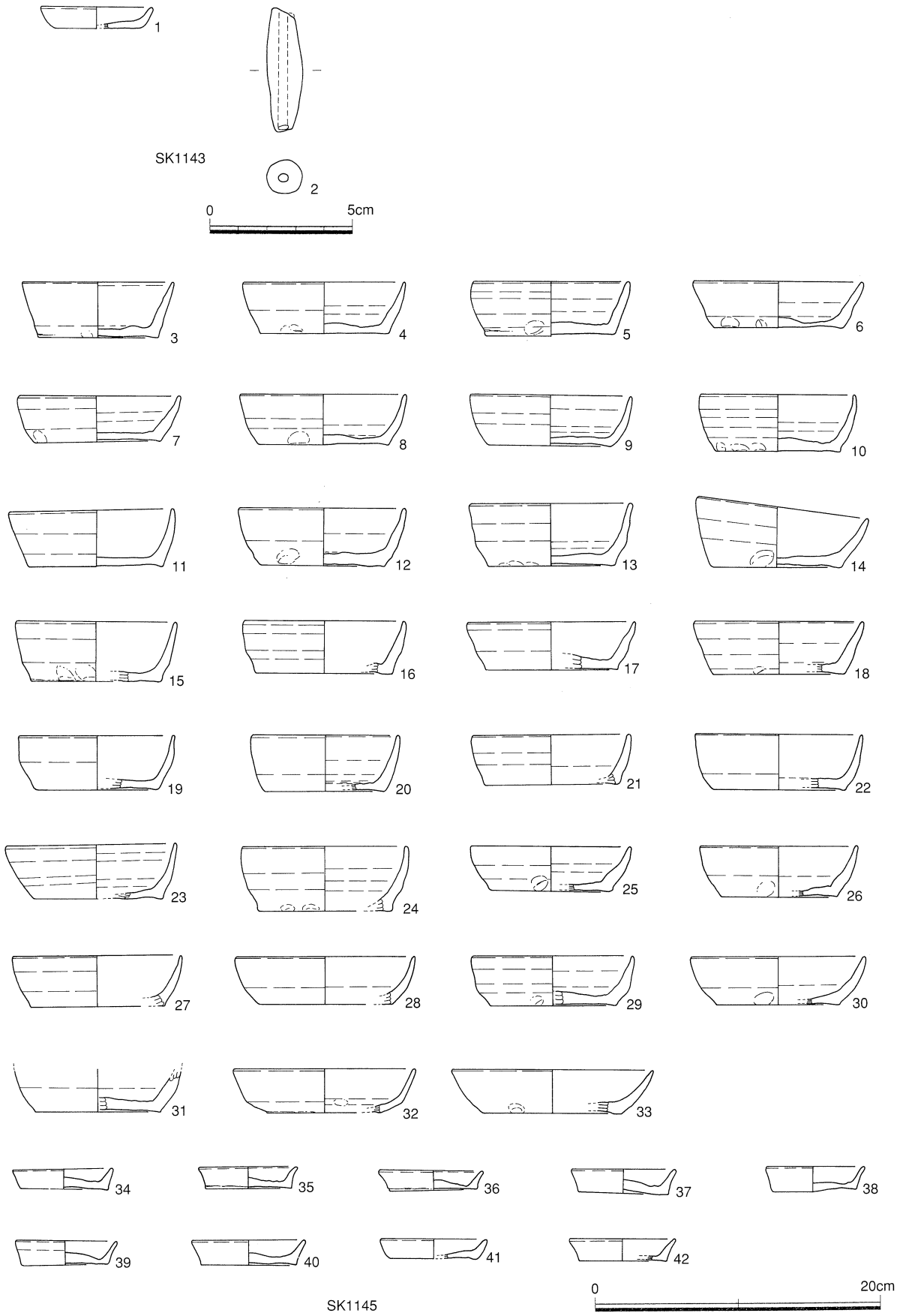
出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1143

T・U－37～39、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。



第42図　SK 出土遺物（1141・1142）



第43図　SK 出土遺物（1143・1145）

出土遺物（第43図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1145

R・S－37～40、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第43図）

土師質土器などが多数出土している。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りである。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。

SK1147

S・T－42・43、四角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

土師質土器などが多数出土している。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1148

S・T－39、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

土師質土器等が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。６は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1154

S・T－36、楕円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。７は東播系の須恵質土器の鉢である。

SK1170

U－44、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

土師質土器等が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは２点のみであった。10・11は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1172

P・Q－33・34、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

土師質土器等が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。12は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1177

P－34・35、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1179

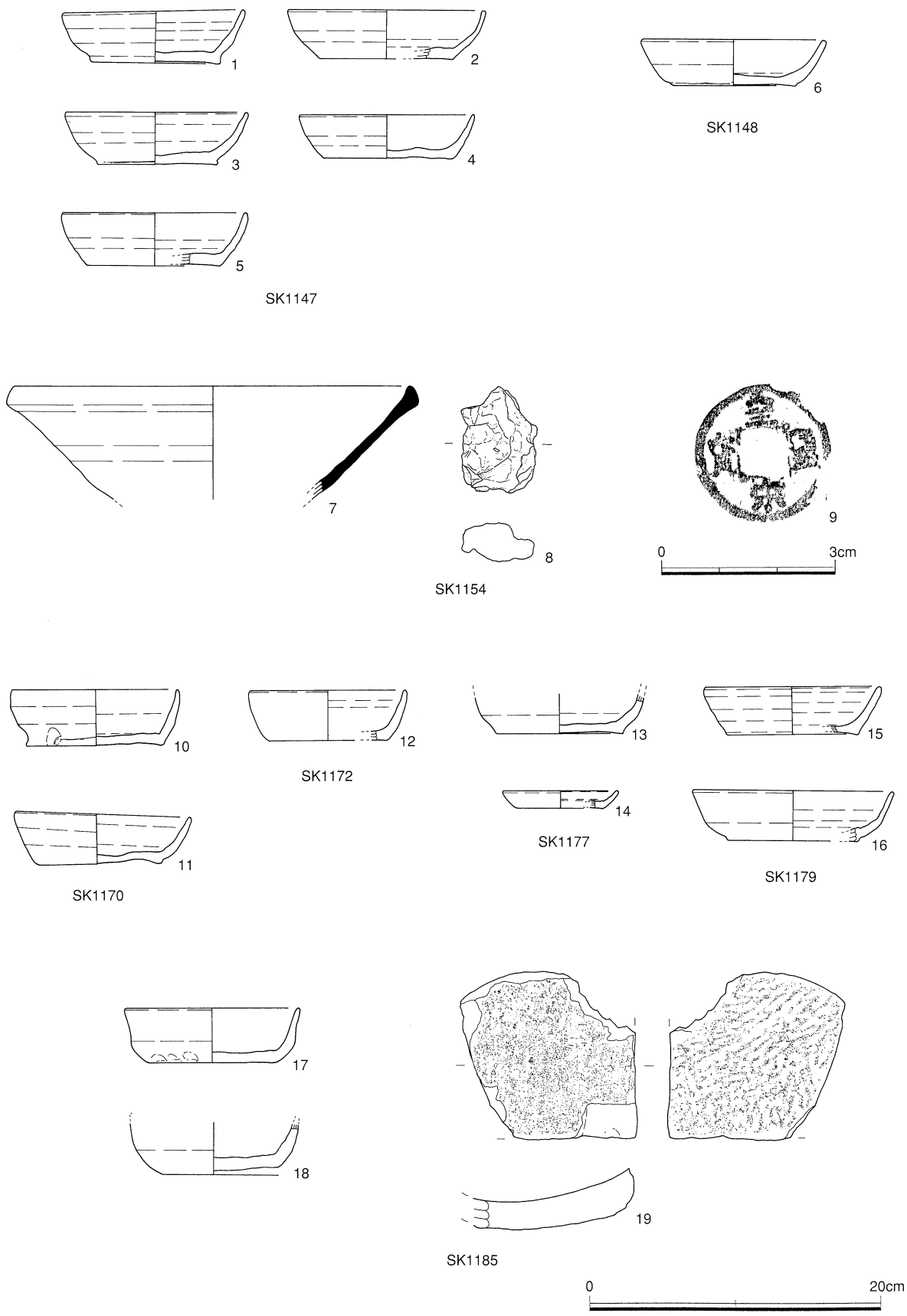
N～P－33・34、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第44図）

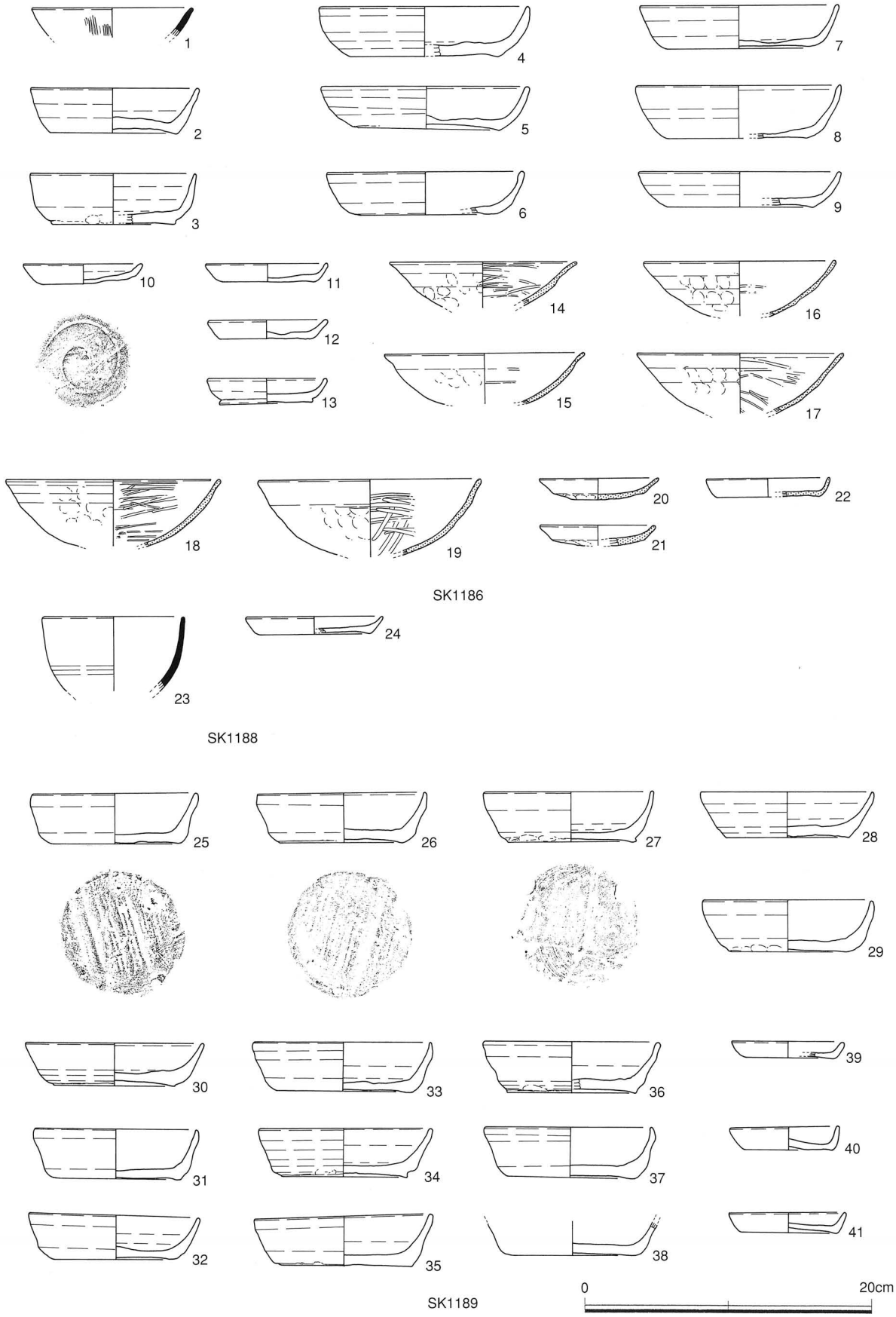
出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1185

D－32、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。



第44図　SK 出土遺物（1147・1148・1154・1170・1172・1177・1179・1185）



第45図　SK 出土遺物（1186・1188・1189）

出土遺物（第44図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1186

S・T－38、楕円形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第45図）

土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は椀・小皿が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品は少ない。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1188

N～P－33、楕円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津・京焼などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第45図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは２点のみであった。28は京焼の碗である。29は土師質土器の小皿で底部切り離しは回転糸切りである。

SK1189

P－31・32、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第45図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1191

P・Q－32・33、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器・須恵質土器などが出土しているが、いずれも小片である。１は瀬戸美濃系の陶器の皿で、

みこみに蓮弁文が線刻される。2は土師質土器の杯である。

SK1196

N・O－31・32、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びる。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1197

N－31・32、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1198

N・O－31・32、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1199

O－31、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものはない。17は土師質の管状土錘である。

SK1200

O－31・32、三角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土

坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。18は和泉系の瓦器椀である。尾上分類のⅢ－２期に属するものと思われる。

SK1201

N～P－33・34、三角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。19は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1204

L・M－31・32、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1210

O・P－29・30、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1211

O・P－29・30、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なも

のは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1212

O・P－28～30、三角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは1点のみである。27は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1214

P・Q－28・29、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみである。28・29は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1215

O・P－28・29、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

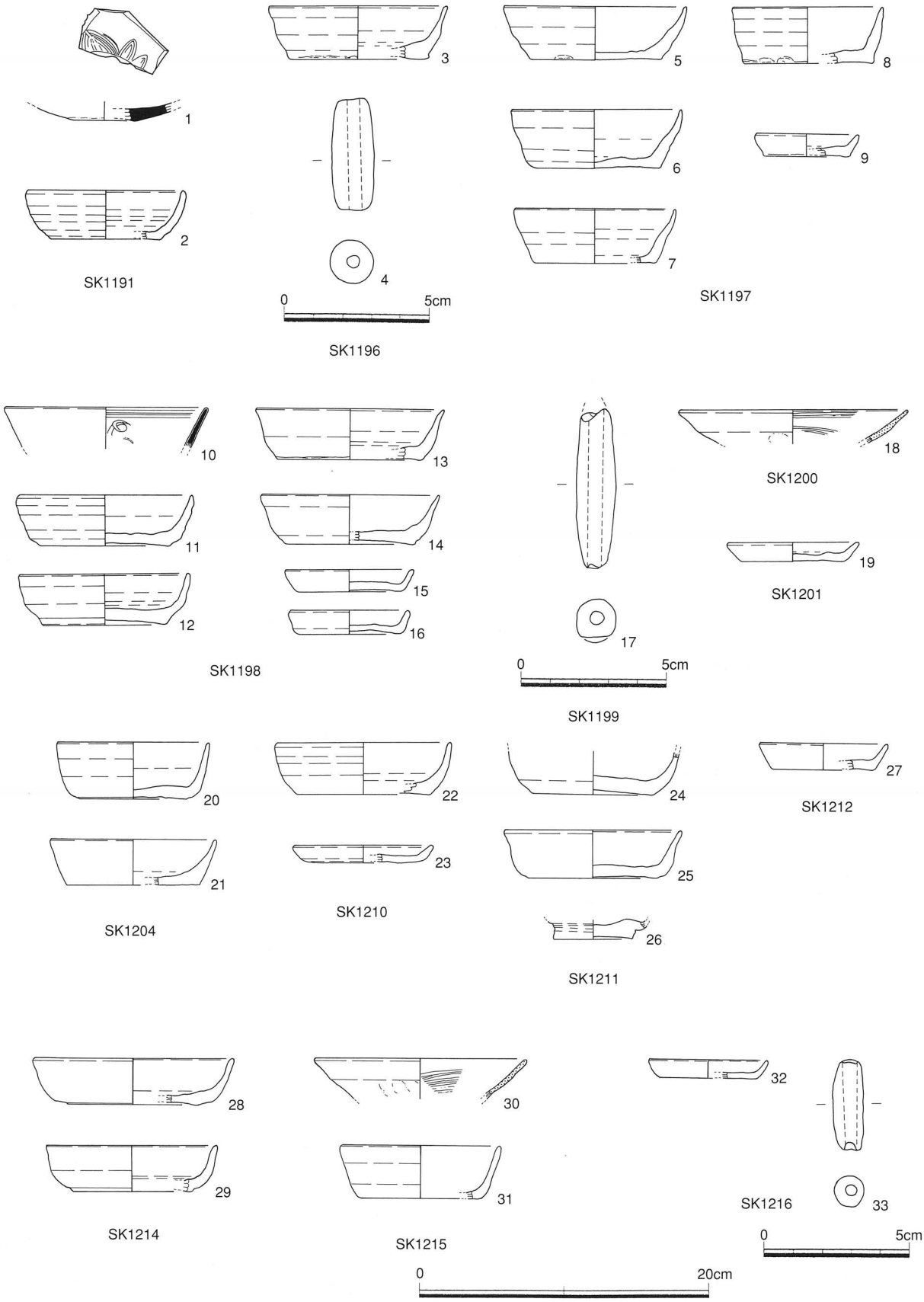
土師質土器・瓦器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみである。30は和泉系の瓦器椀である。尾上分類のⅢ－2期に属するものと思われる。31は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1216

O・P－28・29、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第46図）

土師質土器・瓦器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみである。32は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。33は土師質土器の管状土錘である。



第46図　SK 出土遺物（1191・1196・1197・1198・1199・1200・1201・1204・1210・1211・1212・1214・1215・1216）

SK1218

N・O－28・29、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

土師質土器・瓦器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは２点のみである。１は土師質土器の杯、２は小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1223

N・O－27・28、五角形状の不定形な土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

土師質土器・瓦器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器は皿が目立つ。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1228

N－35・36、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

土師質土器・瓦器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。27は土師器の杯で、体部は直線的に外上方に延びる。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SK1237

H・I－26、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。32は黒色土器Ｂ類椀である

SK1239

H・I－24～26、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なも

のは少ない。33は土師質土器の杯である。白っぽい胎土をし、体部は屈曲して外上方に延びる。吉備系土師質土器と思われる。

SK1249

P・Q－28・29、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。34は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1253

K・L－23・24、長楕円形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は椀・小皿が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品は少ない。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1268

H・I－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

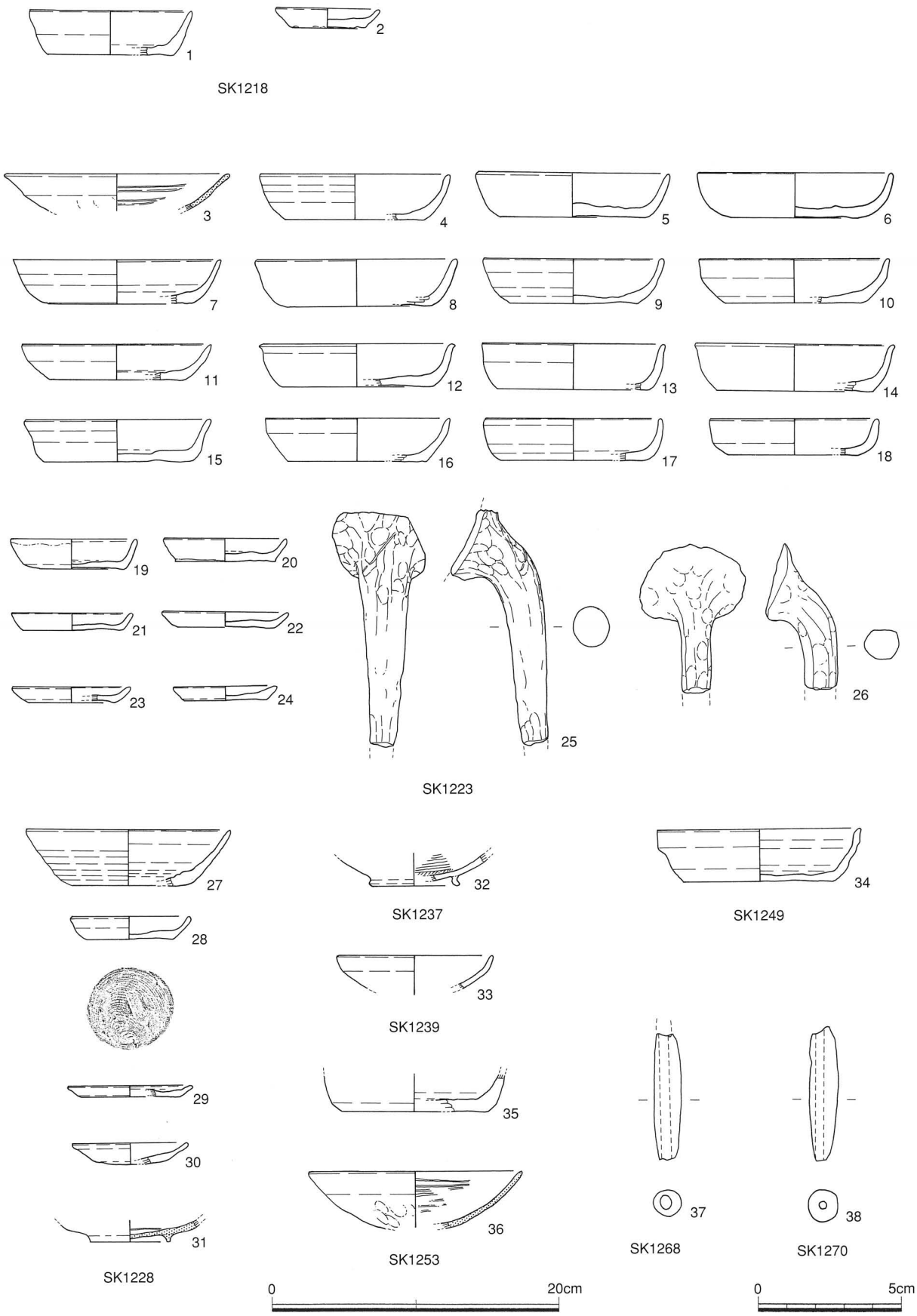
出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。37は土師質の管状土錘である

SK1270

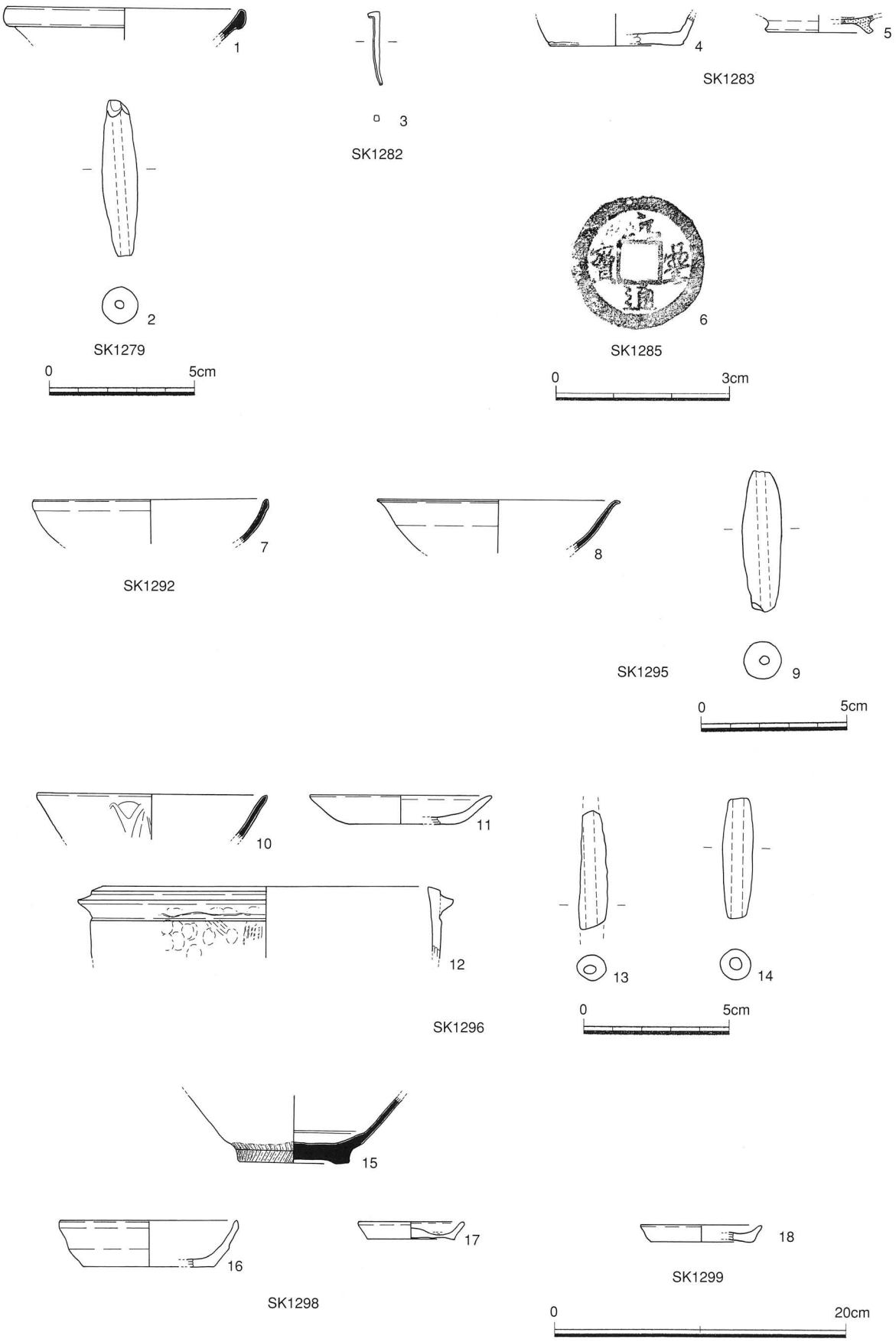
G～I－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第47図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。38は土師質の管状土錘である。



第47図　SK 出土遺物（1218・1223・1228・1237・1239・1249・1253・1268・1270）



第48図　SK 出土遺物（1279・1282・1283・1285・1292・1295・1296・1298・1299）

SK1279

F～H－17～19、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。１は白磁の椀、２は土師質の管状土錘である。

SK1282

G・H－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。３は鉄釘である。

SK1283

G・H－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は椀・小皿が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品は少ない。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1285

G・H－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。６は北宋銭で元豊通寶である。

SK1292

H・I－16、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は白磁の椀で玉縁口縁の肥厚は小さく、森田分類の白磁碗Ⅱ－1類にあたるものと思われる。

SK1295

H・I－16、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器・管状土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は白磁の椀で口縁部は外反する。森田分類の白磁碗Ⅷ－1類にあたるものと思われる。

SK1296

F～H－16・17、長楕円形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

土師質土器・輸入磁器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。輸入磁器は龍泉窯の碗で、体部外面に蓮弁文をもつ。土師質土器は杯・皿類の他、鍋・釜が出土している。完形品は少ない。杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1298

F・G－16・17、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・輸入陶磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は白磁の椀で底部外面にカンナのケズリ痕が明瞭にみられる。森田分類の白磁碗Ⅳ類にあたるものと思われる。

SK1299

G・H－17・18、三角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第48図）

土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは1点のみである。18

は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1302

E－14・15、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第49図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類や須恵質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は東播系の須恵質土器の鉢である。

SK1306

J・K－29、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第49図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類や須恵質土器・輸入磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は白磁の椀で高台は高い。体部内面下半に沈線が巡り、みこみを輪状に釉を掻き取る。森田分類の白磁碗Ⅷ－1類にあたるものと思われる。

SK1307

J・K－29、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第49図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類や瓦器椀などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師質土器の小皿である。5は和泉系の瓦器椀でⅢ－1期に属するものと思われる。

SK1308

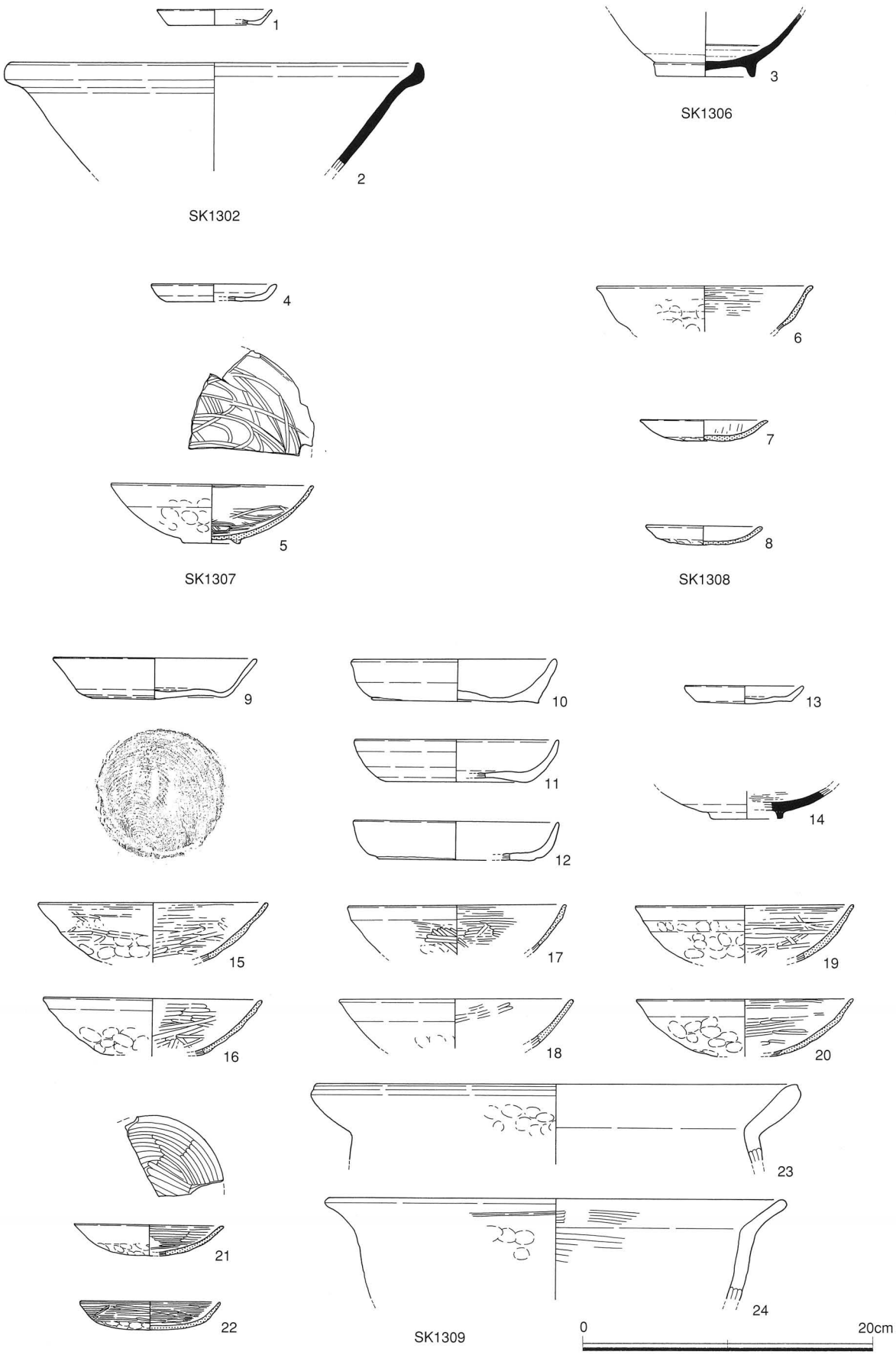
J・K－29、円形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第49図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿類や瓦器類などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀・小皿は和泉系が出土している。

SK1309

J・K－28・29、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。



第49図　SK 出土遺物（1302・1306・1307・1308・1309）

出土遺物（第49図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・輸入陶磁器など雑多であるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1310

F－13・14、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第50図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器などがある。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。１は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。２は瓦質土器鉢である。

SK1311

F－13・14、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第50図）

出土遺物は土師器・土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器など雑多である。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師器・土師質土器の底部の切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りが混在している。

SK1312

D－17、円形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第50図）

出土遺物は土師質土器・須恵質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。21は土師質土器杯である。器壁は薄く、体部は直線的に外上方に延びる。

SK1315

F・G－11、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第50図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。22は土師質土器杯である。器壁は薄く、体部は直線的に外上方に延びる。

SK1317

F・G－11、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第50図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK1318

F・G－11、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・輸入磁器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。１は白磁の碗である。２は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。３は和泉系の瓦器椀である。時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。

SK1320

F・G－16・17、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

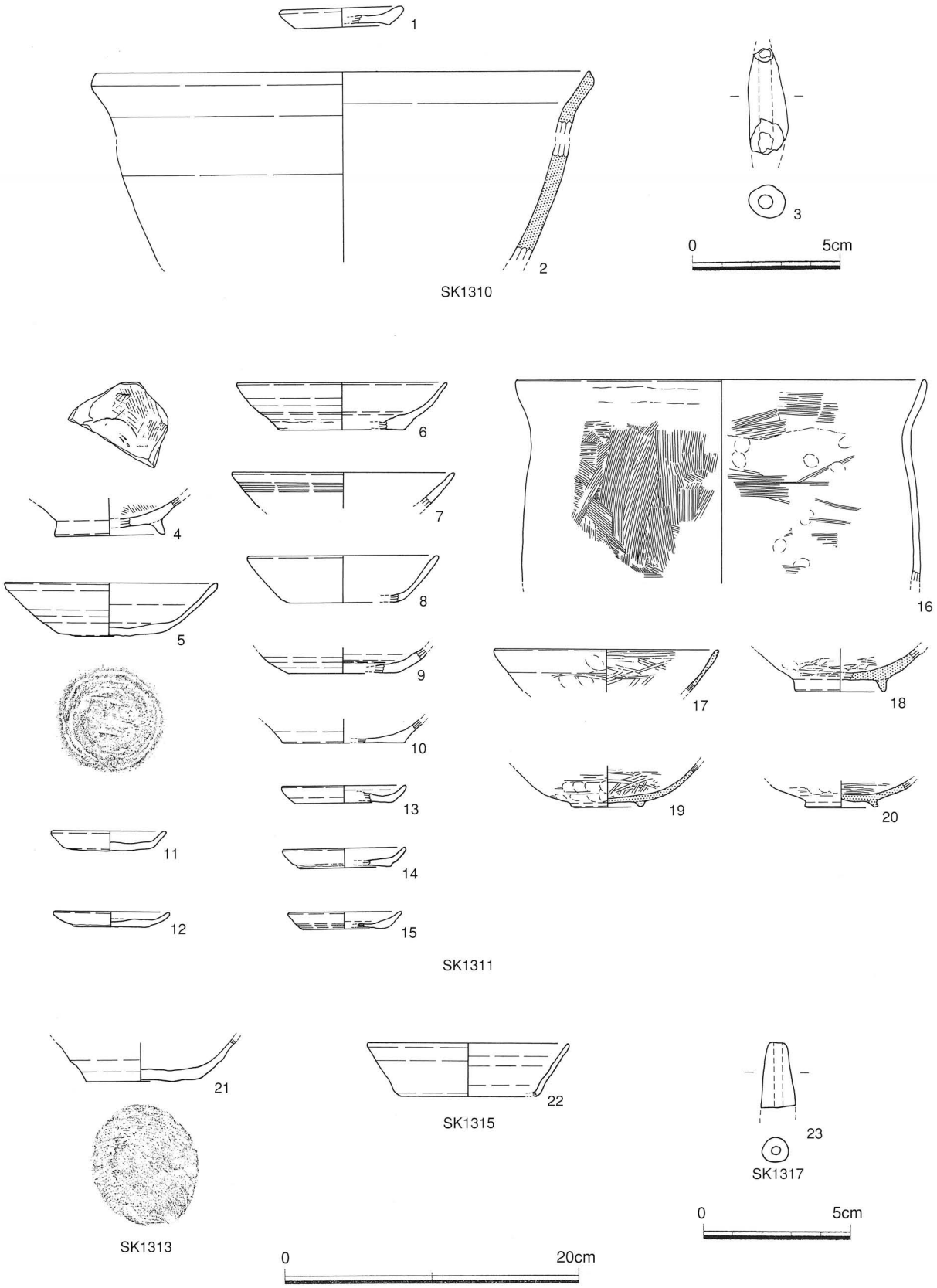
出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器など雑多である。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅢ－１期に収まるものと思われる。土師質土器杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りがみられる。

出土遺物 SK1323

F・G－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿・鍋・釜類の他、瓦器など雑多である。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。９は土師質土器の鍋である。



第50図　SK 出土遺物（1310・1311・1313・1315・1317）

SK1324

F－8（F・G－17・18)、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿・鍋・釜類の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師質土器の椀、11は土師質土器の鍋である。

SK1326

F・G－17・18、楕円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿類の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－3～Ⅲ－1期に収まるものと思われる。土師質土器杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1327

F・G－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器など雑多である。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りがある。

SK1328

F・G－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第51図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、瓦器・瓦質土器など雑多である。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。21は土師器の高杯脚部である。

SK1330

F・G－16～18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第52図）

出土遺物は土師質土器杯・皿類の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。

出土遺物 SK1336

E－17・18、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第52図）

出土遺物は土師質土器椀・杯・皿類の他、瓦器・輸入磁器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系の椀・小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りがみられる。

SK1338

D・E－16・17、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第52図）

出土遺物は土師質土器・杯・皿類の他、須恵質土器、瓦器・輸入磁器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1340

D～F－16・17、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第52図）

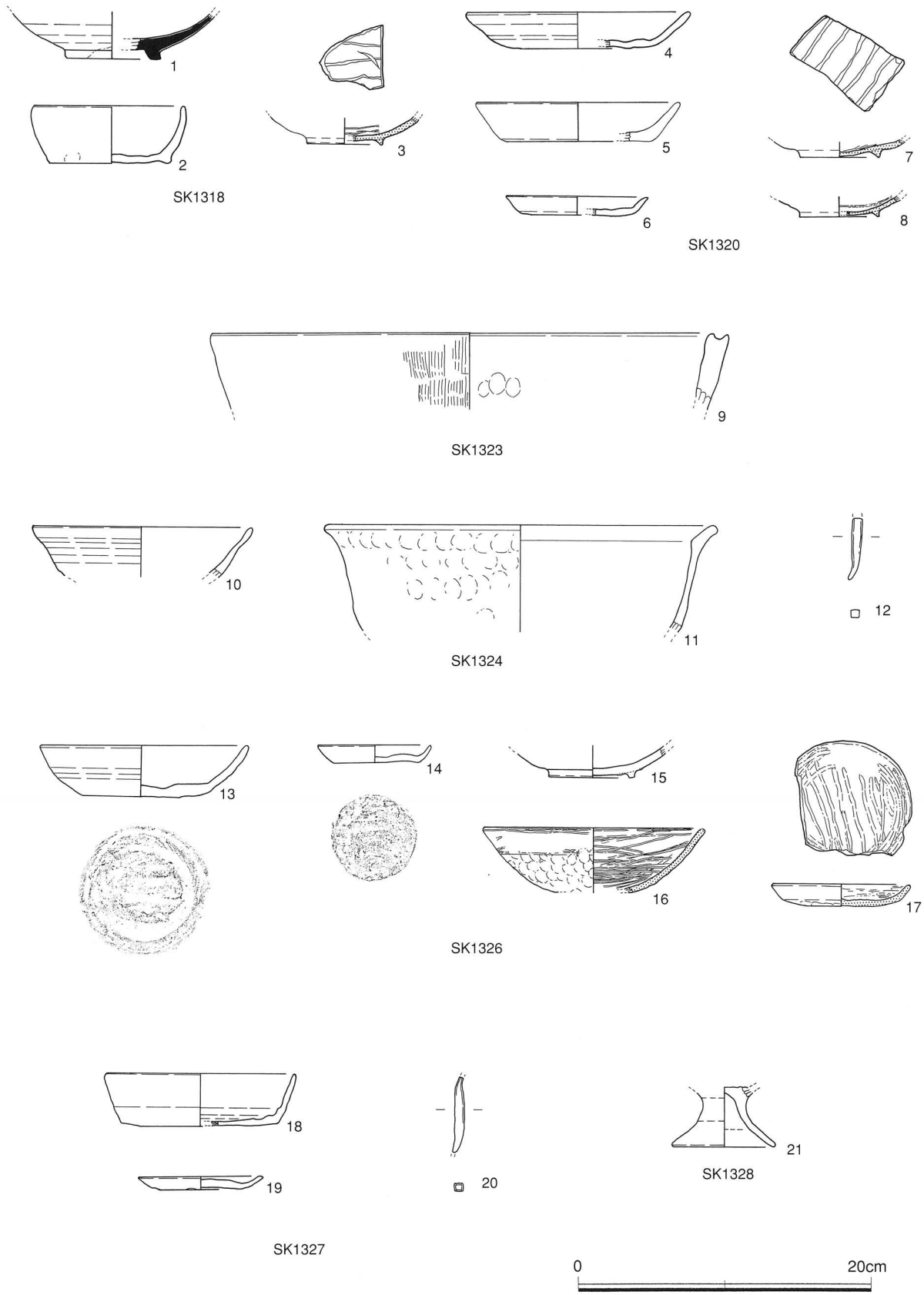
出土遺物は土師質土器・杯・皿類の他、須恵質土器、瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。18は泥岩の砥石である。方柱状を呈し、４面を使用している。

SK1343

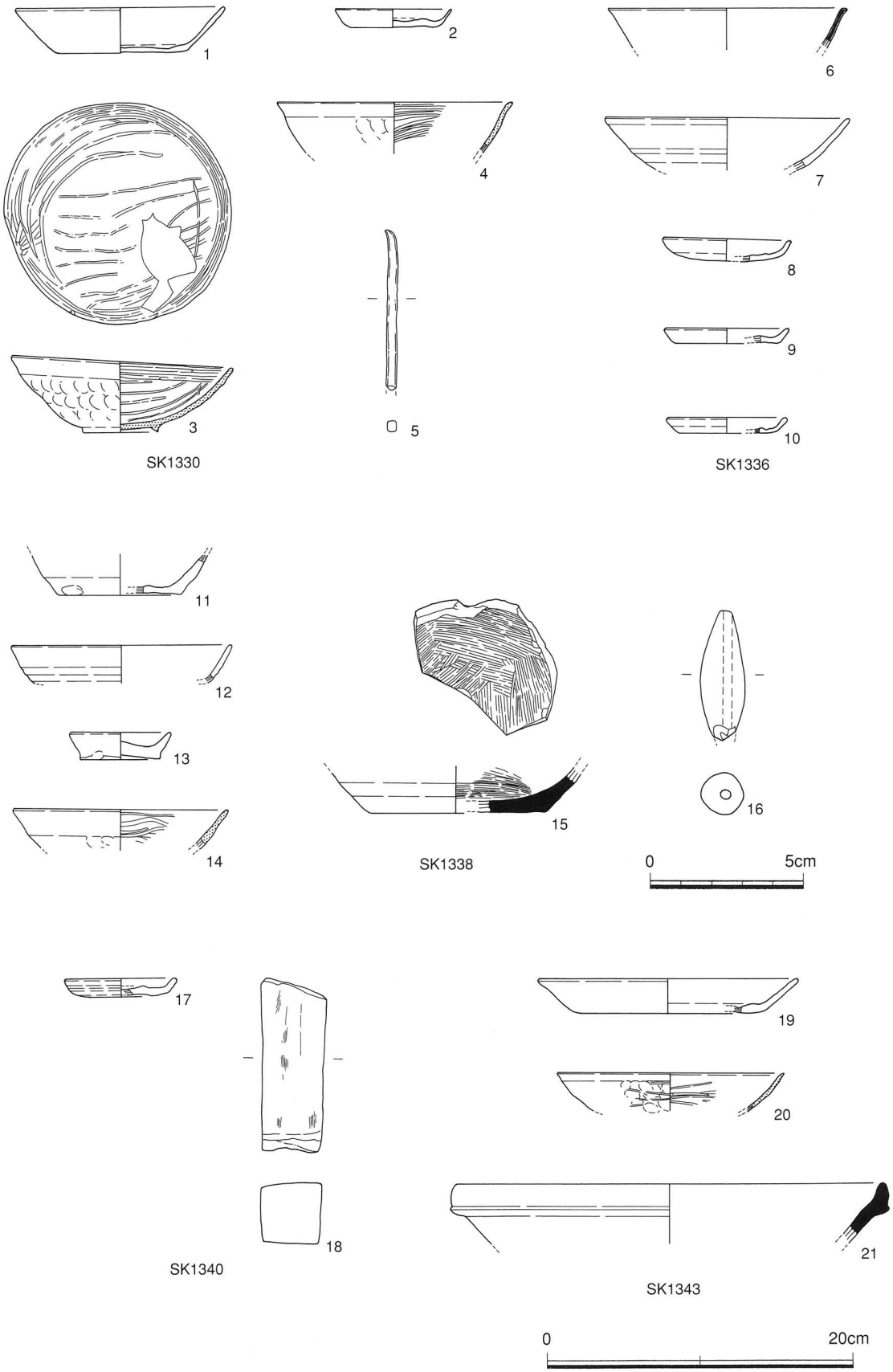
G－18・19、四角形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第52図）

出土遺物は土師質土器・土師器の杯・皿類、須恵質土器、瓦器、瓦などが出土している。いずれも小



第51図　SK 出土遺物（1318・1320・1323・1324・1326・1327・1328）



第52図　SK 出土遺物（1330・1336・1338・1340・1343）

片であり、実測可能なものは少ない。

SK1344

E－18・19、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第53図）

出土遺物は土師質土器・土師器の杯・皿・小皿の他、瓦器・黒色土器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。黒色土器はA類の椀が出土している。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器は和泉系の椀である。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1349

F－10、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第53図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・小皿の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは1点のみである。10は土師質土器の鍋で、口縁部は外反する。

SK1350

F－18・19、円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第53図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・小皿の他、瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみである。12は西村系と思われる須恵質の椀である。体部内外面に丁寧にヘラミガキが施される。

SK1353

F・G－16・17、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第53図）

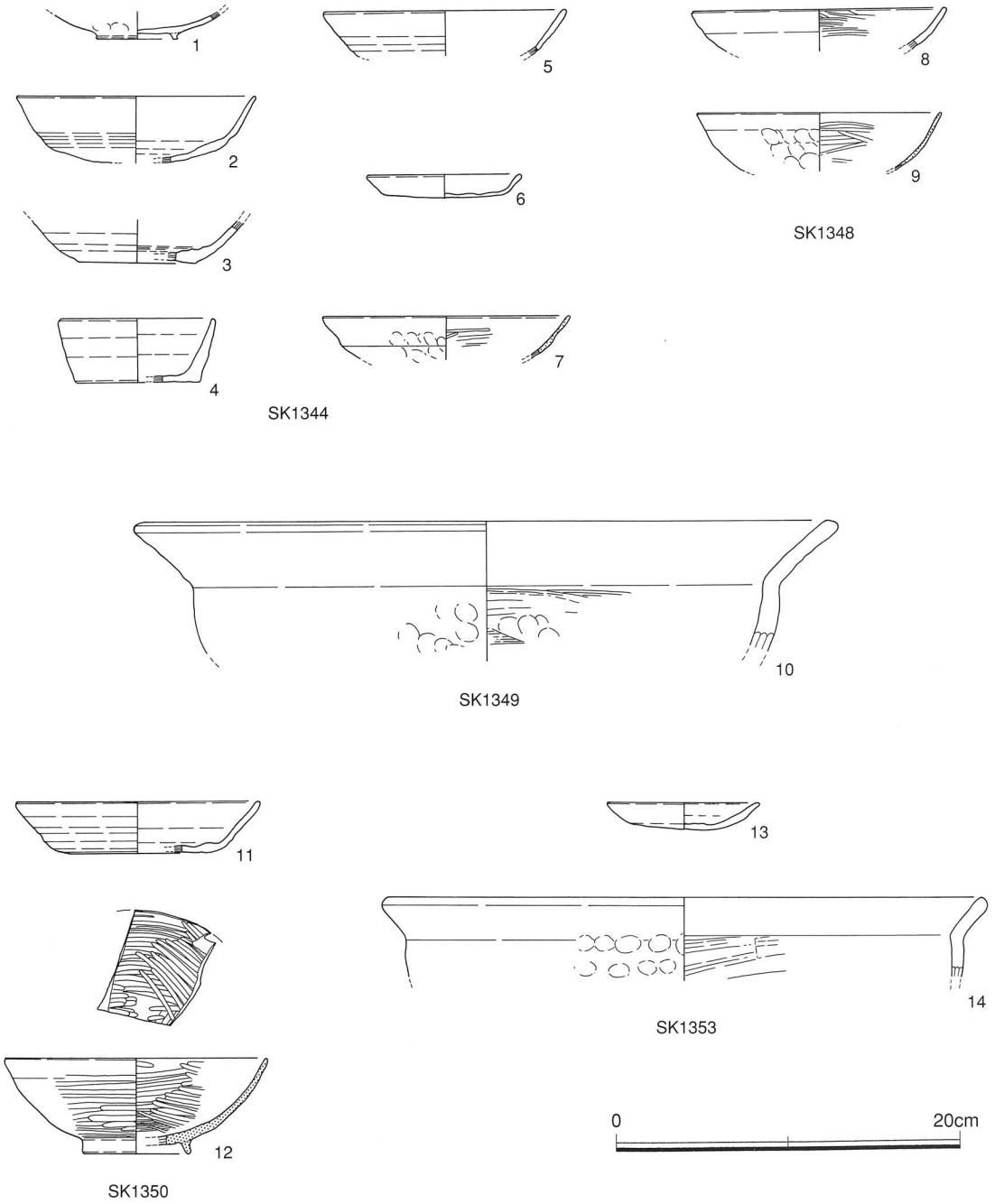
出土遺物は土師質土器の杯・皿・小皿の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみである。13は土師質土器の小皿で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。14は土師質土器の鍋である。

SK1354

G－14・15、四角形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第54図）

出土遺物は土師質土器・土師器杯・皿の他、黒色土器・瓦器・輸入陶磁器など雑多である。瓦器は椀・皿・鉢が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期



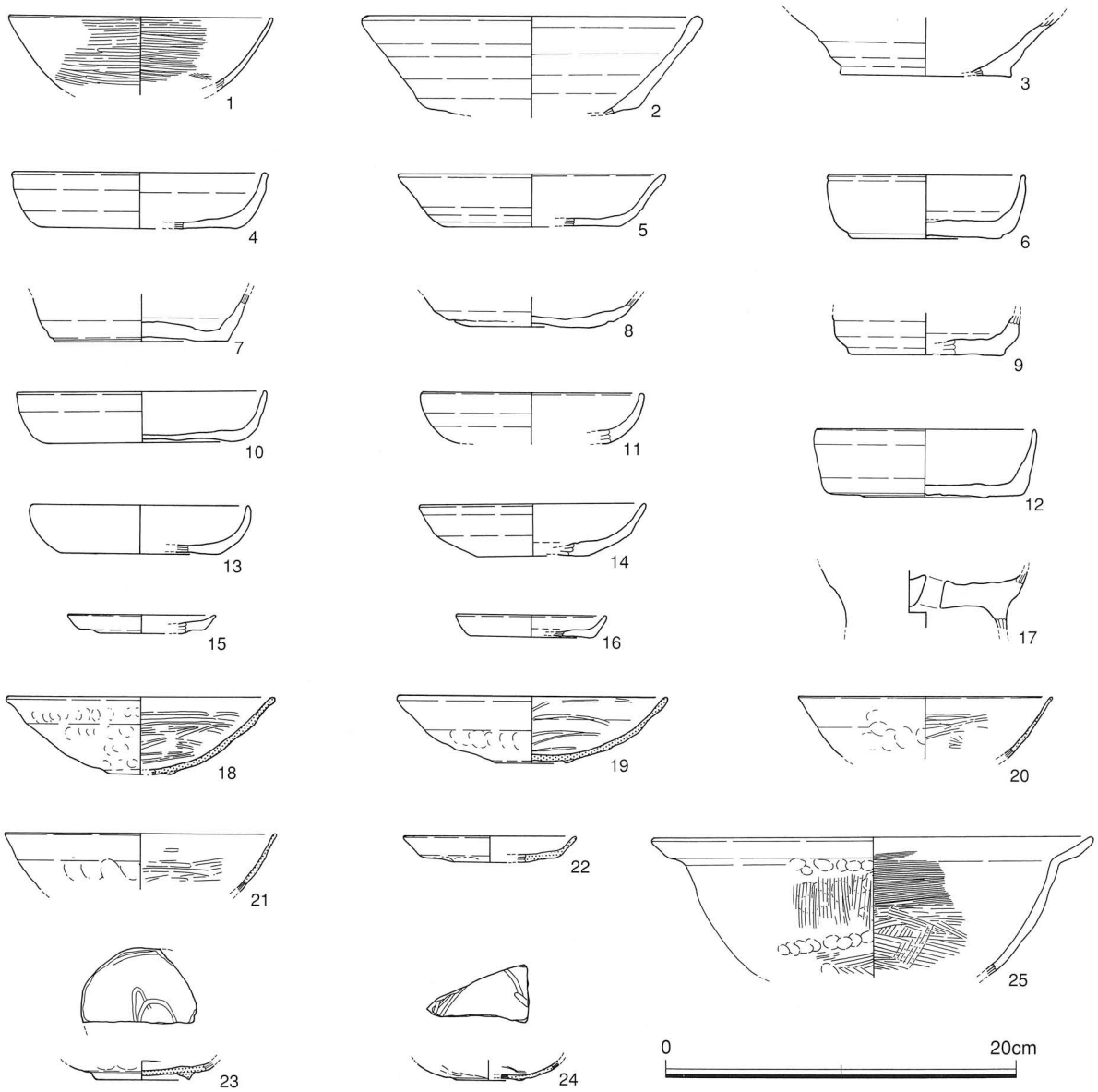
第53図　SK 出土遺物（1344・1348・1349・1350・1353）

的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。

土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りが混在する。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。土師質土器の中には体部が屈曲する吉備系と思われるものもみられる。

輸入陶磁器は白磁・青磁が出土している。碗類が多いが、いずれも小片のため、全体のわかるものは少ない。

17は土師質の特異な形をした土製品である。土師質土器の杯形の底部を貼り合わせた後、中央部を穿孔して焼成している。器種・用途は不明であるが、中央の穿孔に軸を通して、回転する台(ロクロ・型)として使用した可能性も考えられる。



第54図　SK1354出土遺物

SP（小穴・柱穴）

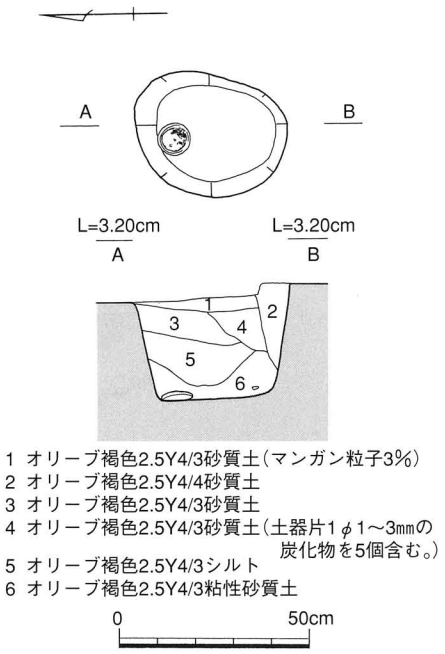
1000基を超えるSPが出土しているが、構築物としての並びとして捉えられるものは少ない。また遺物も土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。

SP1215（第55図）

調査区中央部、U－48グリッドで検出されたピットである。平面形状は、ほぼ円形を呈し、深さは30cmである。ピット基底部からは、和鏡（菊花（散）双鳥（雀）鏡）が出土した。

建物の廃絶に伴う地鎮等の祭祀行為が行われたものと考えられ、柱を抜き取った後、埋納したものであると推測される。しかしながら、建物跡として明瞭に認識可能なSP群はみられず、構築物あるいはそれに関連するものの復元は困難である。

ピット内からは鏡の他には出土遺物はなかった。埋納に際し、箱などの容器あるいは布などで梱包されていた可能性は高いと考えられるが、土層および鏡表面の観察からは、その痕跡は確認できなかった。



第55図　SP1215平・断面図

出土遺物（第56図）

1は青銅製の和鏡である。円鏡で面径は8.7cm（二寸）の小型鏡である。重量は93g。縁高は6mmである。鏡縁は直角式縁で細縁であり、端部は方形状を呈する。鏡背面には「菊花双鳥」の文様が半肉彫りで表現される。類似例としては香川県八幡宮御神鏡（明光寺蔵）・藤尾八幡神社鏡や草戸千軒町遺跡SD4455出土鏡（第42次調査）などがみられる。

界圏は尖線で、外区中央には中線が巡る。外区中線は縄文で6分割される。中線を挟んで、外区には櫛歯文（圏帯）が二重に巡り、仿製漢式鏡の特徴をもつ（擬漢式鏡）。

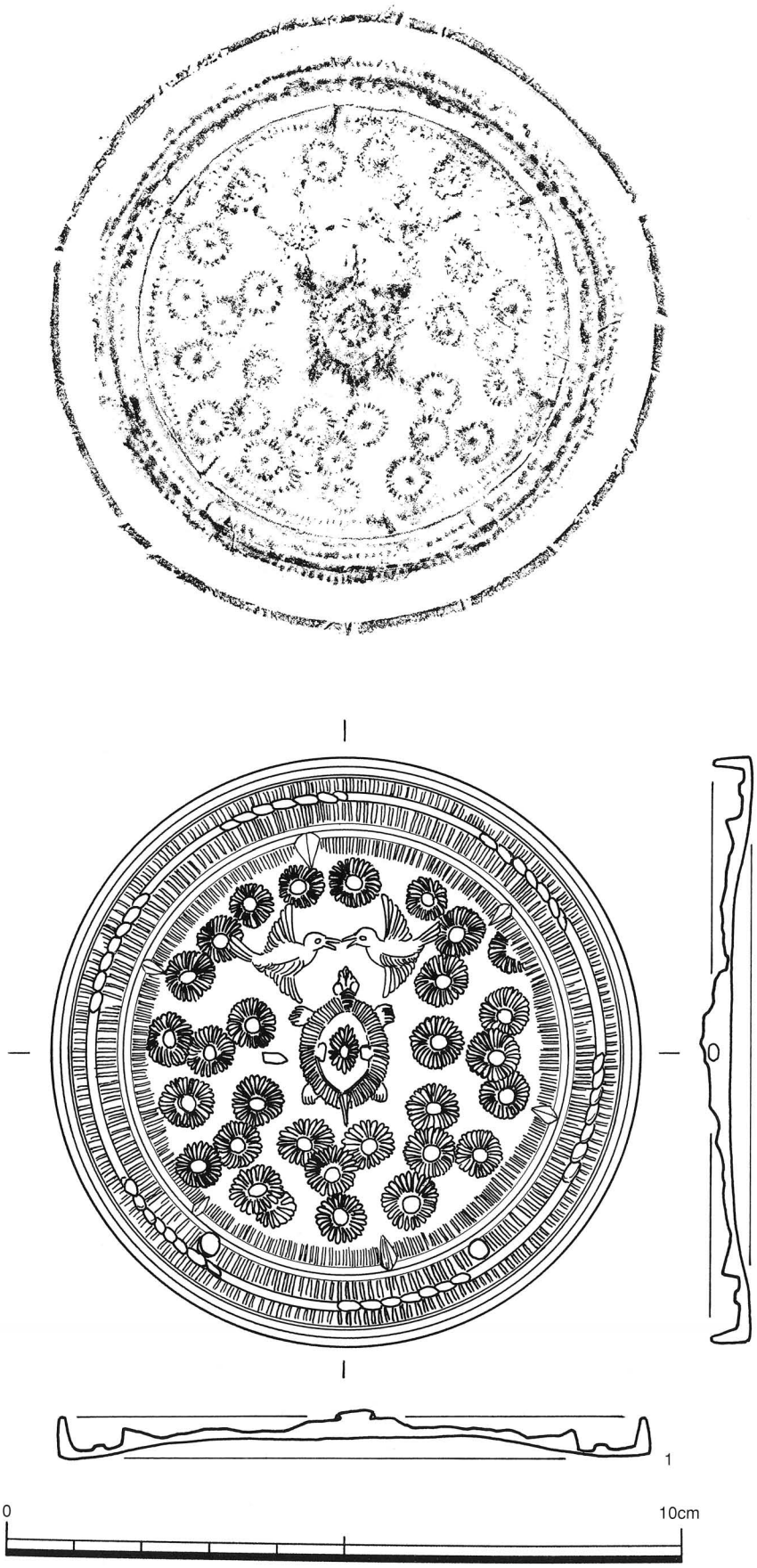
内区は外区より一段高く、垂直に立ち上がる。界圏に接して、内区外縁にも櫛歯文が巡り、界圏は短い突線帯により外区中線の縄紋と同様に6分割される。菊花文が不規則に内区全体に散らされ、鈕上方には向かい合った（接嘴した）双鳥（雀か）が鋳出される。内区径は6.7cmである。

鈕座は亀形鈕で、甲羅中央に菊花を表す。鈕孔は貫通しない。紐孔は7mm。鏡面は凹面を呈し、中央部のくぼみは顕著である。双鳥と対する鈕下方の外区に2ヵ所の穿孔がみられ、懸垂鏡として再使用されていたものと考えられる。鏡面には鏡像はみられない。

時期的には14世紀前半、室町時代前半頃のものと思われる。

SP1029

U・V－58・59、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等



第56図　菊花双鳥鏡拓影・実測図

の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は唐津の砂目皿である。

SP1064（第57図）

U－53・54、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1070

U－53・54、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP1101

U・V－52、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1231

S－49グリッド、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。周辺の状況から14世紀前半、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

6は滑石製温石である。短冊状を呈し、表裏面に線刻戯画が描かれている。

SP1310

W・X－57・58、長方形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は瀬戸の天目茶碗である。

SP1338

U・V－42・43、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP1356

U・V－41・42、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

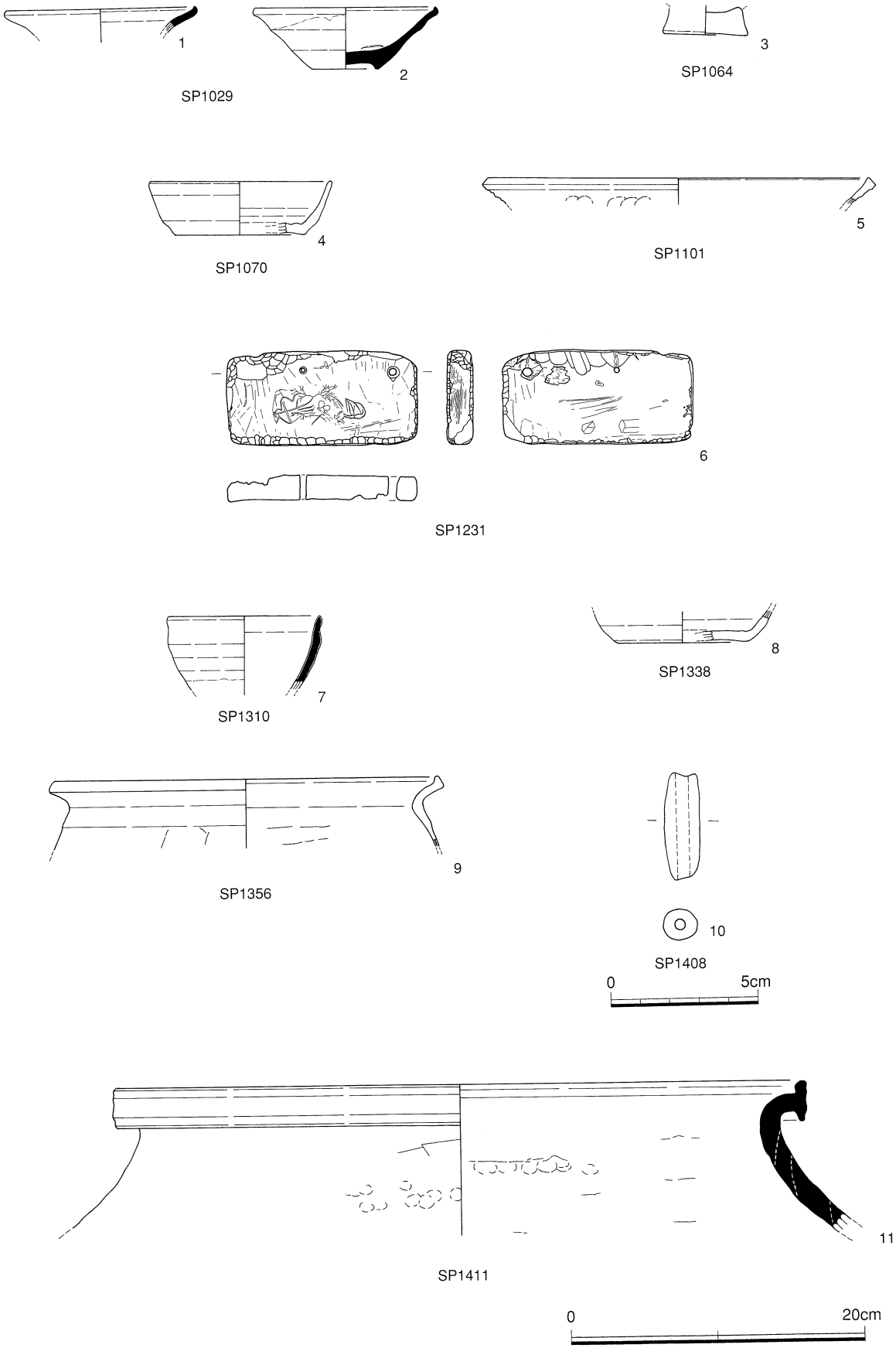
出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師器の甕である。

SP1408

P・Q－43、楕円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器、土師質土錘などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。



第57図　SP 出土遺物（1029・1064・1070・1101・1231・1310・1338・1356・1408・1411）

SP1411

U・V－42・43、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第57図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は常滑の甕である。口縁部は上下に拡張する。14世紀前半頃と思われる。

SP1431

Q－39・40、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP1449

U・V－42・43、楕円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1450

T・U－40、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1521

R・S－37・38、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等

の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器、陶・磁器片などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1536

R・S－37・38、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1566

Q・R－36・37、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1601

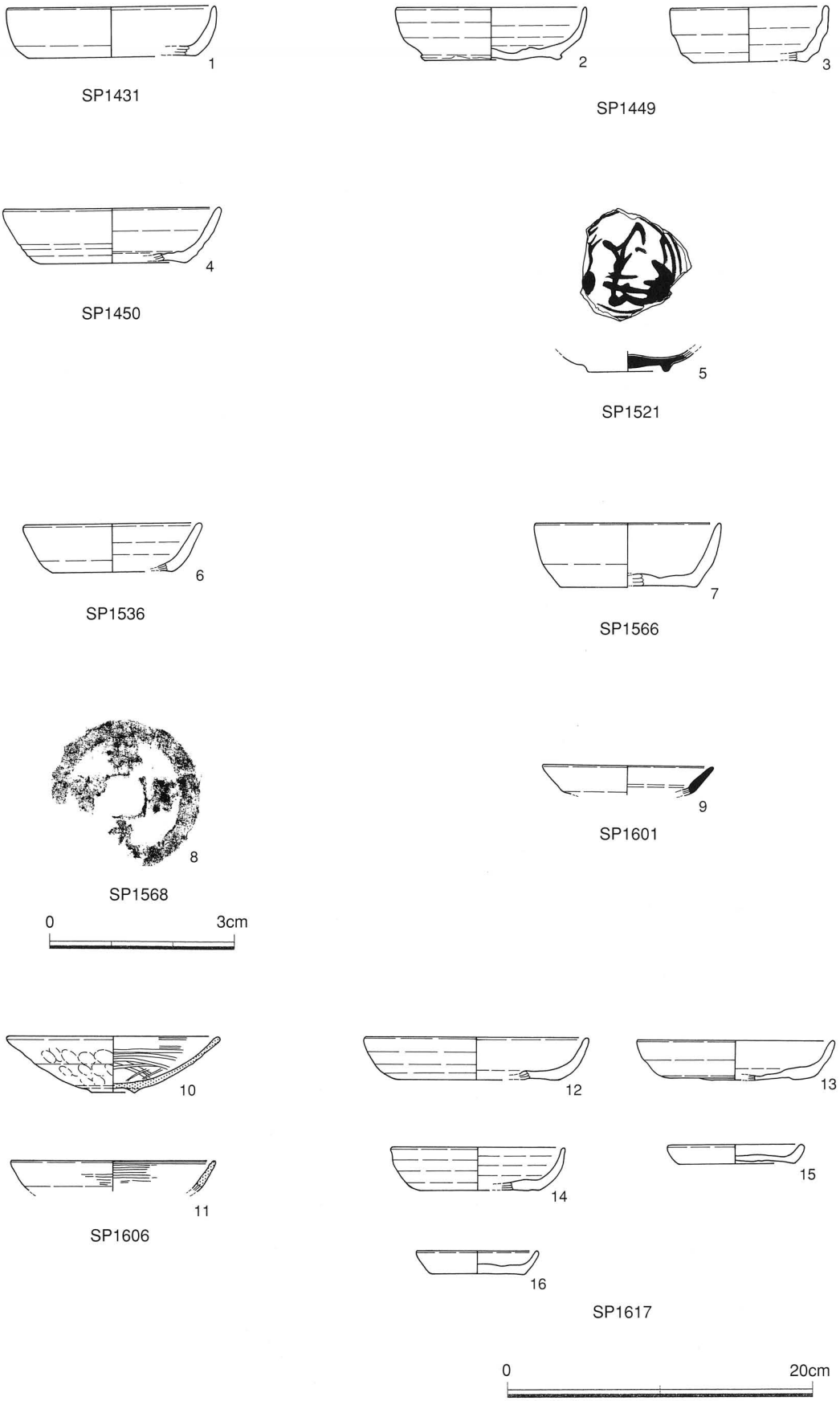
P・Q－34・35、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器、輸入磁器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は同安窯の青磁の皿ある。

SP1606

P－34・35、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。



第58図　SP 出土遺物（1431・1449・1450・1521・1536・1566・1568・1601・1606・1617）

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器杯・皿片の他、瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は和泉系および楠葉系の椀が出土している。和泉系の瓦器椀は、時期的には尾上分類のⅢ－２期に収まるものと思われる。楠葉系の瓦器椀は小片であるが、口縁部内面に沈線が巡り、端部は尖り気味に収める。楠葉型のⅡ－２期に属するものと思われる。

SP1617

Q・R－34・35、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第58図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1620

N－31・32、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1621

O－32、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。６は土師質の椀である。体部内面は板ナデで調整される。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1629

O・P－28・29、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は土師質の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP1634

S・T－37、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は瀬戸焼の皿である。

SP1643

N－32、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。18は備前焼の壺である。

SP1644

W・X－62・63、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

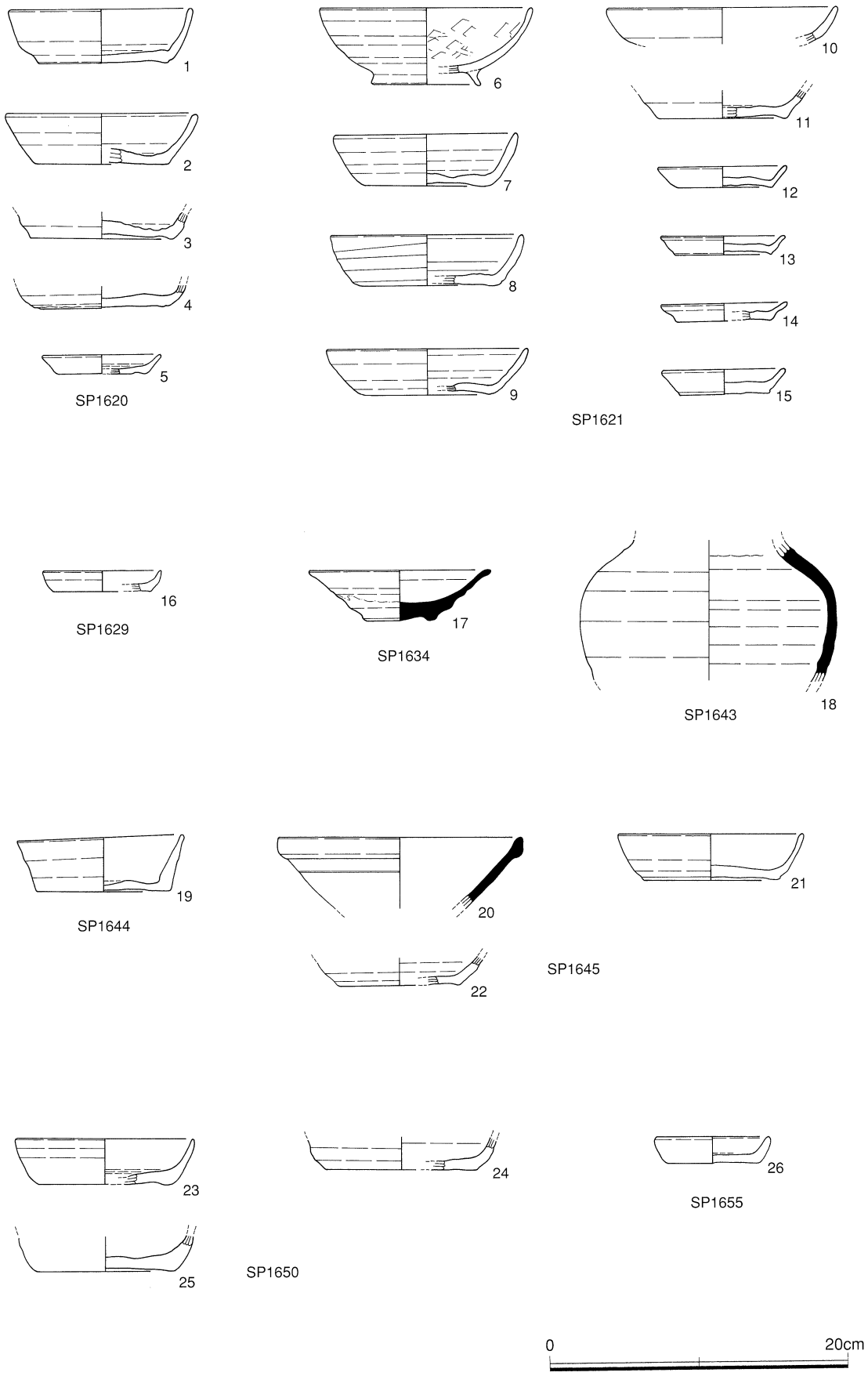
出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。19は土師質土器の杯である。体部は直立気味に外上方に延びる。底部切り離しは回転糸切りである。

SP1645

N－31・32、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。



第59図　SP 出土遺物（1620・1621・1629・1634・1643・1644・1645・1650・1655）

土師質土器の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1650

O・P－29・30、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1655

O・P－29・30、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第59図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。26は土師質の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP1658

L～N－29・30、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。底部切り離しは回転糸切りである。

SP1689

K・L－25・26、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は東播系須恵質土器の片口鉢である。

SP1813

H・I－17、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は和泉系の瓦器椀である。

SP1829

H・I－16、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1859

F・G－11、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は土師質土器の羽釜である。

SP1888

E・F－11・12、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は和泉系の瓦器椀である。尾上分類のⅡ－3期に属するものと思われる。

SP1890

D・E－11・12、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみ

られ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1894

D・E－16、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1899

E－16、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1907

D－17、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1917

F・G－16・17、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1929

E・F－17・18、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1930

E・F－17・18、半円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は土師器の杯である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP1950

F・G－17・18、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第60図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1951

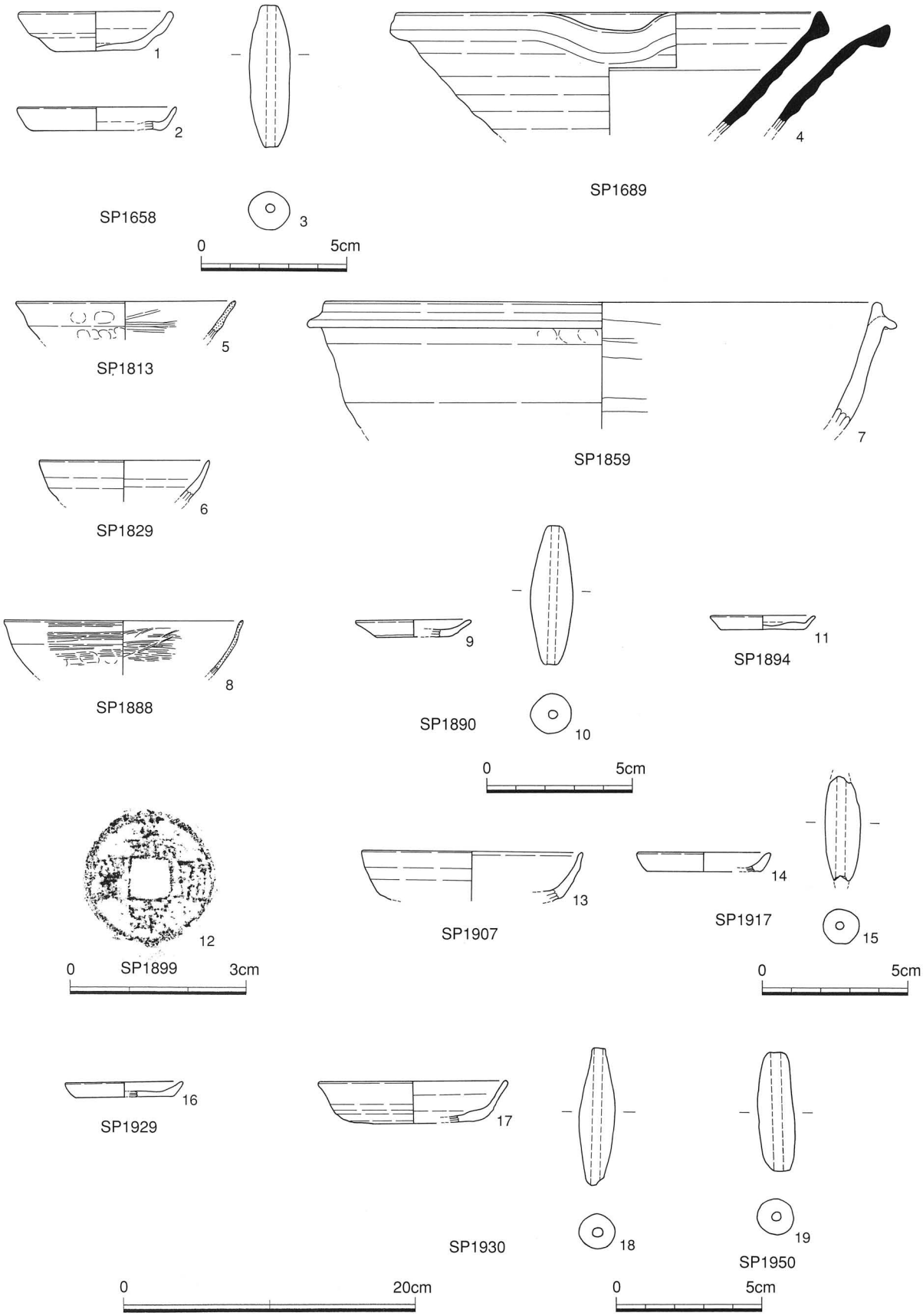
F・G－17・18、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1956

F・G－17・18、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。



第60図　SP 出土遺物（1658・1689・1813・1829・1859・1888・1890・1894・1899・1907・1917・1929・1930・1950）

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。底部切り離しは回転糸切りである。

SP1962

E－18・19、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1968

D・E－16・17、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師質土器の鍋である。

SP1972

E－13・14、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1973

E・F－12・13、円形の小穴。深度は浅く断面形は扁平なD字状を呈する。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内には扁平な結晶片岩の楕円礫が充填されていた。礫は長軸が10cm前後の大きさのもので揃えられており、計29点の出土であった。何らかの祭祀的な遺構と思われるが、性格は不明である。土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ないが、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は片岩の扁平楕円礫である。表面には加工痕はみられず、自然礫であると思われる。

SP1974

D・E－11・12、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP1983

O・P－29・30、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延び、底部切り離しは回転糸切りである。

SP1990

F・G－16・17、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は土師器の皿である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP1994

J・K－23・24、円形の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

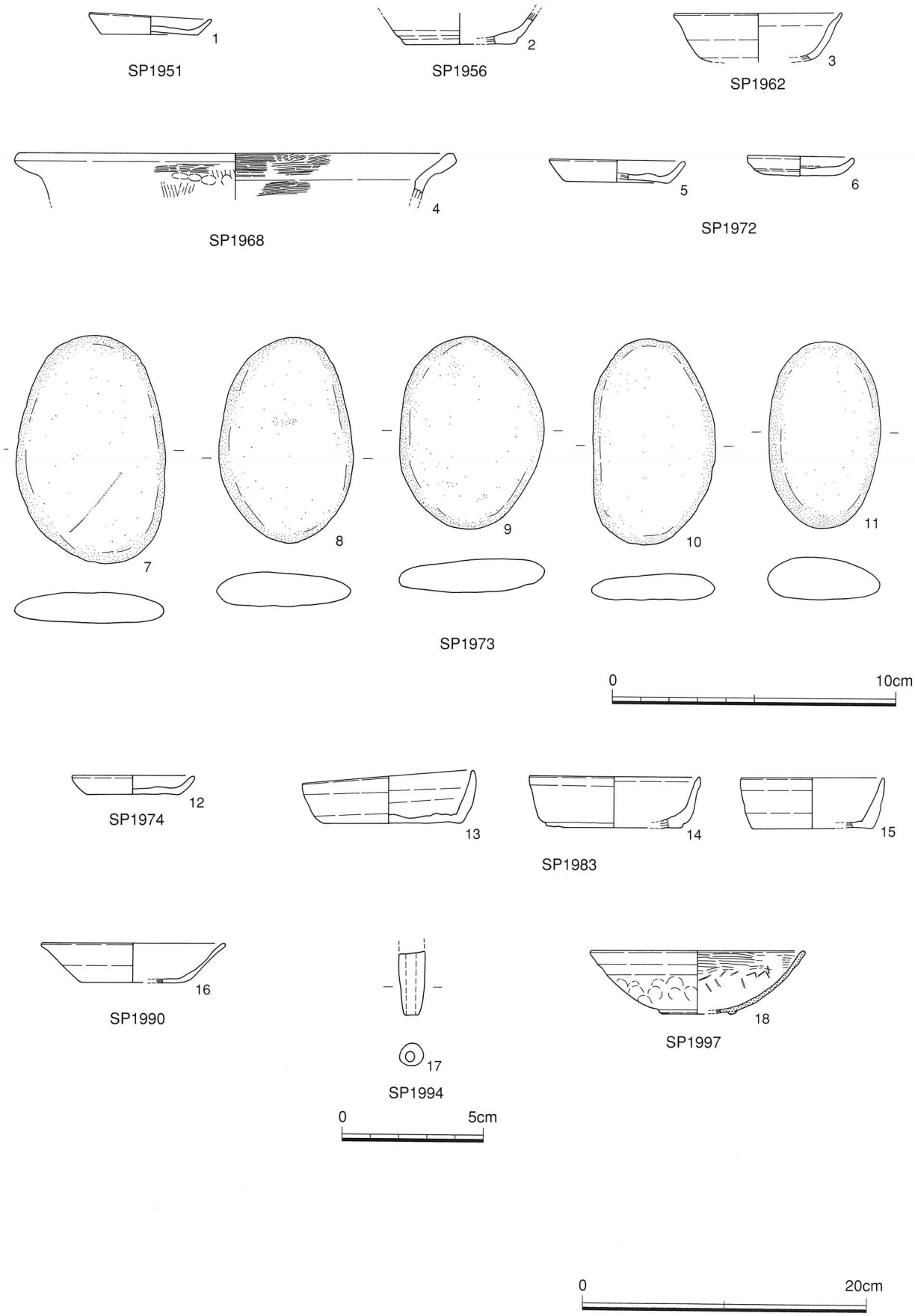
出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP1997

G－14～17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は土師質土器等の細片は混じるものの、器形・時期の判別するものも少ない。また出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第61図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが散見するが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。18は瓦器椀ある。和泉型瓦器椀のⅢ－１期であると思われる。



第61図　SP 出土遺物（1951・1956・1962・1968・1972・1973・1974・1983・1990・1994・1997）

SX

SXとしたものは、約50基を数える。平面プランは不明瞭で、不定形なものが多くみられる。埋土中には礫や土器片を多く含み、出土遺物は時期・種類ともに雑多である。廃棄土坑や何らかの人為的痕跡と思われるが、その性格は断定できないため、SXとしておく。

SX1001

T・U－58・59、不定形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第62図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみであった。1は唐津の砂目皿である。2は土師質土器釜である。

SX1002

T・U－58・59、不定形の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第62図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SX1003

T・U－58・59、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には唐津などの陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第62図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみであった。4は唐津の砂目皿である。5は表裏面および外縁に使用痕がみられることから、片岩の扁平な楕円礫を用いた砥石と思われる。

SX1004

U・V－60・61、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には中世陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第62図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみであった。7は瀬戸の天目茶碗である。8は東播系須恵質土器の鉢である。

SX1005

V・W－41～43、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には中世陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第62図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは３点のみであった。９は土師質土器杯、10は土錘である。11は石つぶてと思われる砂岩の楕円礫である。

SX1007

P～R－36・37、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には中世陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第63図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。１は龍泉窯の青磁碗である。体部外面に蓮弁文が施される。

SX1008

P～R－32～34、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物には中世陶器類もみられ、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第63図）

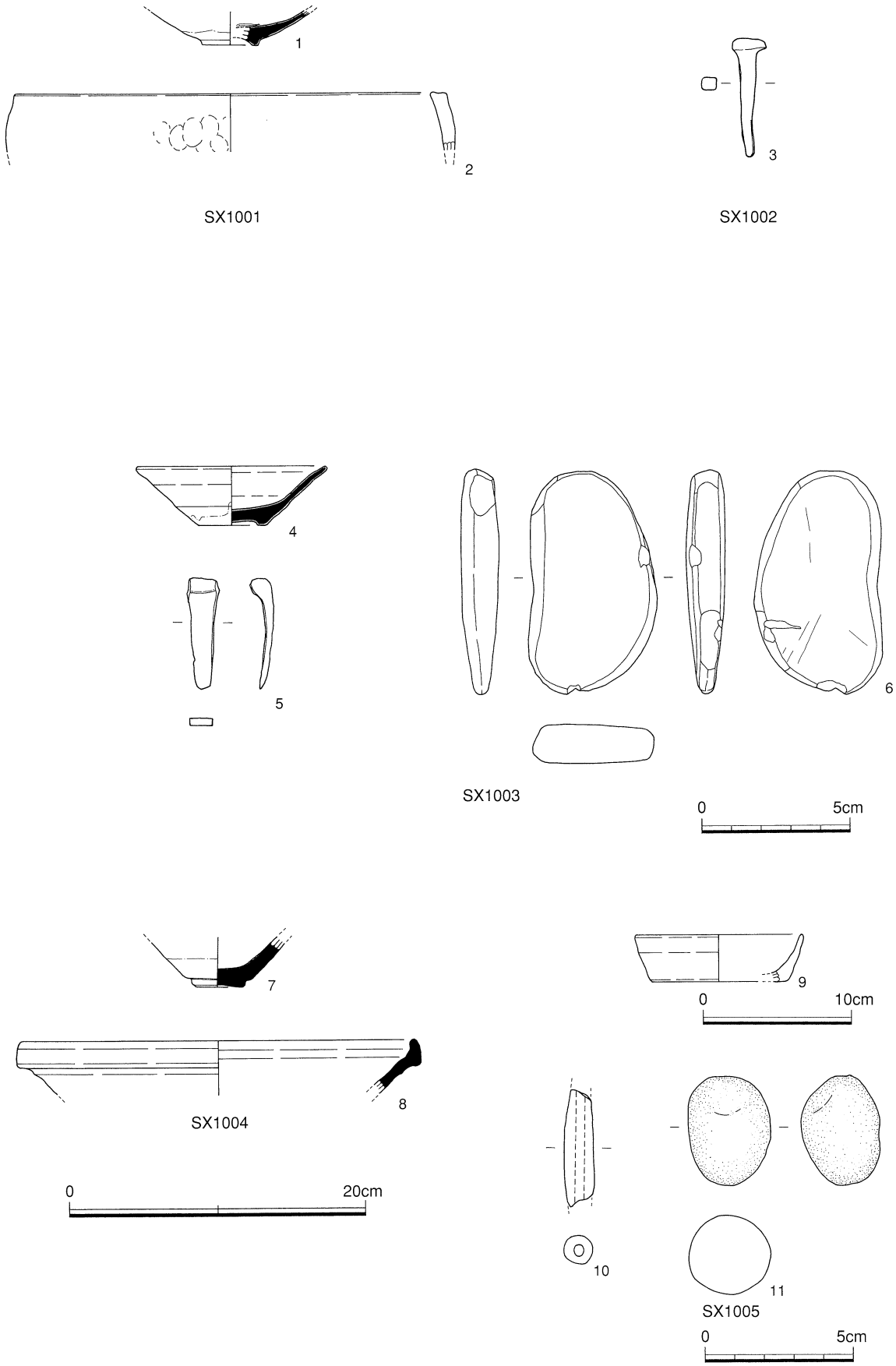
出土遺物は土師質土器の杯・皿などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。17は陽物形の土製品と思われる。

SX1009

Q－30～32、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第63図）

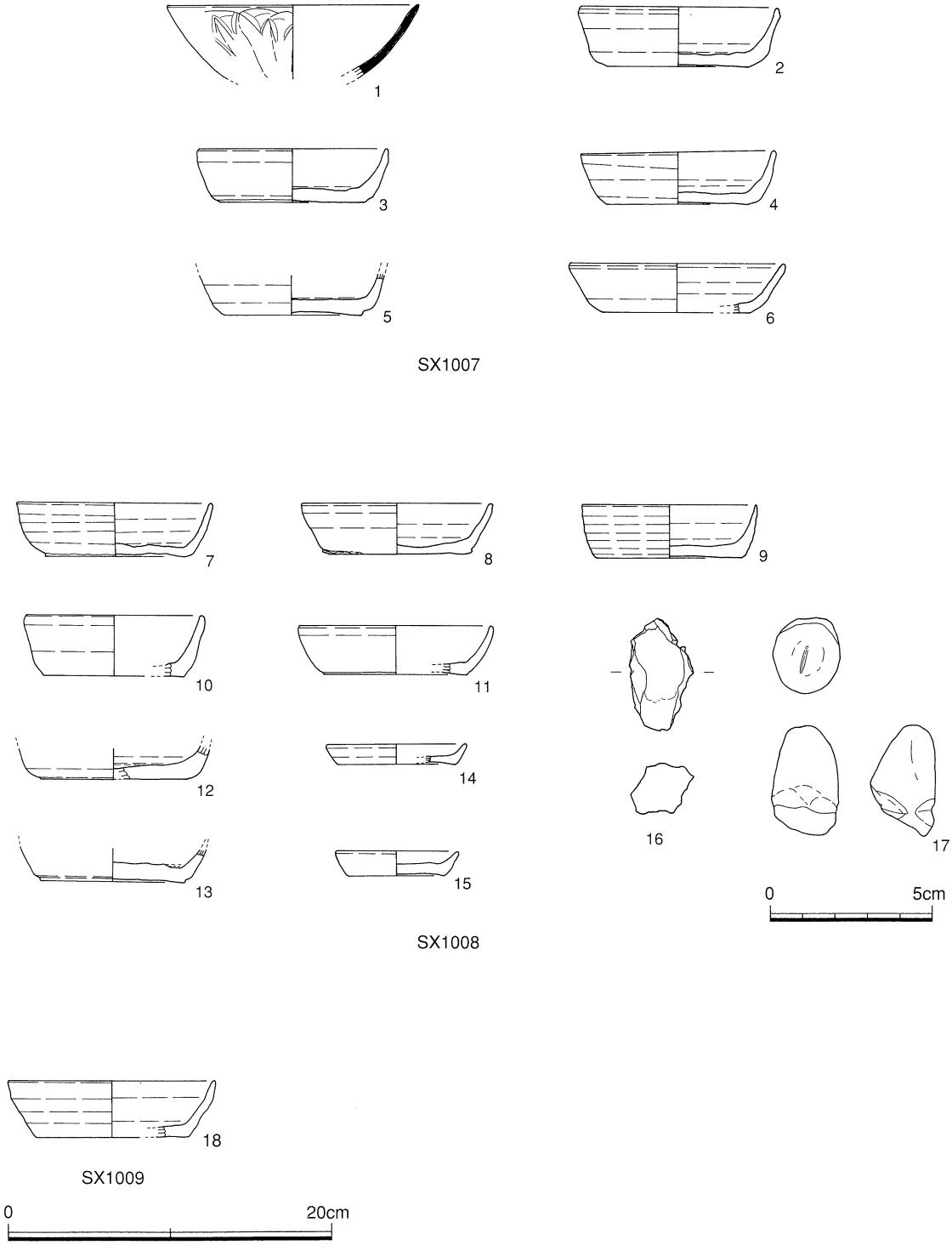
出土遺物は土師質土器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみであった。18は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。



第62図　SX 出土遺物（1001・1002・1003・1004・1005）

SX1012

M－24・25（Q－30～32）、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。



第63図　SX 出土遺物（1007・1008・1009）

出土遺物（第64・65図）

出土遺物のほとんどが土師質土器の杯である。完形品はなく、いずれも小片である。底部の切り離しは回転糸切りである。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。

SX1013

Q－30～32、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第66～68図）

出土遺物のほとんどが土師質土器の杯である。完形品はなく、いずれも小片である。底部の切り離しは回転糸切りである。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。

SX1018

P・Q－29～31、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第69図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿・小皿などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。

SX1019

N－31・32、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物などから、室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第70図）

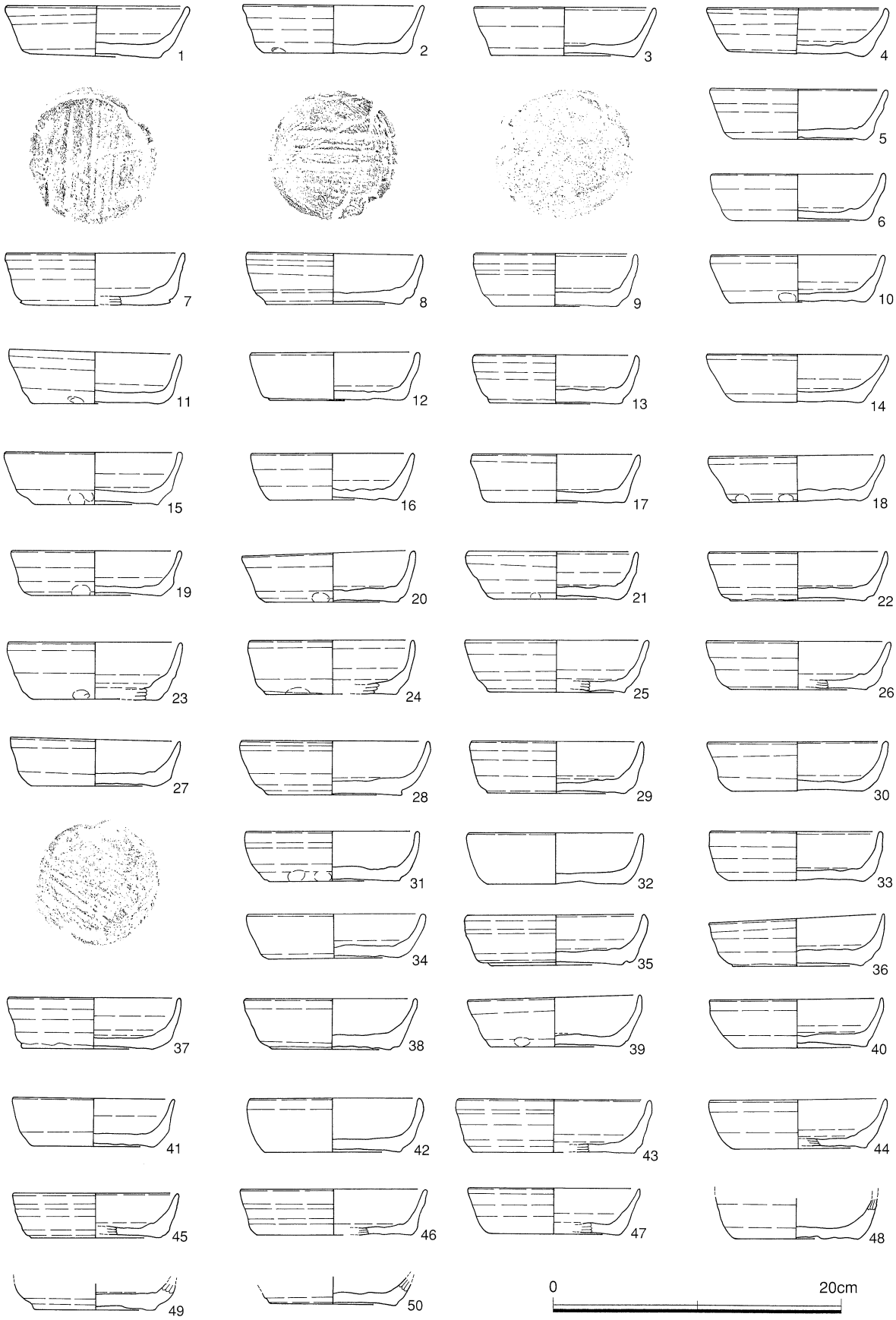
出土遺物は土師質土器の杯・皿・小皿・瓦などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。瓦は須恵質の平瓦である。表面に布目痕、裏面に縄蓆文がみられる。

SX1021

N・O－30、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第70図）

出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは１点のみである。19は和泉系の瓦器椀である。尾上分類のⅢ－１期に属するものと思われる。



第64図　SX1012出土遺物１

SX1022

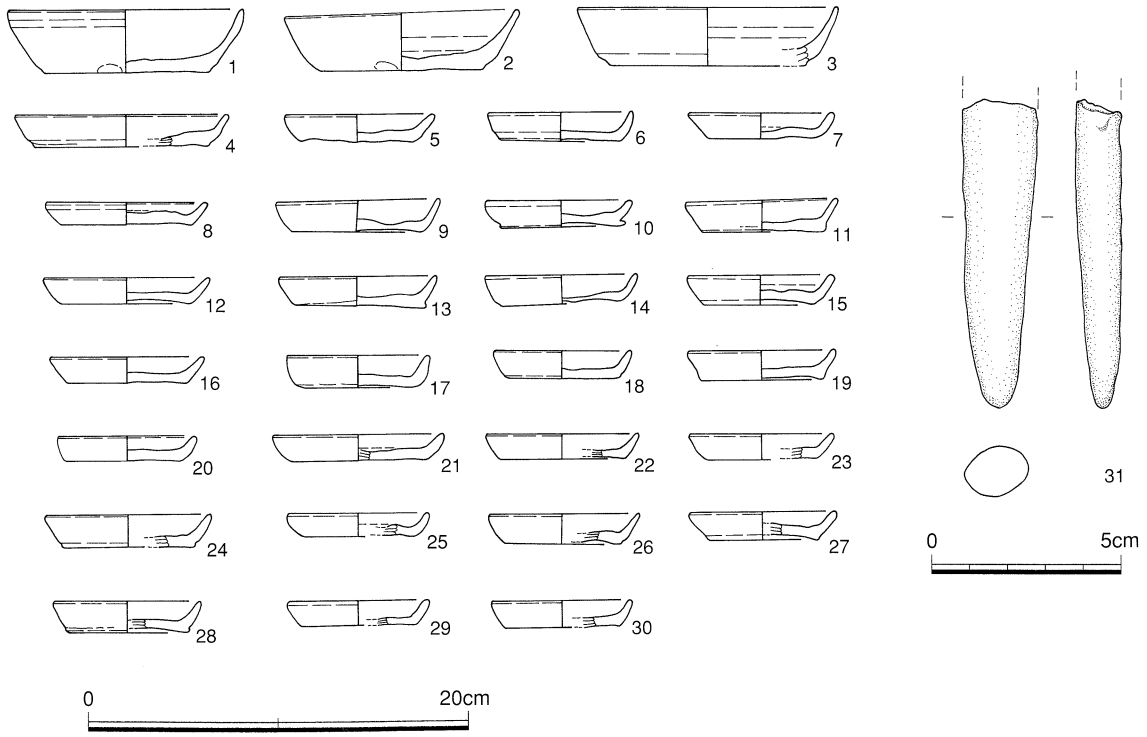
K－20・21（N・O－28・29）、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第70図）

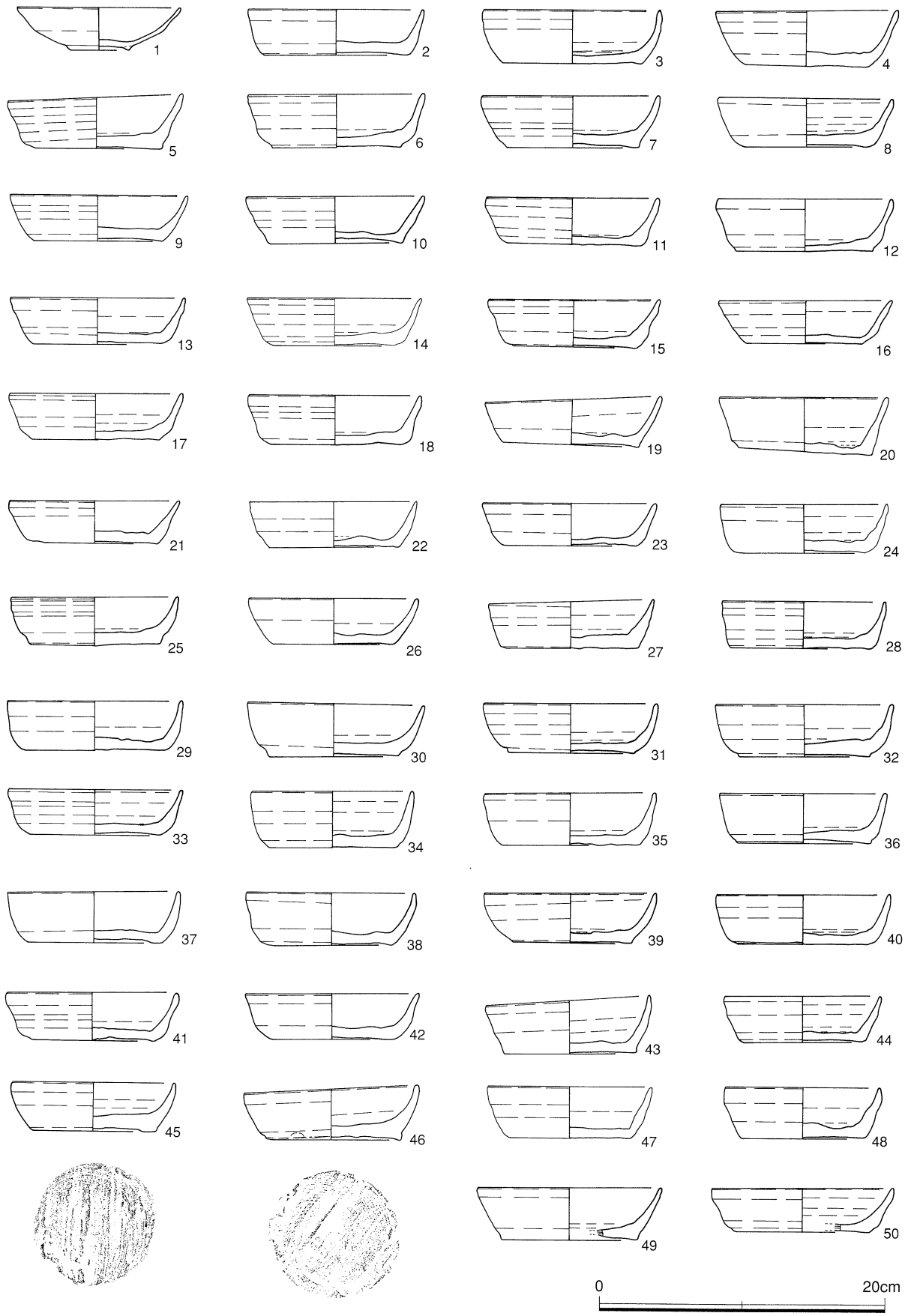
出土遺物は土師質土器などが多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは２点のみである。20は土師質土器の椀高台、21は杯である。

SX1029

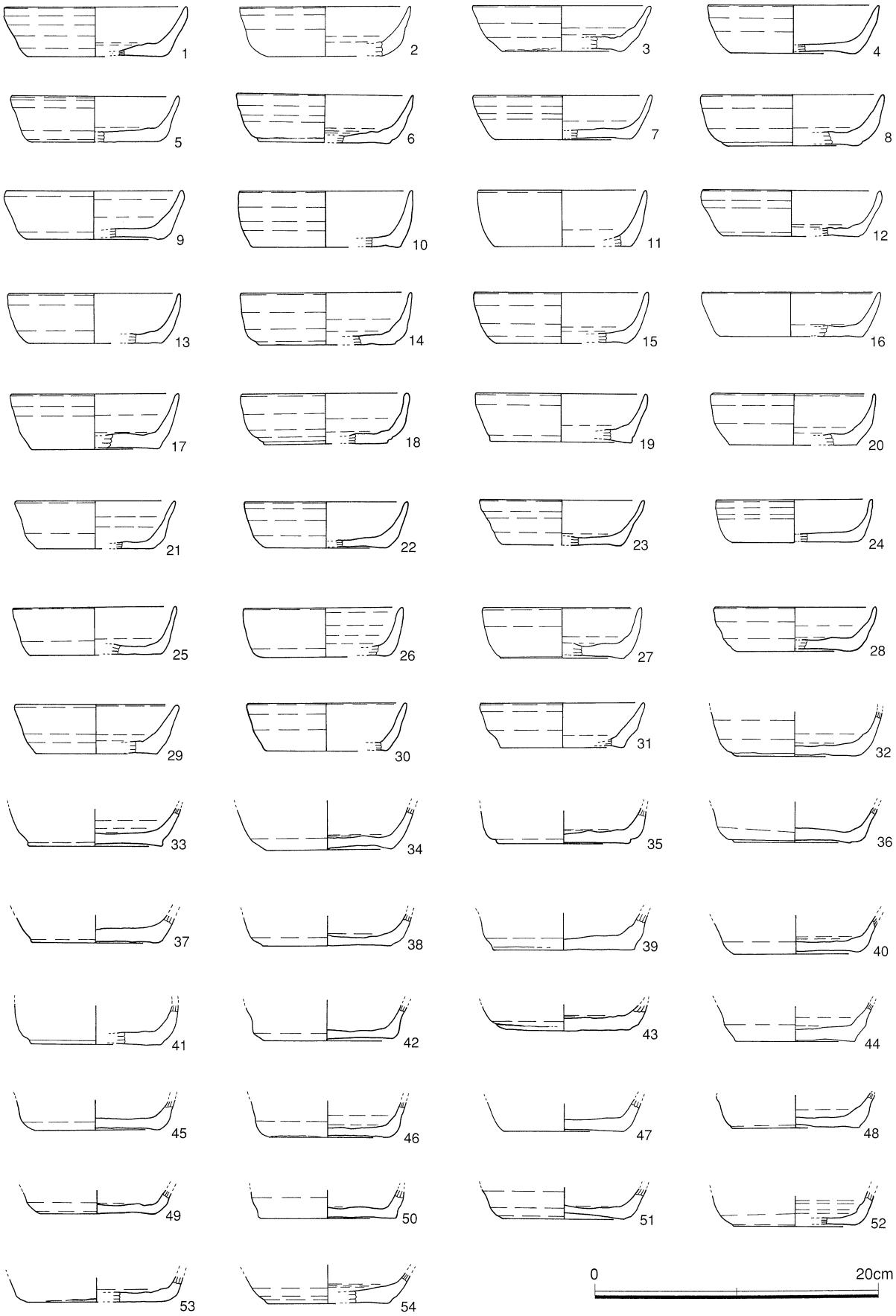
G・H－16・17（I～K－24～26）、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。



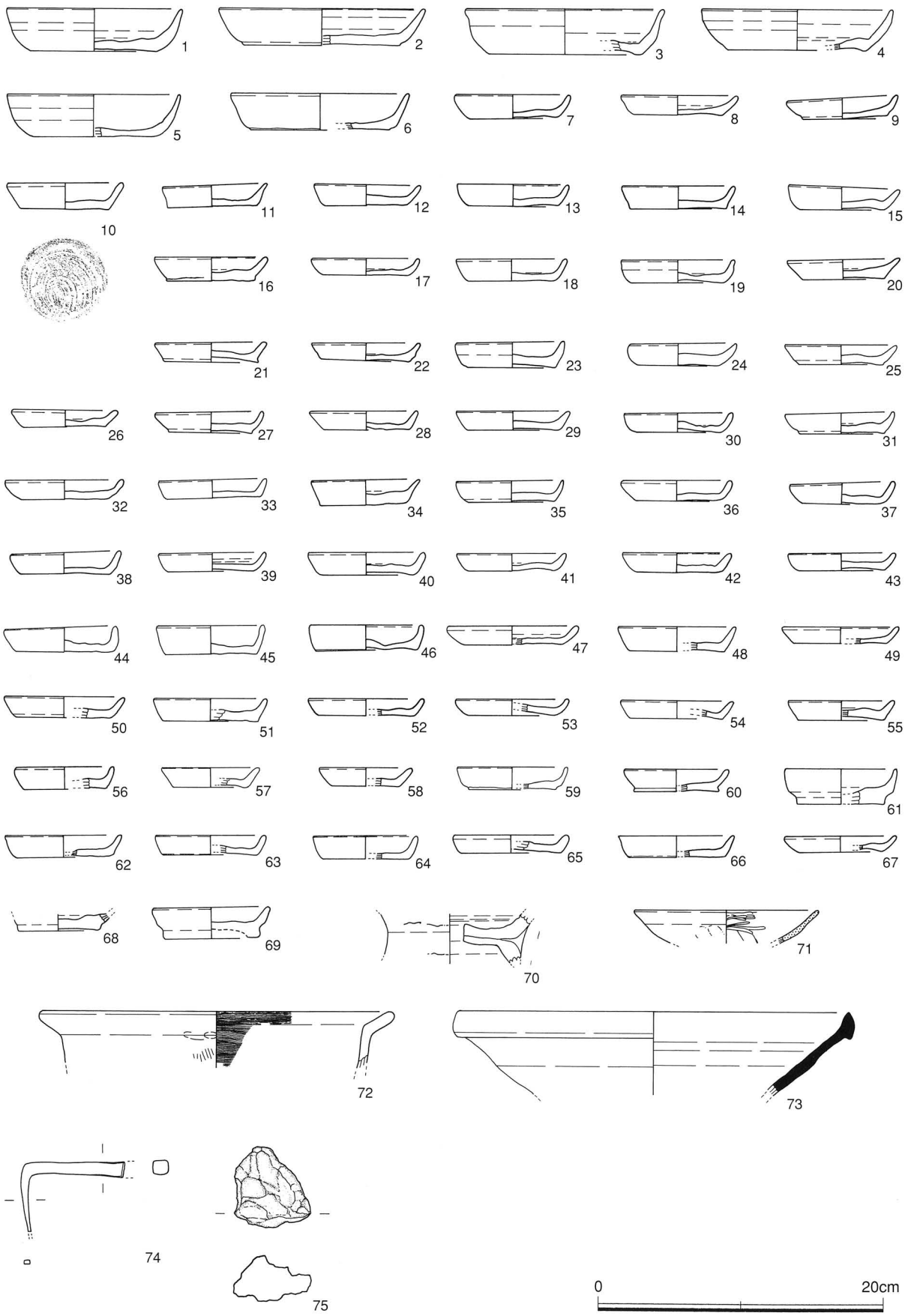
第65図　SX1012出土遺物２



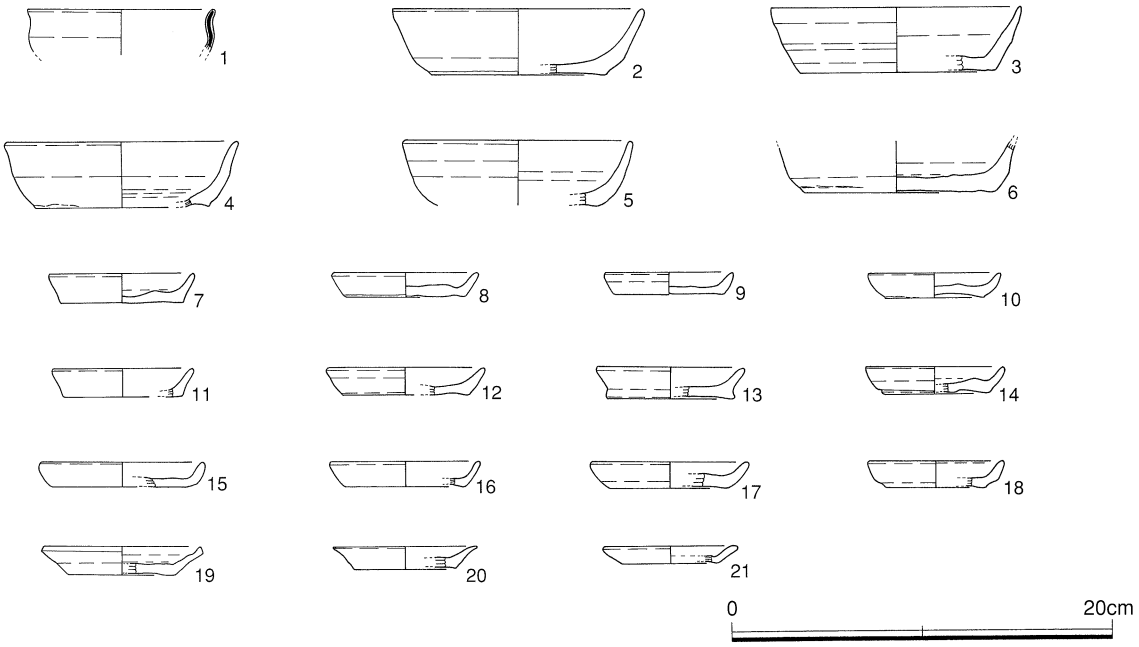
第66図　SX1013出土遺物１



第67図　SX1013出土遺物 2



第68図　SX1013出土遺物 3



第69図　SX1018出土遺物

出土遺物（第71図）

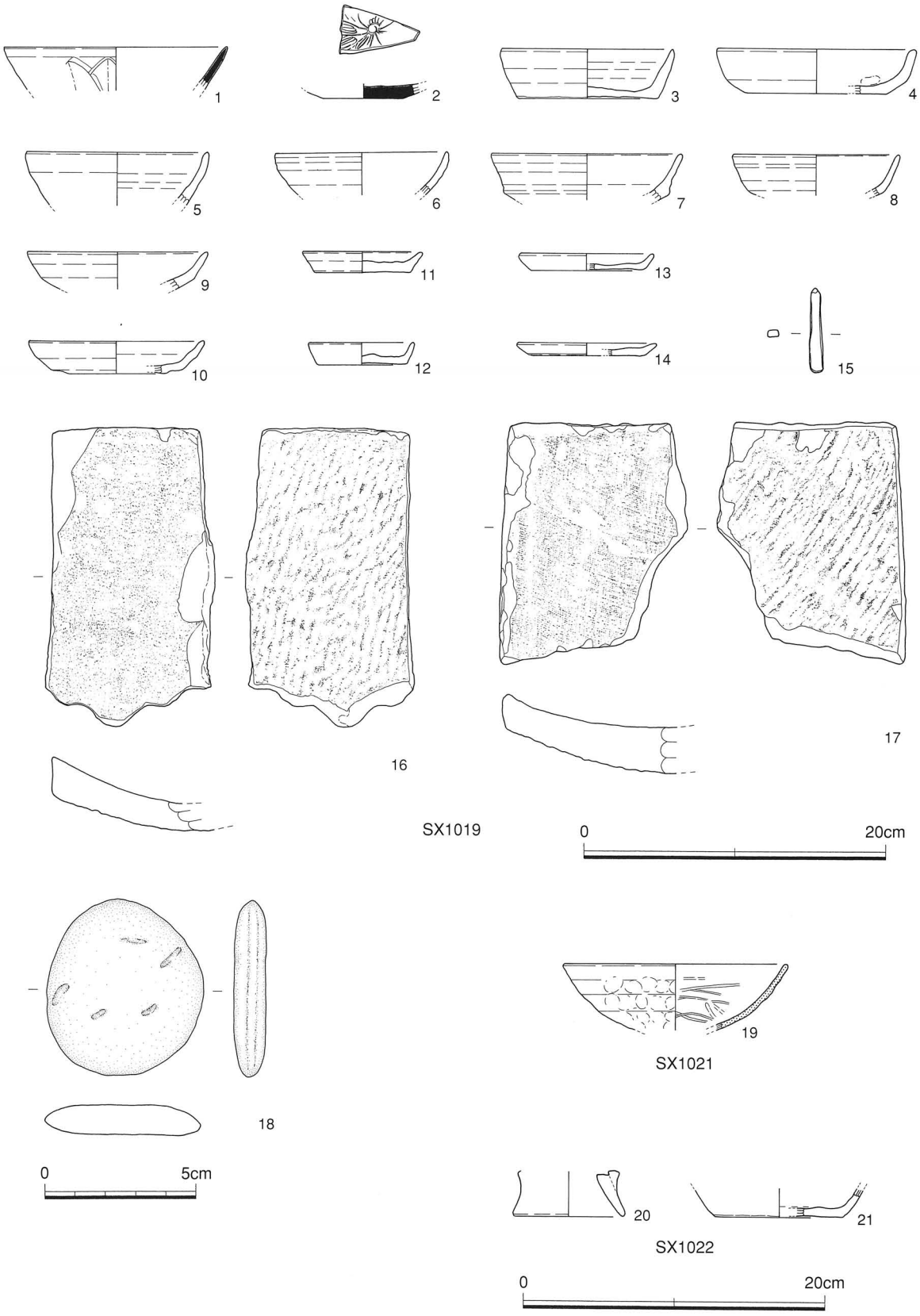
出土遺物は土師質土器杯・皿の他、土錘・瓦器・輸入陶磁器など雑多である。瓦器は和泉系の小皿が出土している。時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りが混在する。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。輸入陶磁器は白磁・青磁の碗が出土している。小片のため、全体のわかるものは少ない。

SX1030

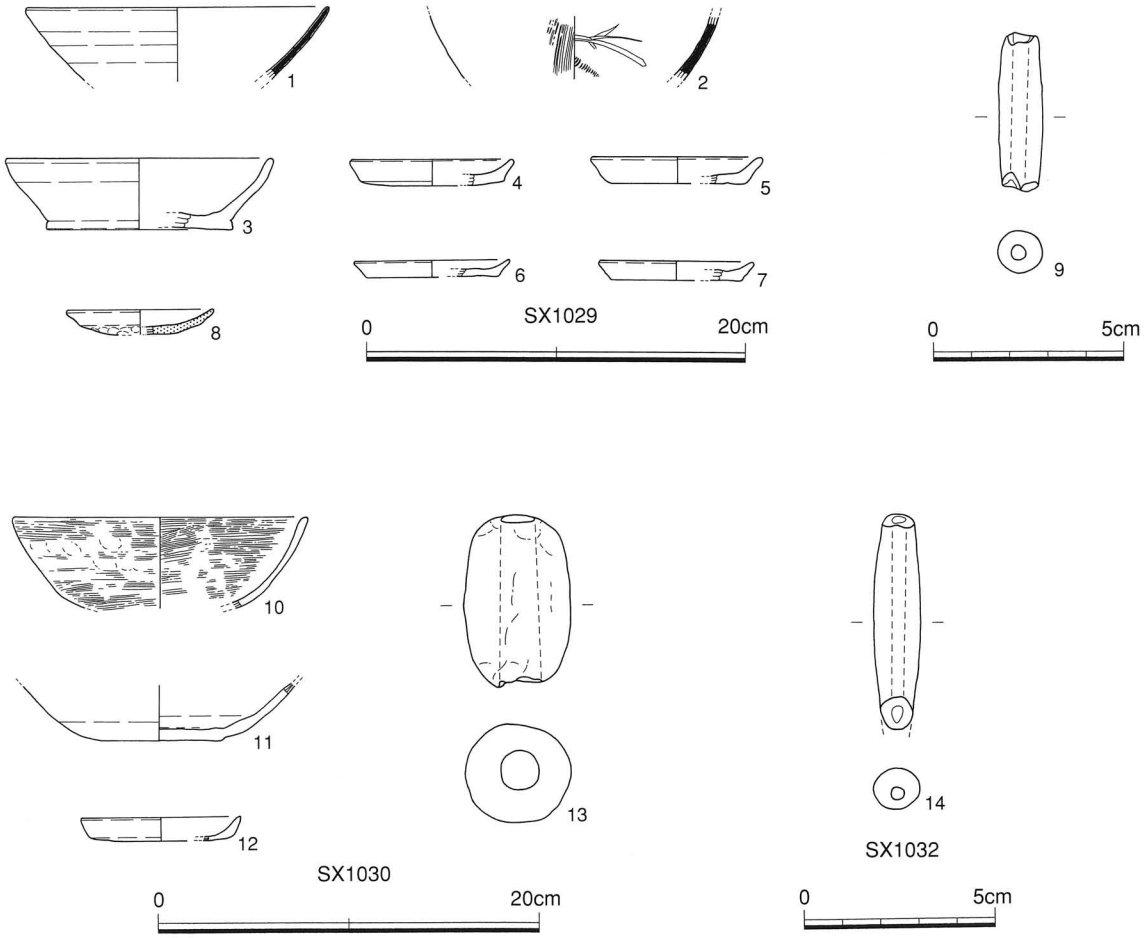
I・J－25・26、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第71図）

出土遺物は土師質土器など多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。13は大形の管状土錘である。



第70図　SX 出土遺物（1019・1021・1022）



第71図　SX 出土遺物（1029・1030・1032）

SX1032

L－22・23、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第71図）

出土遺物は土師質土器など多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは管状土錘１点のみである。

SX1034

F・G－16・17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第72～74図）

出土遺物は土師質土器杯・皿の他、土錘・瓦器・輸入陶磁器など雑多である。

瓦器は椀・皿・鉢が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系

であり、時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。

土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りが混在する。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。

輸入陶磁器は白磁・青磁が出土している。碗類が多いがいずれも小片のため、全体のわかるものは少ない。

SX1035

E～G－16・17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第75図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などが出土しているが、完形品はない。土師質土器は杯・皿・小皿・椀が出土している。杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。１は吉備系の椀と思われる。白色を呈し、体部外面がやや屈曲する。

瓦器は椀・皿・鉢が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。

輸入陶磁器は白磁・青磁が出土している。碗類が多くみられるが、いずれも小片のため、全体のわかるものは少ない。

SX1036

Q－30～32、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第76図）

出土遺物は土師質土器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは２点のみであった。１は土師質土器の杯、２は皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

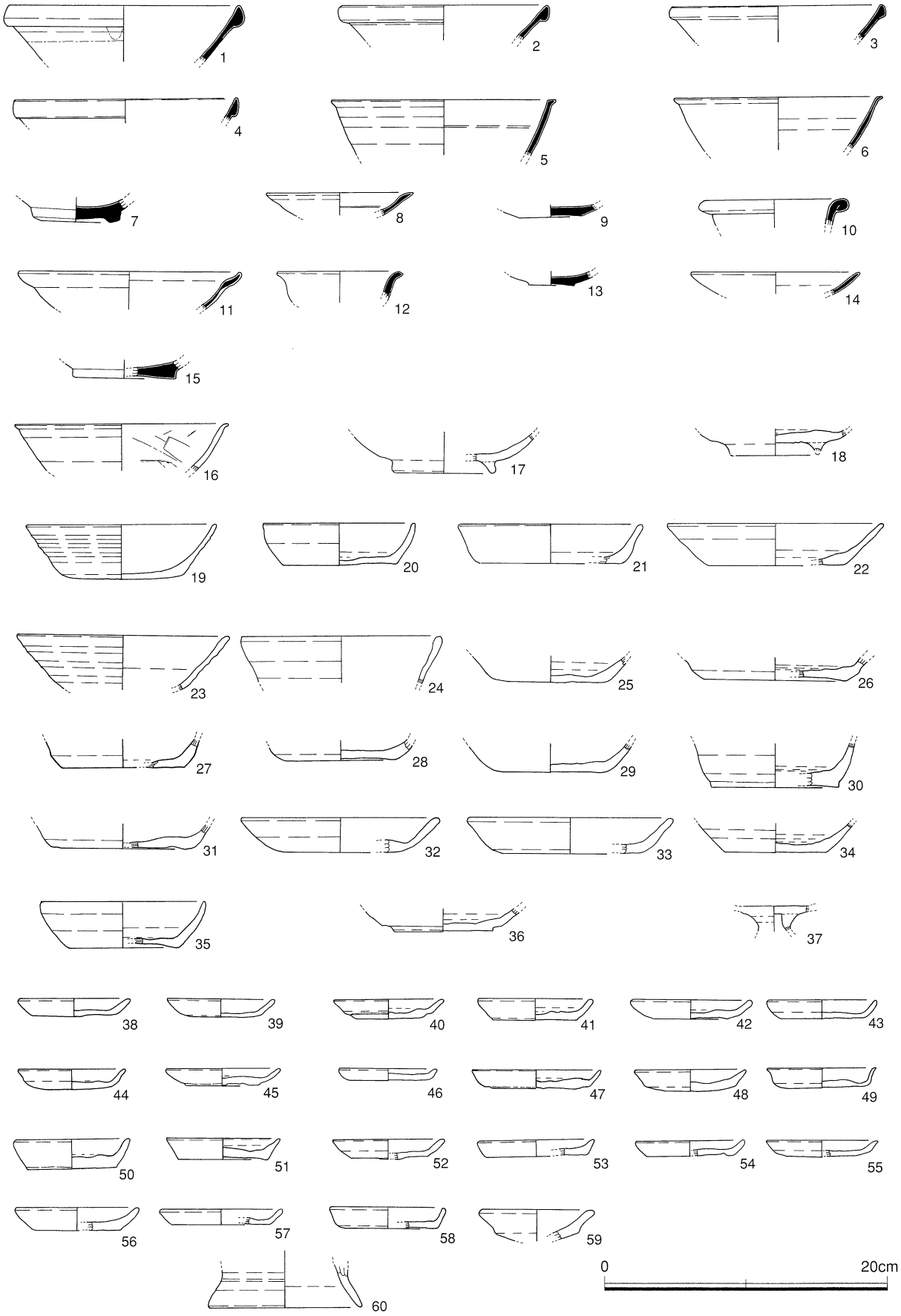
SX1037

C～E－12・13、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

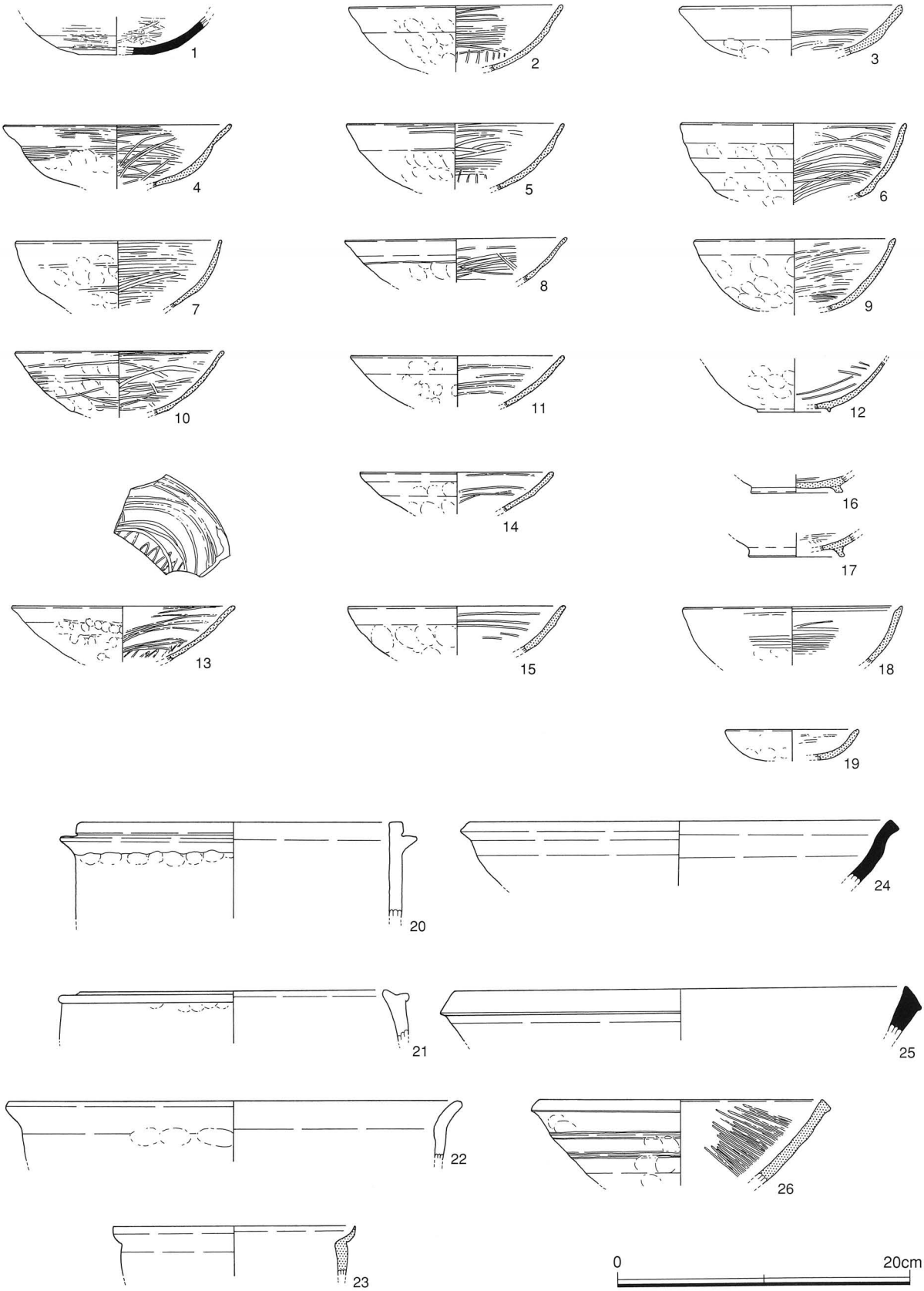
出土遺物（第76図）

出土遺物は土師質土器・瓦器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器は椀・皿・鉢が出土している。完形品はなく、いずれも小片である。椀・皿はほとんどが和泉系であり、時期的には尾上分類のⅡ－３～Ⅲ－１期に収まるものと思われる。17は瓦質土器の鉢である。内外面を密にヘラミガキが施される。

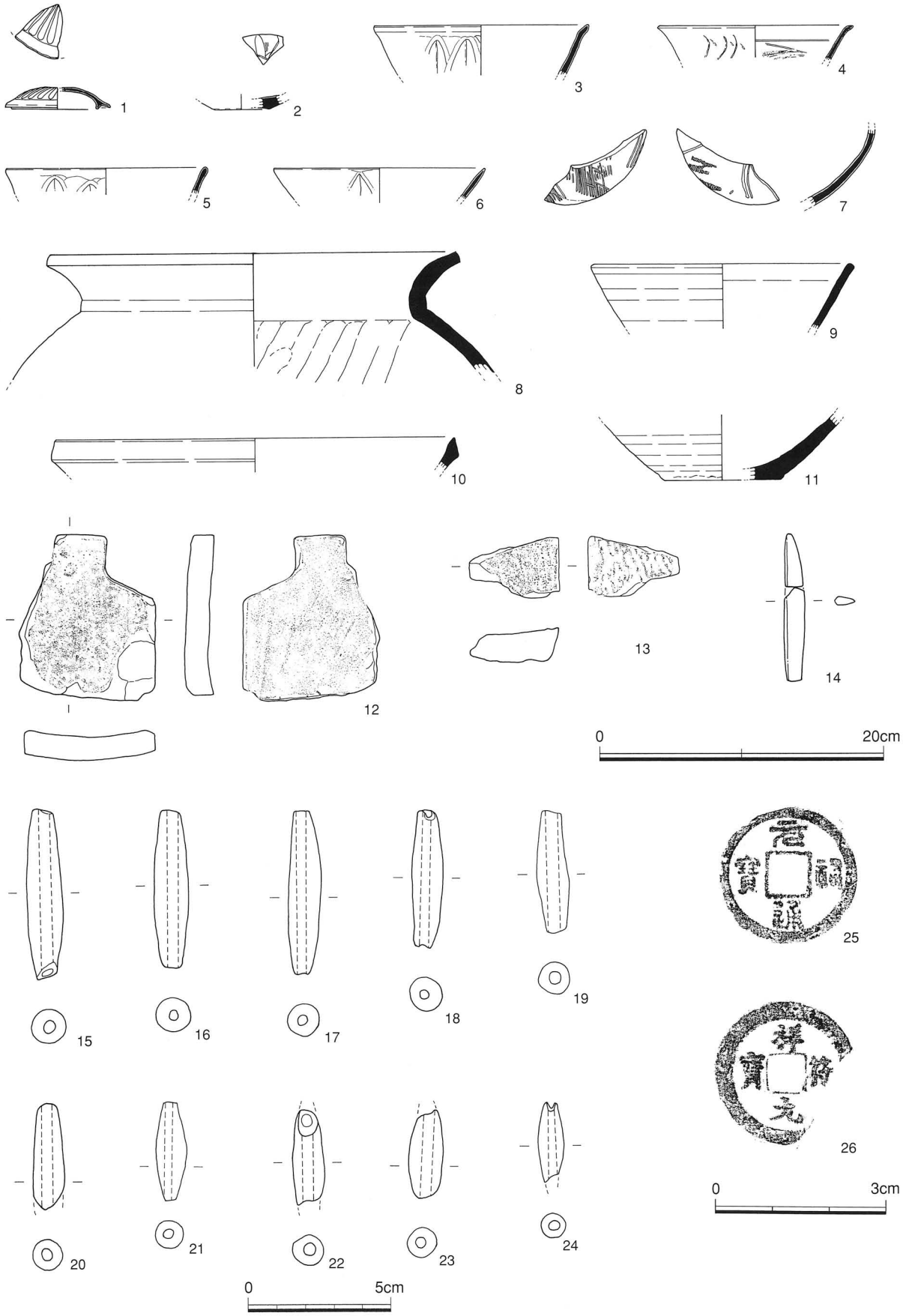
土師質土器は杯・皿・小皿が出土している。完形品はない。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りが混在する。



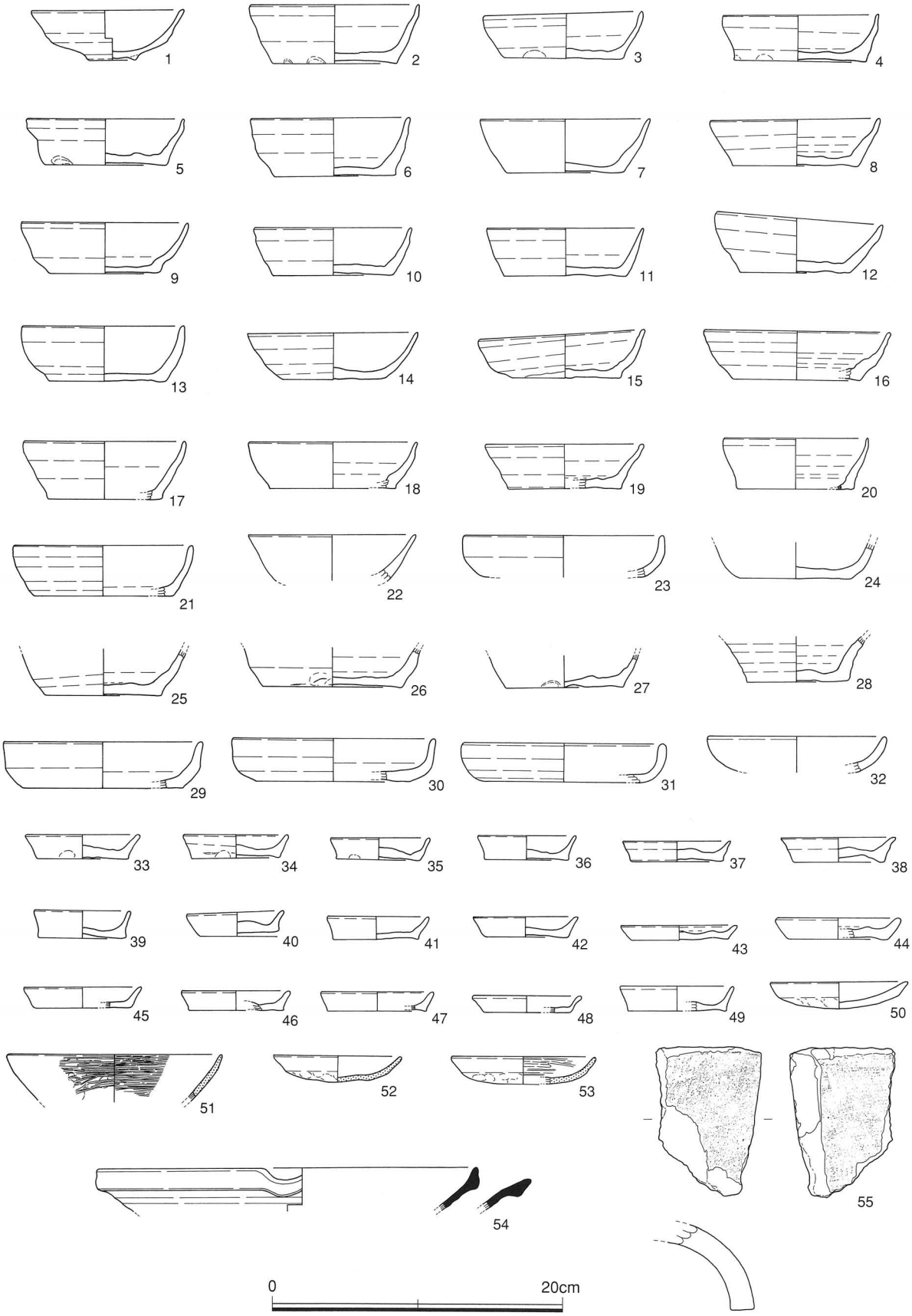
第72図　SX1034出土遺物１



第73図　SX1034出土遺物 2



第74図　SX1034出土遺物 3



第75図　SX1035出土遺物

SX1038

D・E－12・13、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第77図）

出土遺物は土師質土器が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは2点のみであった。1は土師器小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SX1039

E・F－12・13、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第77図）

出土遺物は土師質土器等が多数出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は須恵質土器の壺底部と思われる。4は東播系と思われる須恵質の鉢である。口縁端部の肥厚は小さく、四角く収める。

SX1040

M～O－30～32、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第77図）

出土遺物は土師質土器杯・皿・釜・鍋の他、瓦器・黒色土器などが出土しているが、いずれも小片である。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。14は瓦器椀と思われるが、須恵質の硬質な焼成となっている。外面はヨコナデによる段が目立ち、在地あるいは西村系の椀であると思われる。17は石鍋転用と思われる滑石製の温石である。外面は鑿痕が顕著である。

SX1041

D～F－16・17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第77図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。19・20は和泉系の瓦器小皿である。

SX1042

E・F－12・13、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第78図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器は杯・皿類が出土している。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。

SX1043

E・F－16・17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第78図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・輸入磁器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器は杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りがみられる。瓦器は和泉系の搬入品である。

SX1045

G・H－14～17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第79図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・輸入磁器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器は小皿類が目立つ。底部の切り離しは回転糸切りである。

SX1046

P・Q・R－29～31)、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第79図）

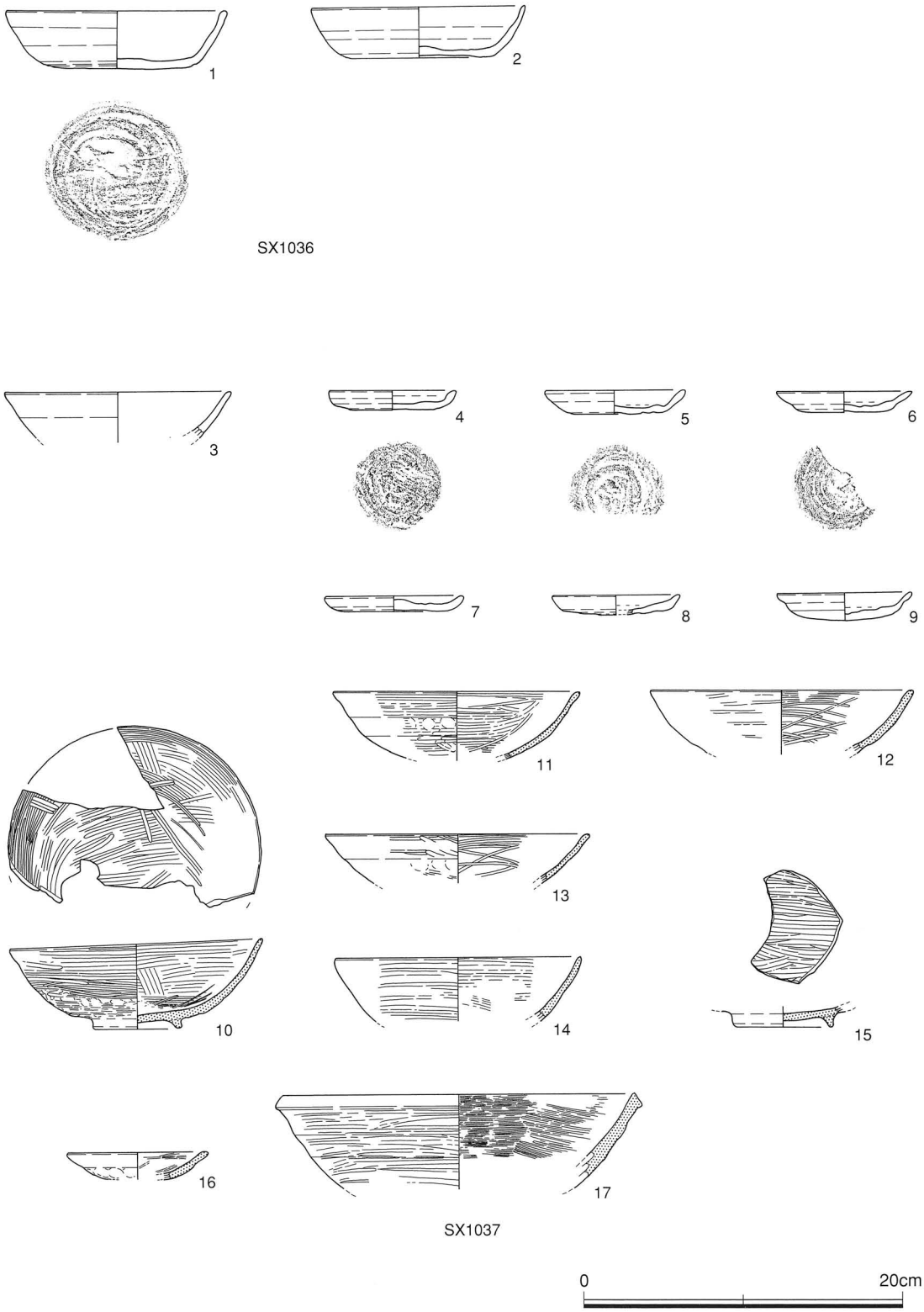
出土遺物は土師質土器杯・皿類が多いが、いずれも小片である。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。形態的には体部が直立気味に上方に延びるものが主体となっている。

SX1047

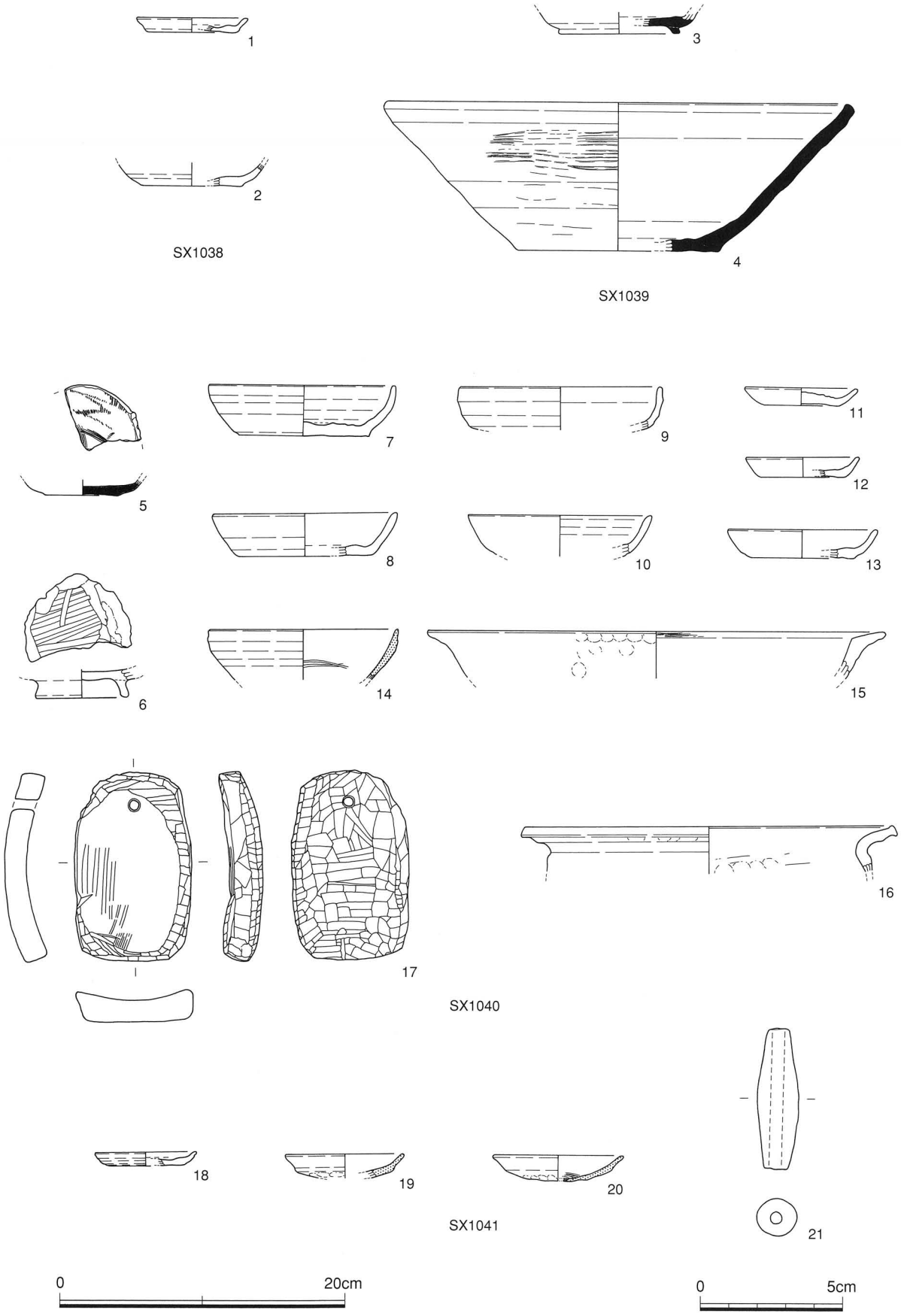
M・N－23（Q・R－30・31)、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から室町時代以降のものと考えられる。

出土遺物（第79図）

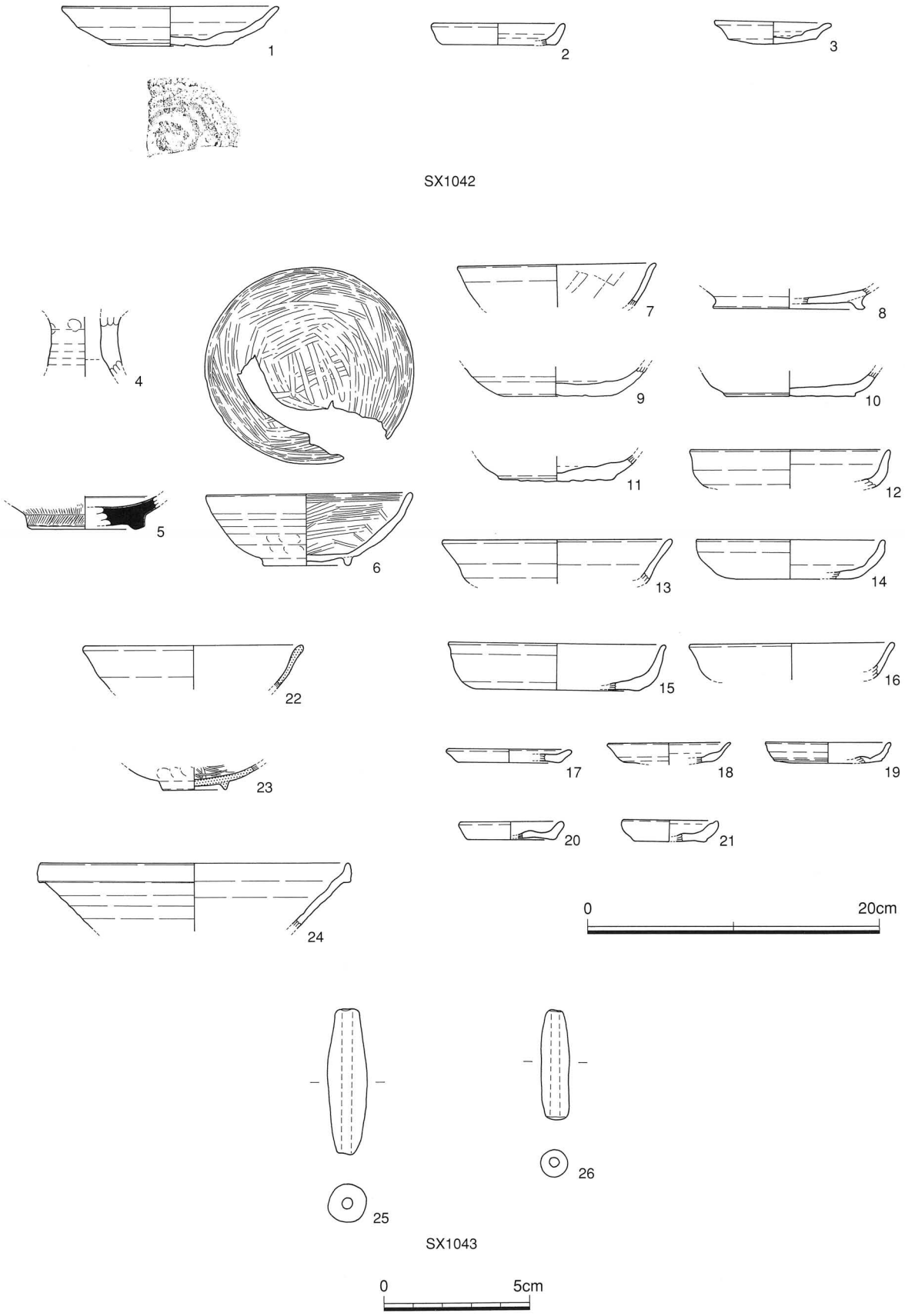
土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。37は和泉系の瓦器小皿である。



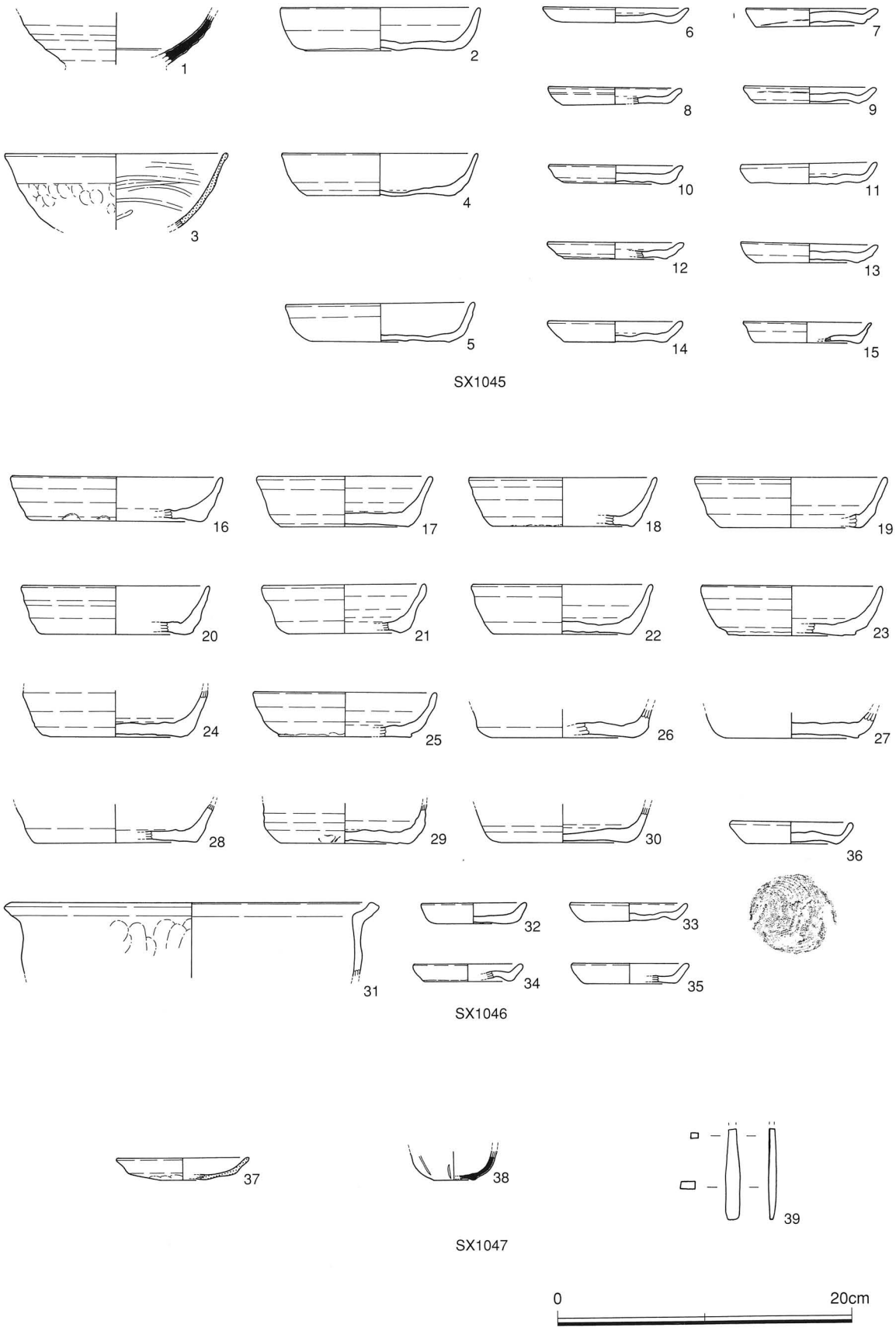
第76図　SX 出土遺物（1036・1037）



第77図　SX 出土遺物（1038・1039・1040・1041）



第78図　SX 出土遺物（1042・1043）



第79図　SX 出土遺物（1045・1046・1047）